

# Intel Unite® V3.2 ソリューション構築ガイド

## 目次

Intel Unite® ソリューションのマニュアル .....	1
Intel Unite® ソリューションをお使いになる前に.....	1
マニュアルの表記 .....	1
<b>Intel Unite ソリューションのインストール概要.....</b>	<b>2</b>
エンタープライズ・モード .....	2
スモールビジネス・モード .....	3
<b>エンタープライズ・モードでのインストール .....</b>	<b>4</b>
エンタープライズ・サーバーのインストール.....	4
● コンピューター名を設定する .....	4
● IP アドレスを固定する .....	6
● Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を有効にする ..	8
● ドメインのセットアップ .....	14
● DNS の設定 .....	20
● DHCP サーバーの設定 .....	24
● 証明機関を設定する .....	35
● Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を構成する ...	44
● SQL Server のインストール.....	49
● Intel Unite エンタープライズ・サーバーをインストールする .....	53
● 正常にインストールされたことを確認する .....	55
● 電子メールサーバーの設定 .....	60
● Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成 .....	61
Unite ハブのインストール.....	63
● ハブ PC (Q956/MRE) のセットアップ.....	63
● 証明書のインストール.....	64
● Intel Unite ハブ アプリケーションのインストール .....	68
● ファイアウォールの設定 .....	73
● Intel Unite アプリケーション (ハブ) の起動。 .....	76
Unite クライアントのインストール .....	78

# Intel Unite® ソリューションのマニュアル


本書では、エンタープライズ・モードでお使いになる場合の導入手順を、画面入りで説明しています。

本書のほかに、ダウンロードサイトに次のマニュアルが用意されています。用途に応じてご利用ください。

- ・ Intel Unite ソリューション V3.2 エンタープライズ導入ガイド.pdf
- ・ Intel Unite ソリューション V3.2 スモールビジネスユーザーガイド.pdf
- ・ Intel Unite ソリューション V3.2 ユーザーガイド.pdf

## Intel Unite® ソリューションをお使いになる前に

Intel Unite®ソリューションをご使用中に省電力モードにならないよう、ハブ PC となる本装置（Q956/MRE）を次のように設定してください。本書の手順の中でも説明しています。

**1** （スタート）→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。

**2** 「バランス」の「プラン設定の変更」をクリックします。

次のように設定します。

- ・ ディスプレイの電源を切る：適用しない
- ・ コンピューターをスリープ状態にする：適用しない

**3** 「変更の保存」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

## マニュアルの表記

このマニュアルの内容は、2018 年 3 月現在のものです。

### ■ 画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種や環境によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

### ■ 製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Intel Unite®	Intel Unite

### ■ 商標および著作権について

インテル、Intel および Intel Unite は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2018

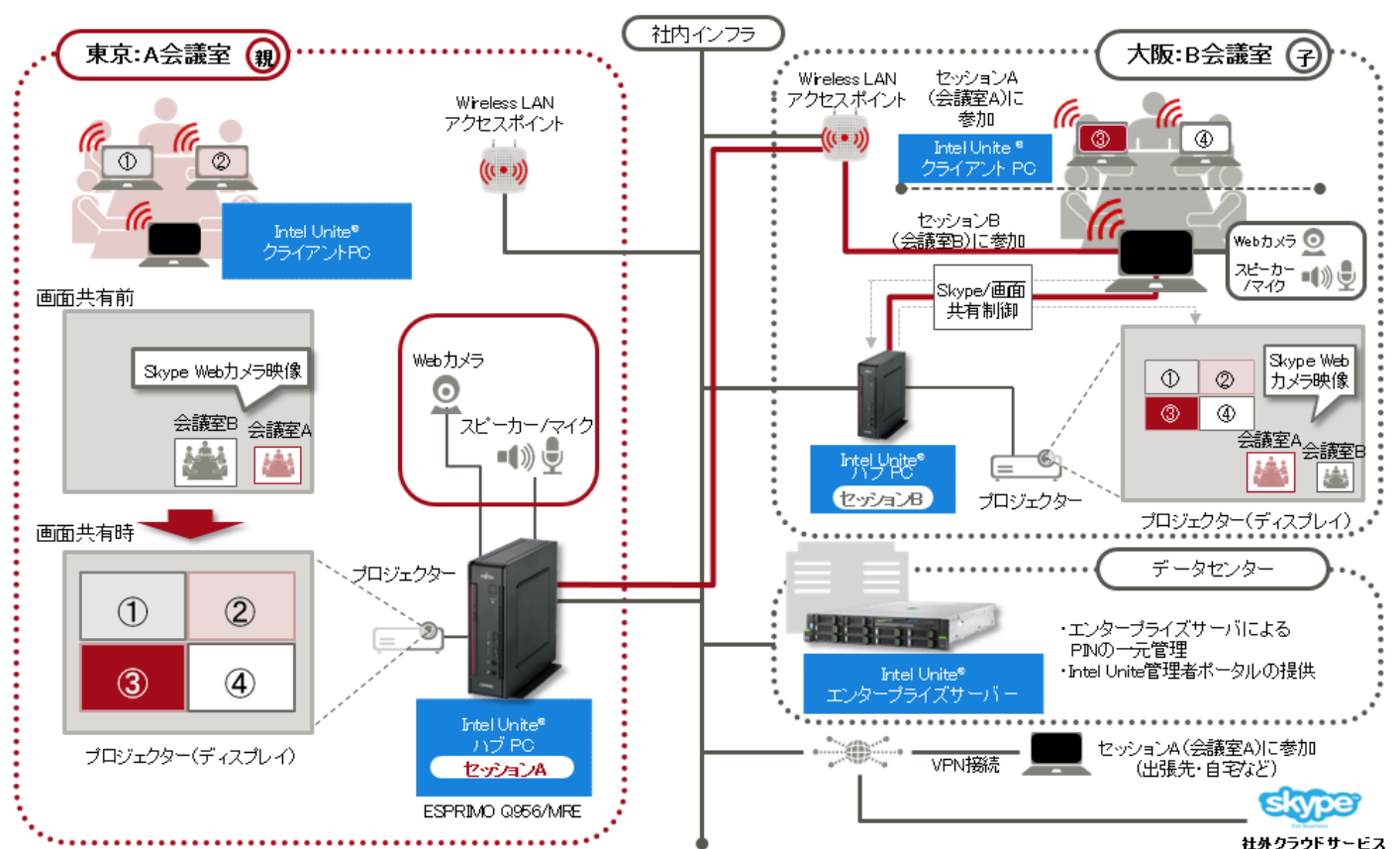
# Intel Unite ソリューションのインストール概要

Intel Unite ソリューションには、次の2通りのインストール方法があります。  
本書では、主に「エンタープライズ・モード」での導入手順をご案内しています。

## エンタープライズ・モード

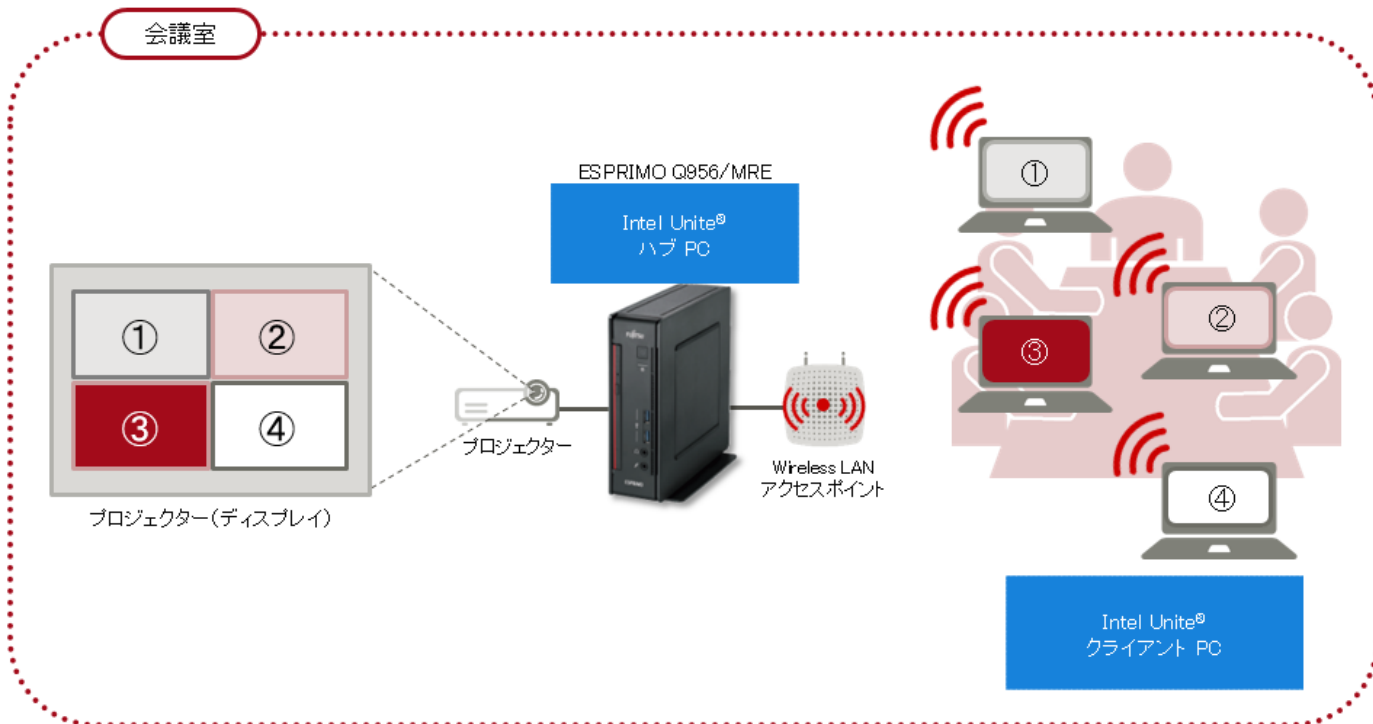
複数の会議室や別のオフィスなどから資料を共有し、オンライン会議を行うことができます。  
Microsoft Windows Server 2008 以降、Microsoft SQL Server 2008 R2 以降（Express 版を除く）が稼働する Web サーバーが必要になります。

遠隔地とのオンライン会議を行う場合、別途音声会議システム等を利用する必要があります。  
次の図は、Skype for Business プラグインを利用し、Skype 会議と連携する場合の構成例になります。



## スモールビジネス・モード

1つの会議室で資料を共有しながら会議を行うことができます。  
スモールビジネス・モードでインストールする方法については、『Intel Unite ソリューション V3.2  
スモールビジネスユーザーガイド.pdf』をご覧ください。





# エンタープライズ・モードでのインストール

エンタープライズ・モードでお使いになる場合は、次の順序でインストールを実施します。

- ・エンタープライズ・サーバーのインストール
- ・Unite ハブのインストール
- ・Unite クライアントのインストール

本書では、操作手順を中心に説明しています。システム要件や注意事項などは、『Intel Unite ソリューション V3.2 エンタープライズ導入ガイド.pdf』をご覧ください。


## 重要

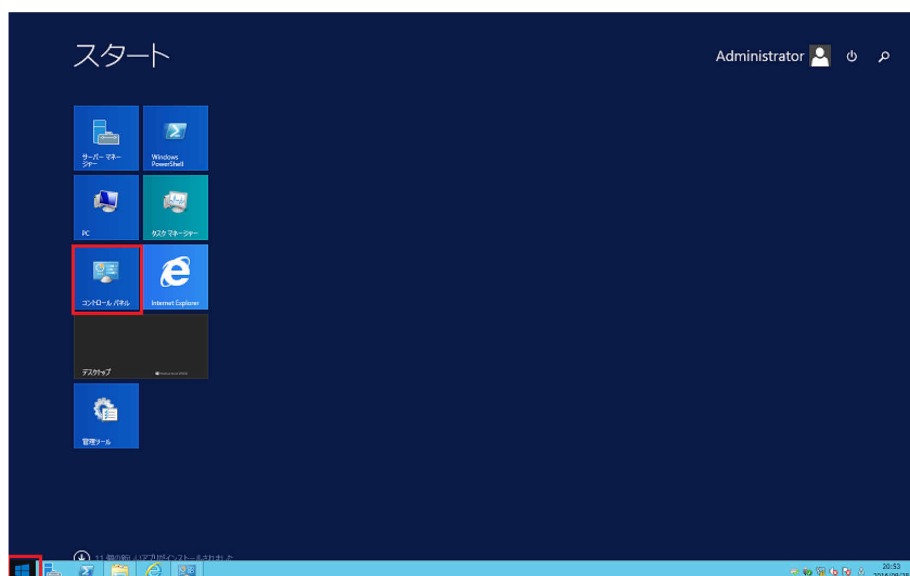
- ・本書の手順で使用しているサーバー名やドメイン名などは説明のための一例です。お使いの環境に合わせて変更してください。そのまま入力した場合、正しく動作しません。
- ・お使いの環境により必要な設定が異なります。環境に合わせて設定してください。

## エンタープライズ・サーバーのインストール

ここでは、Windows Server 2012 R2 Standard での設定を例に、インストールの手順を説明します。

### ● コンピューター名を設定する

- 1  (スタート) をクリックし、「コントロール パネル」をクリックします。



「コントロールパネル」が開きます。

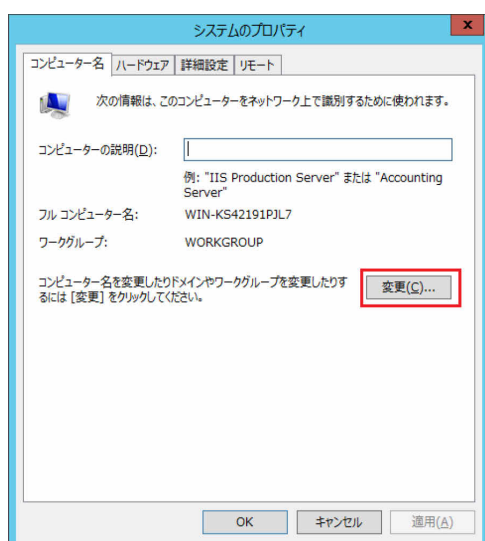
## 2 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。



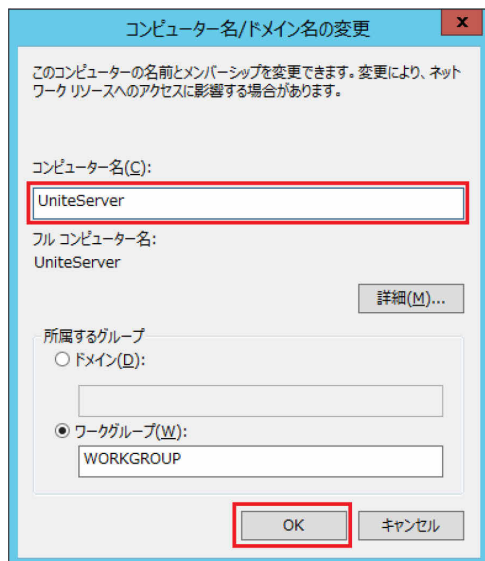
## 3 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「設定の変更」をクリックします。



## 4 「変更」をクリックします。




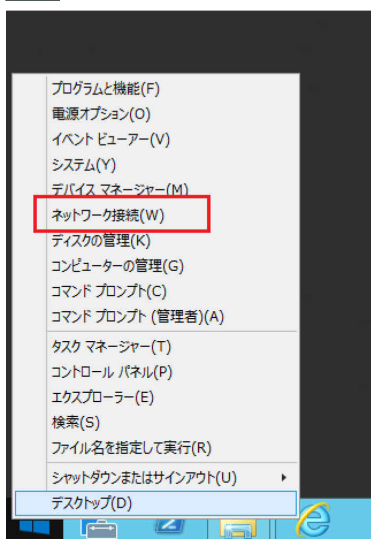
- 5 「コンピューター名」に、エンタープライズ・サーバー用の名前（この例では“UniteServer”）を入力し、「OK」をクリックします。



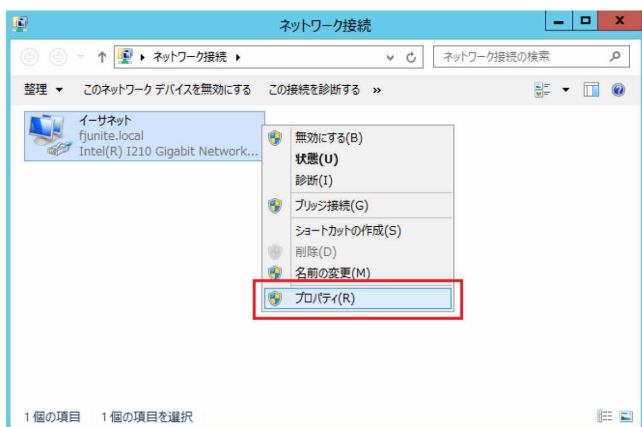
- 6 再起動を要求されますので、「システムのプロパティ」を閉じ、再起動を実行します。

- IP アドレスを固定する

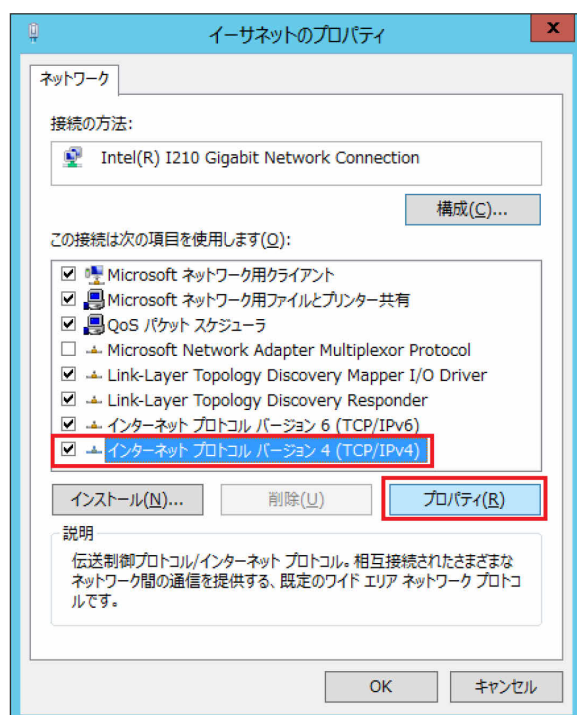
- 1  (スタート) を右クリックし、「ネットワーク接続」をクリックします。



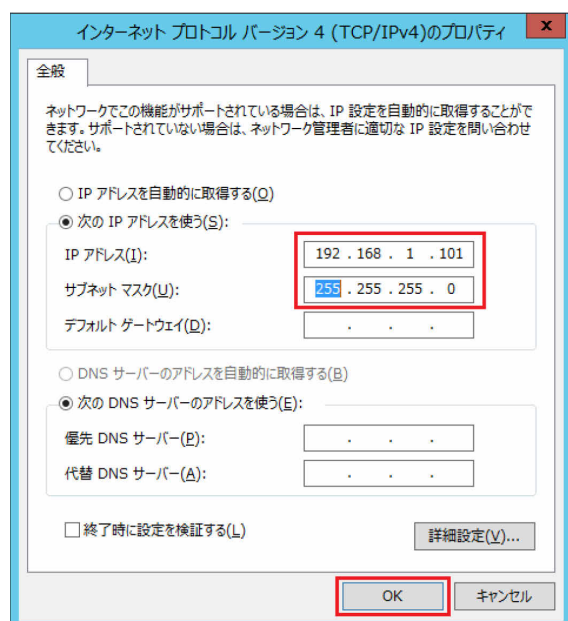
- 2 使用するネットワークデバイスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



- 3 「インターネット プロトкол バージョン 4 (TCP/IPv4)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。



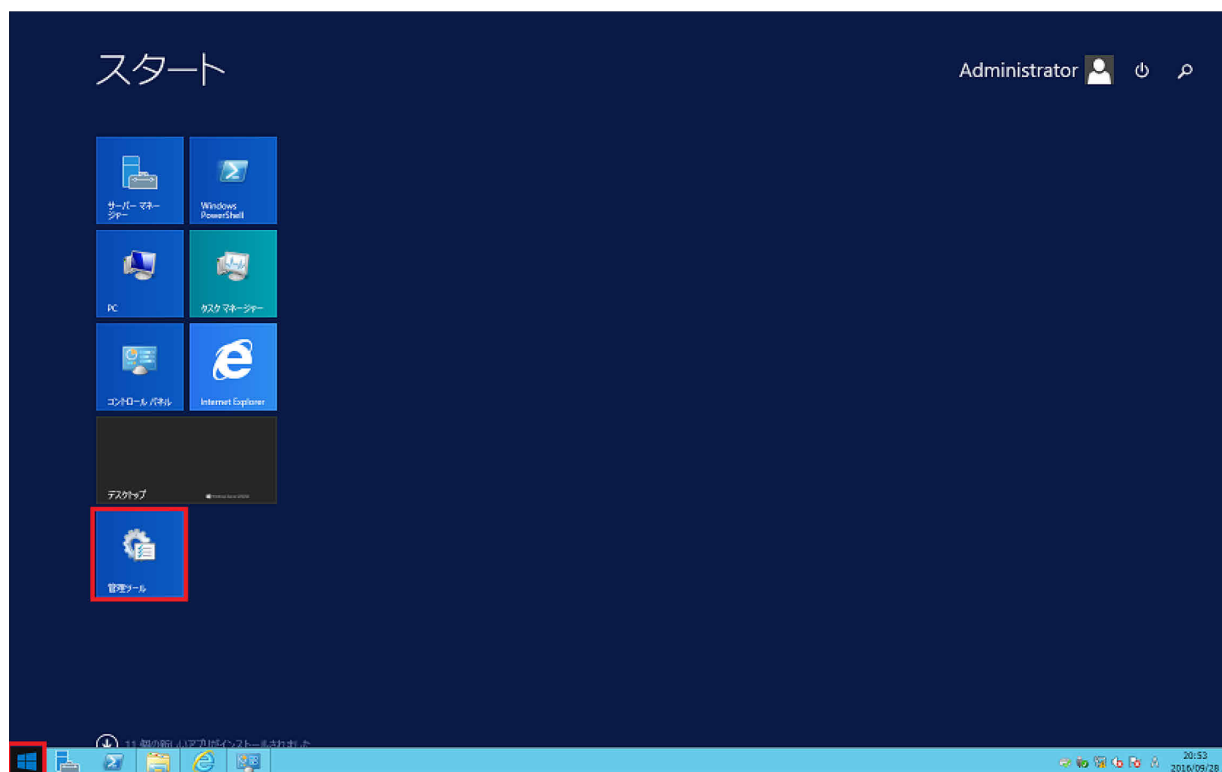
- 4 「次の IP アドレスを使う」の○をクリックして●にし、IP アドレス、サブネットマスクを設定し（この例では 192.168.1.101、255.255.255.0）、「OK」をクリックします。



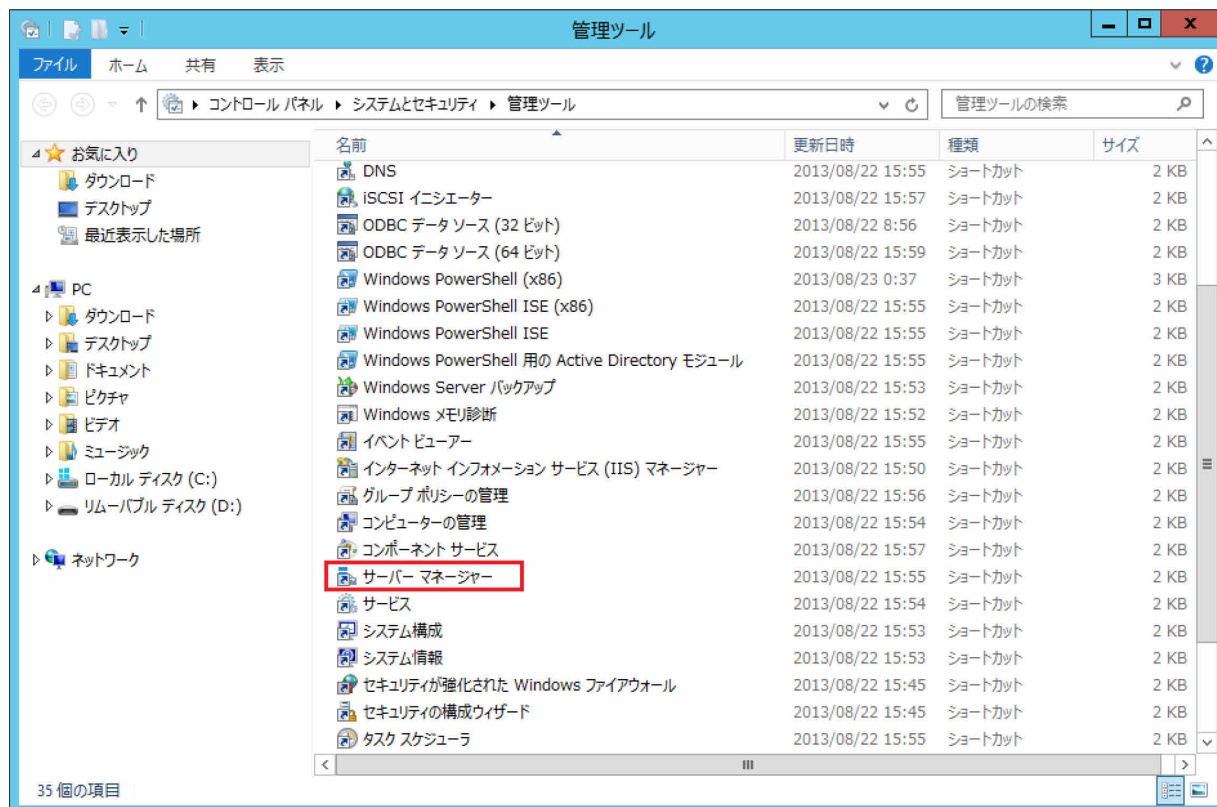
- Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を有効にする  
Windows Server 2008 の場合は、事前に .NET Framework 4.5 の更新プログラムをダウンロードし、適用する必要があります。

(<https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=40779>)

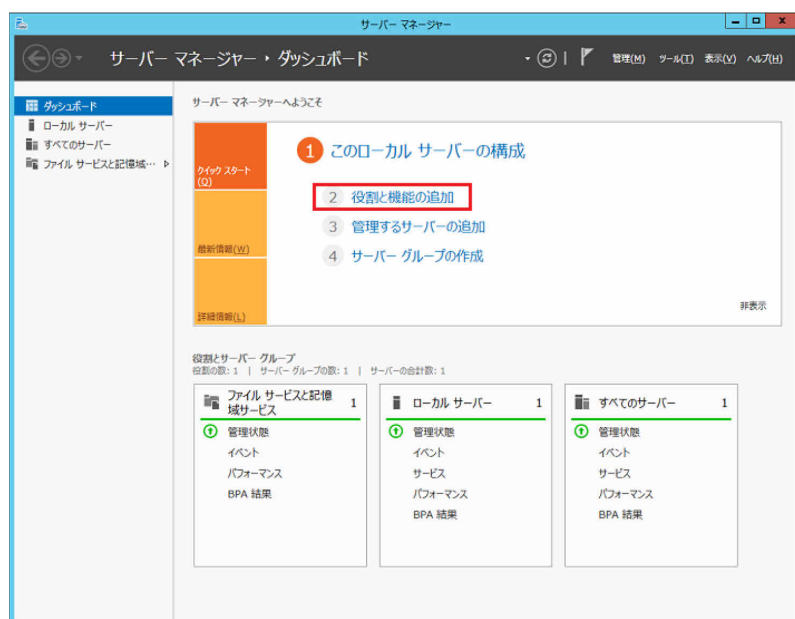
- 1  (スタート) をクリックし、「管理ツール」をクリックします。



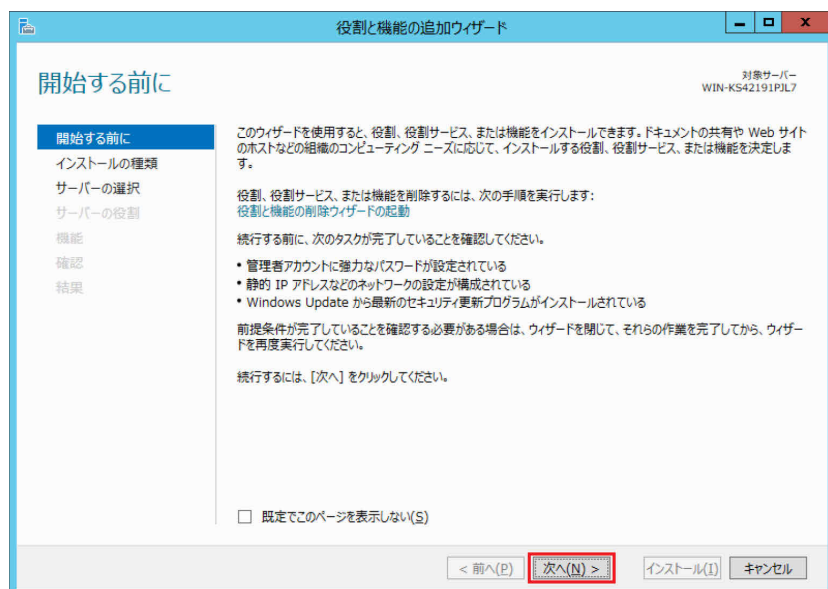
- 2 「サーバー マネージャー」をダブルクリックします。



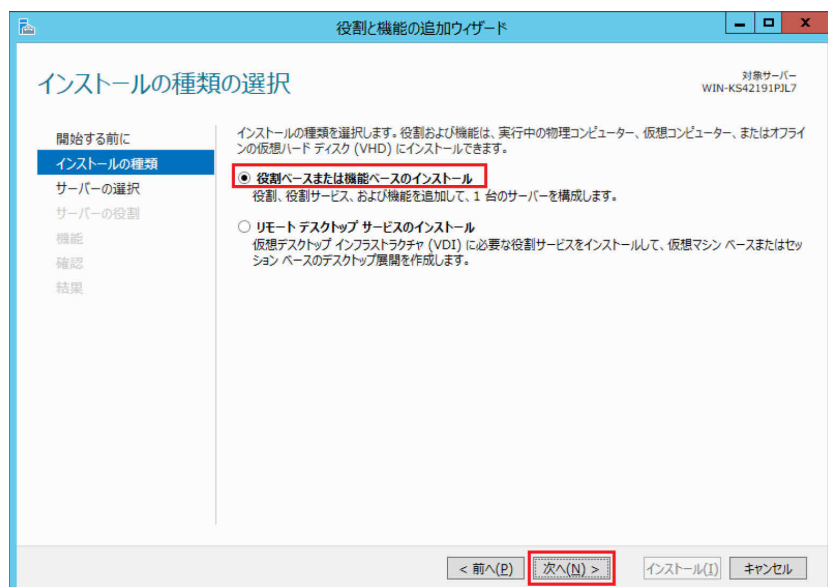
### 3 「役割と機能の追加」をクリックします。



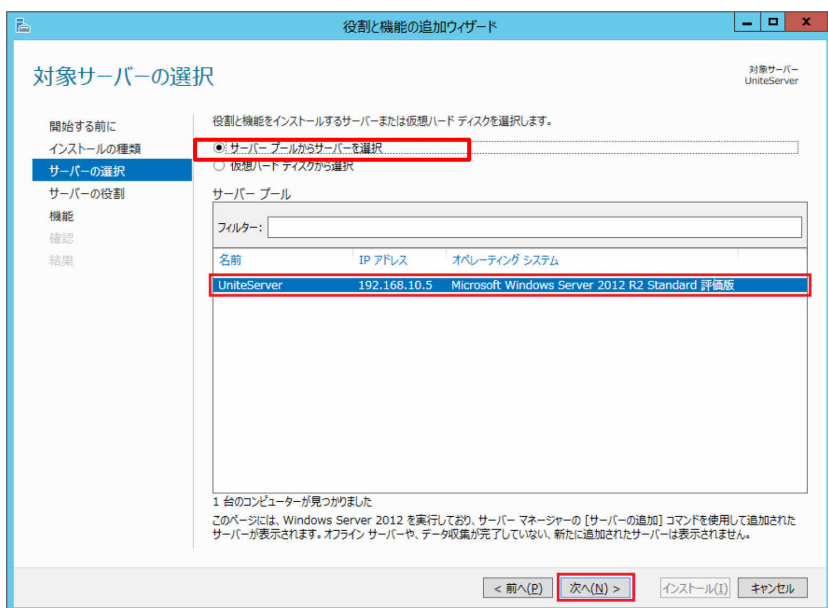
### 4 「役割と機能の追加ウィザード（開始する前に）」画面で、「次へ」をクリックします。



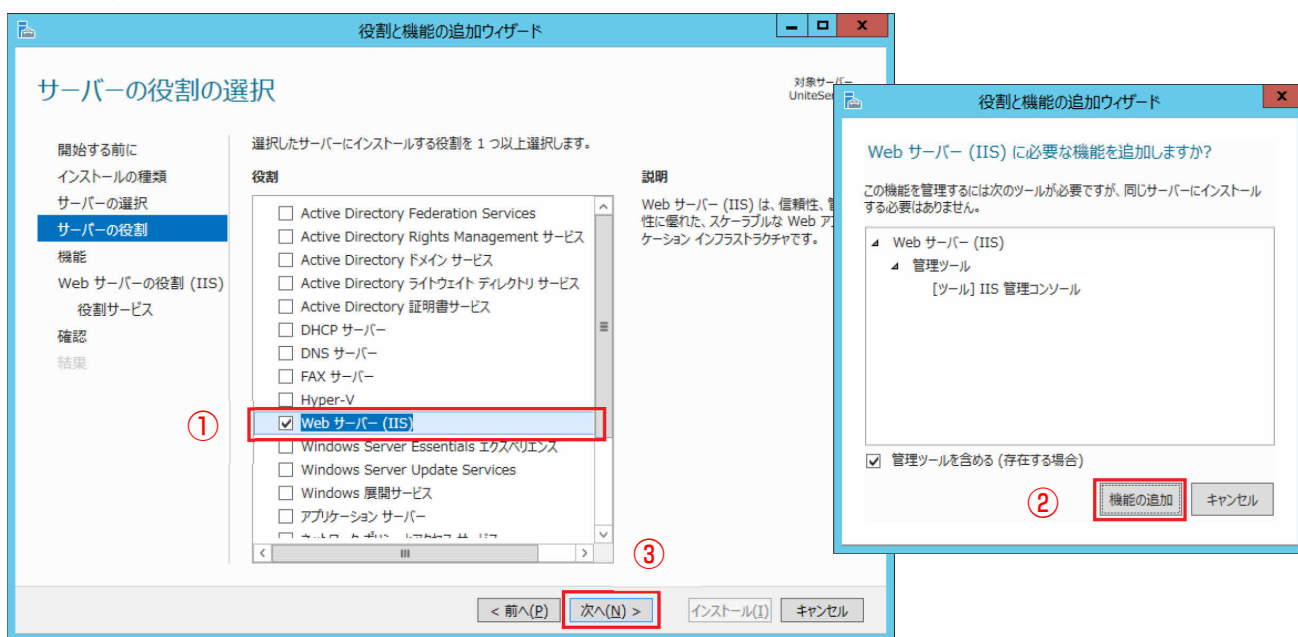
### 5 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」をクリックし、「次へ」をクリックします



- 6 「サーバープールからサーバーを選択」をクリックし、サーバープールの欄からサーバーをクリックし、「次へ」をクリックします。



- 7 ①「Web サーバー (IIS)」をクリックすると、「役割と機能の追加ウィザード」が表示されるので、②「機能の追加」をクリックします。「サーバーの役割の選択」画面に戻ったら③「次へ」をクリックします。



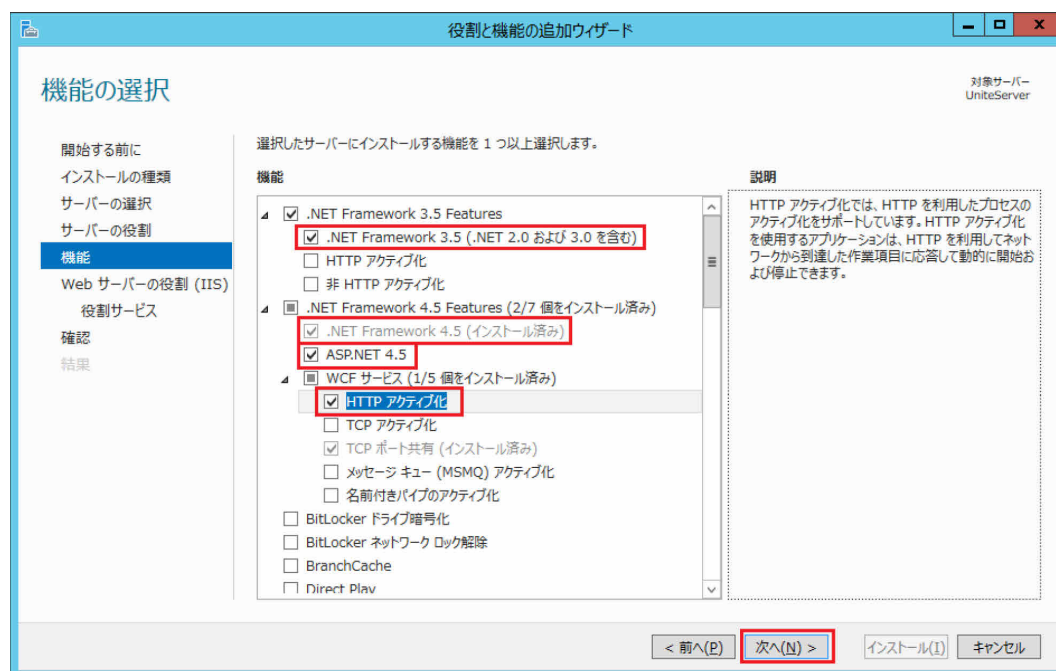


## 8 次の項目をクリックして選択します。

- .NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)
- .NET Framework 4.5
- ASP.NET 4.5
- HTTP アクティビ化 (WCF サービス下)

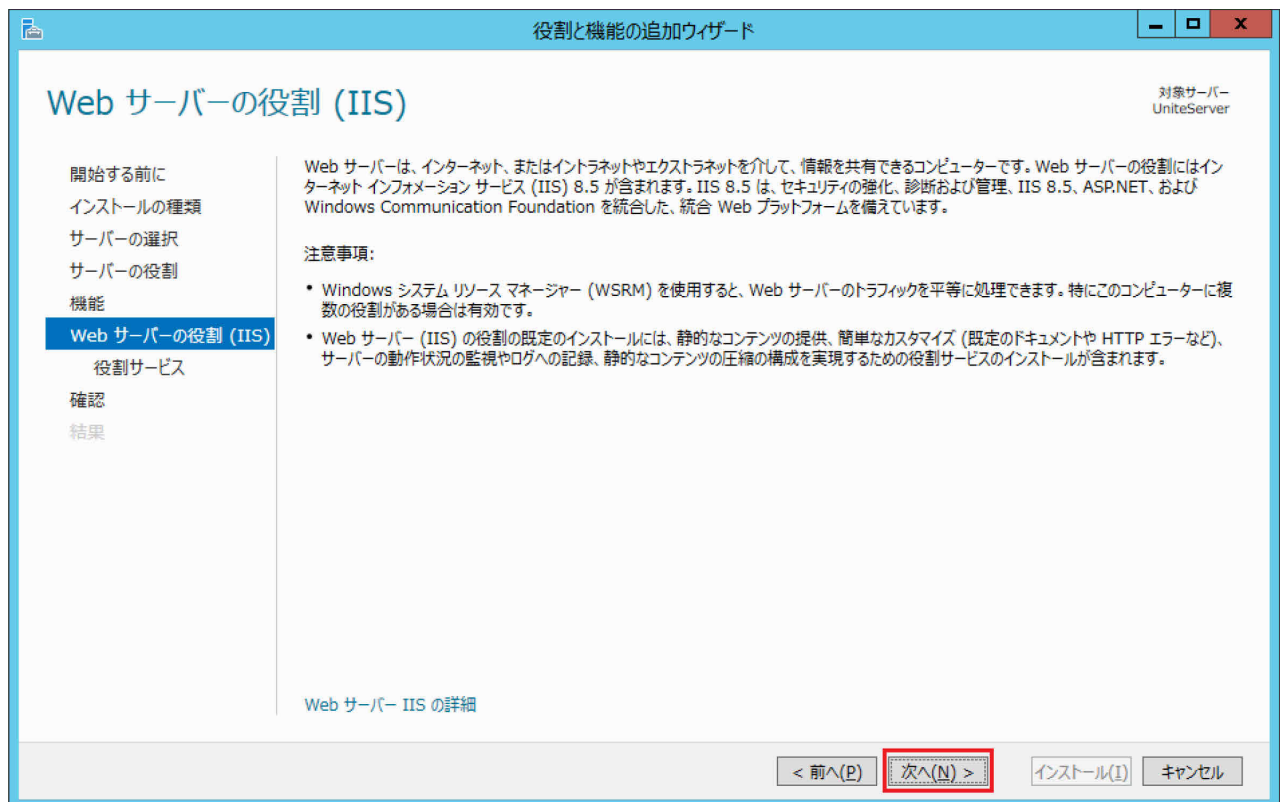
選択時に「役割と機能の追加ウィザード」が表示された場合は、「機能の追加」をクリックします (インストール済みのものは操作不要です)。

最後に「次へ」をクリックします。



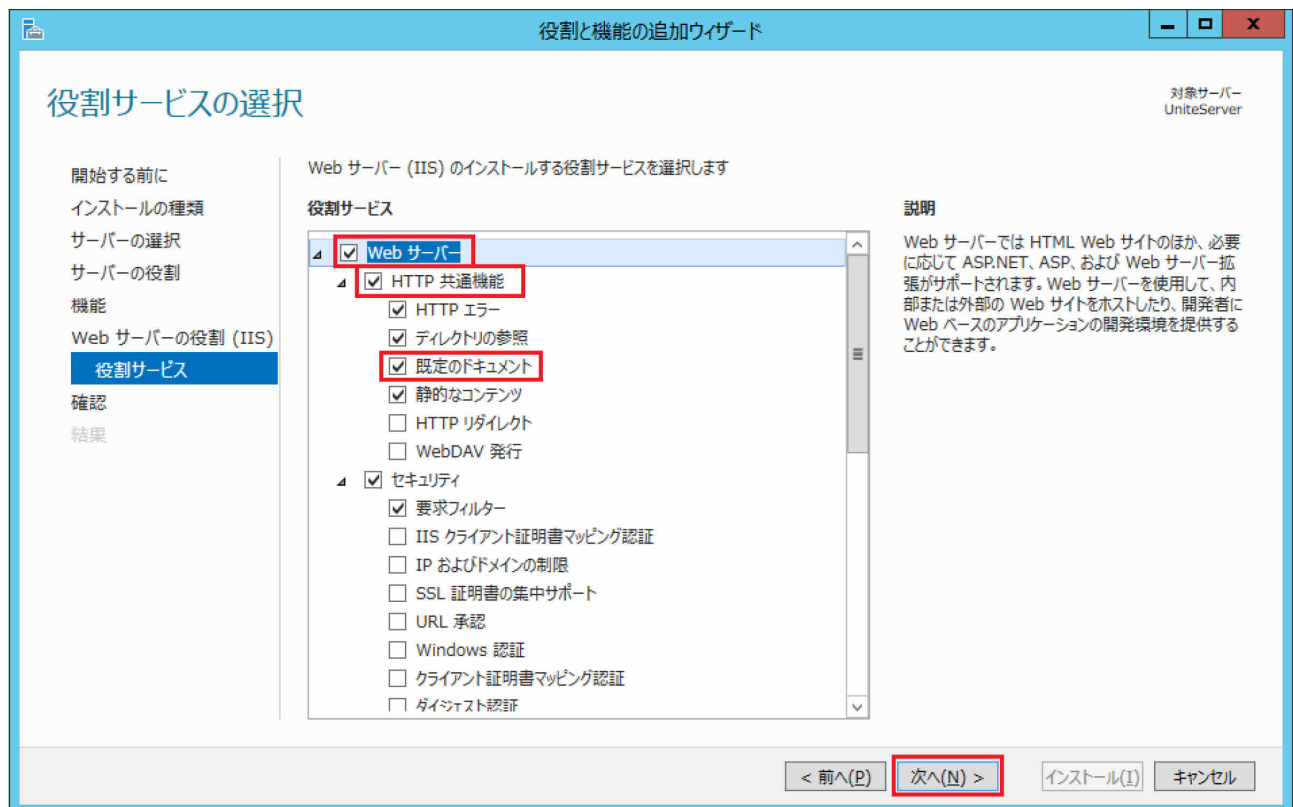


## 9 「Web サーバーの役割 (IIS)」画面で「次へ」をクリックします。



## 10 次の項目を選択し、最後に「次へ」をクリックします（選択済みのものは操作不要です）。

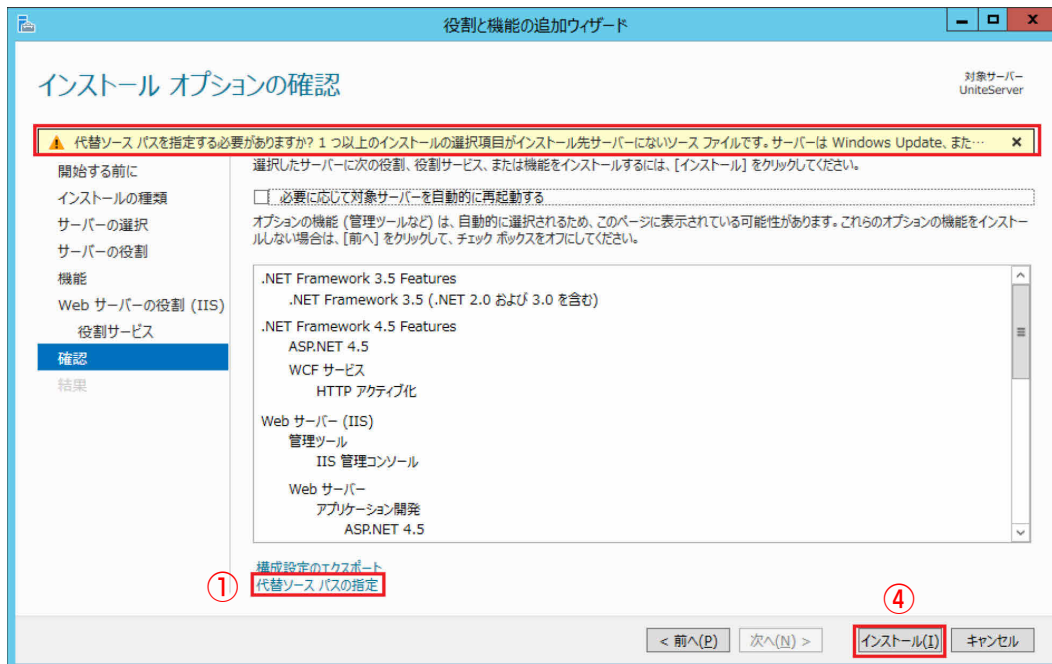
- Web サーバー
- HTTP 共通機能
- 既定のドキュメント



**11** Windows Update へのアクセスができない環境では「代替ソースパスを指定する必要がありますか?」と表示される場合があります。この場合は、①「代替ソース パスの指定」をクリックし、②「代替ソース パスの指定」の「パス:」に Windows Server OS のインストールメディア上の” e:¥sources¥sxs” を指定し、③「OK」をクリックします。

(e:の部分は、メディアがセットされたドライブ名に変更します。)


最後に、④「インストール」をクリックします。

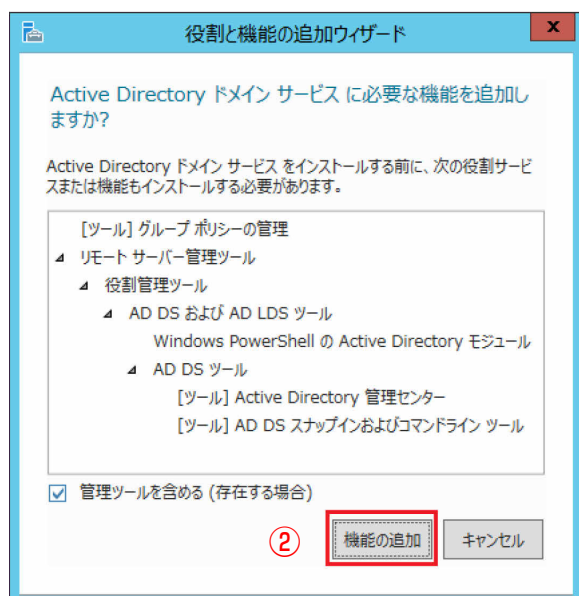
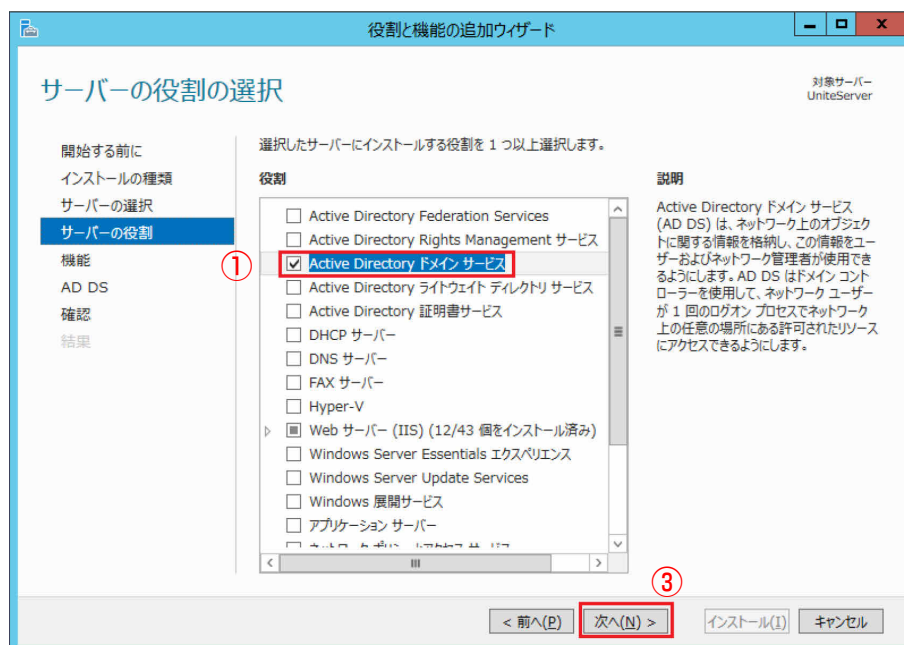


機能のインストールが実行されます。

**12** インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

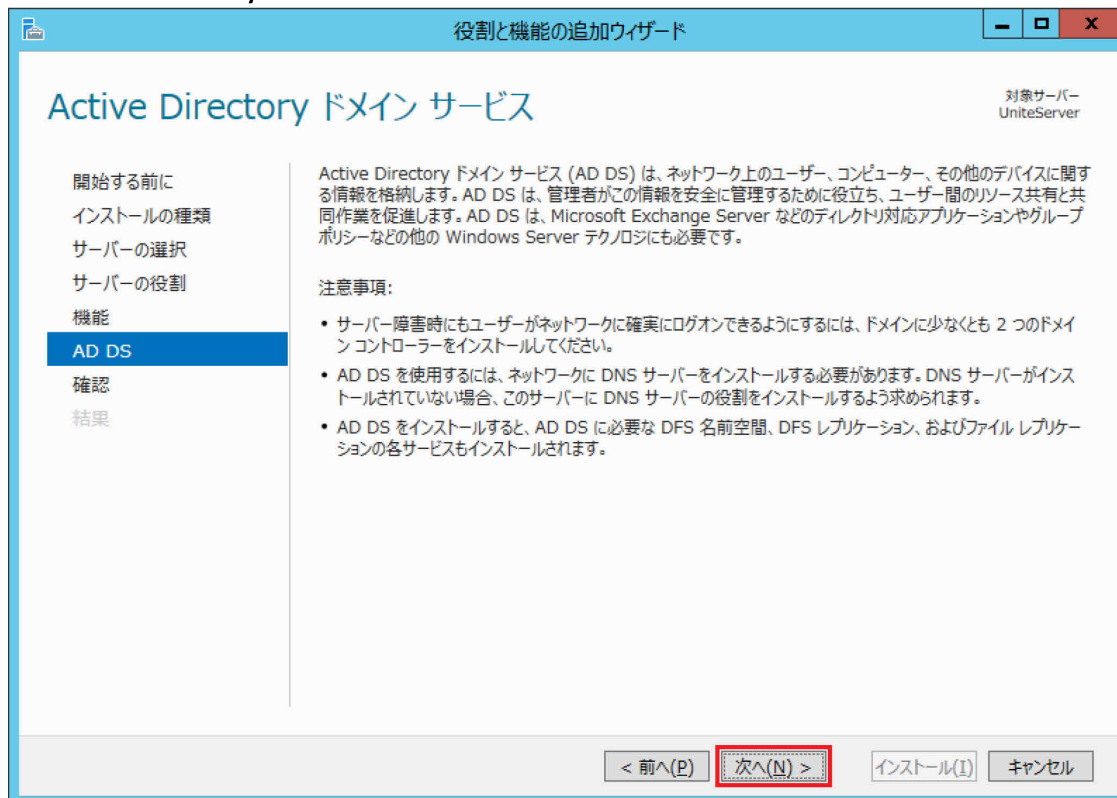
## ● ドメインのセットアップ

- 1  (スタート) → 「管理ツール」の順にクリックし、「サーバー マネージャー」をダブルクリックします。
- 2 「役割と機能の追加」をクリックします。  
「役割と機能の追加ウィザード (開始する前に)」が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 5 「サーバープールからサーバーを選択」をクリックし、サーバープールの欄からサーバーをクリックし、「次へ」をクリックします。
- 6 ① 「Active Directory ドメイン サービス」をクリックし、「役割と機能の追加ウィザード」が表示されたら② 「機能の追加」をクリックし、③ 「サーバーの役割の選択」の画面で[次へ]をクリックします。

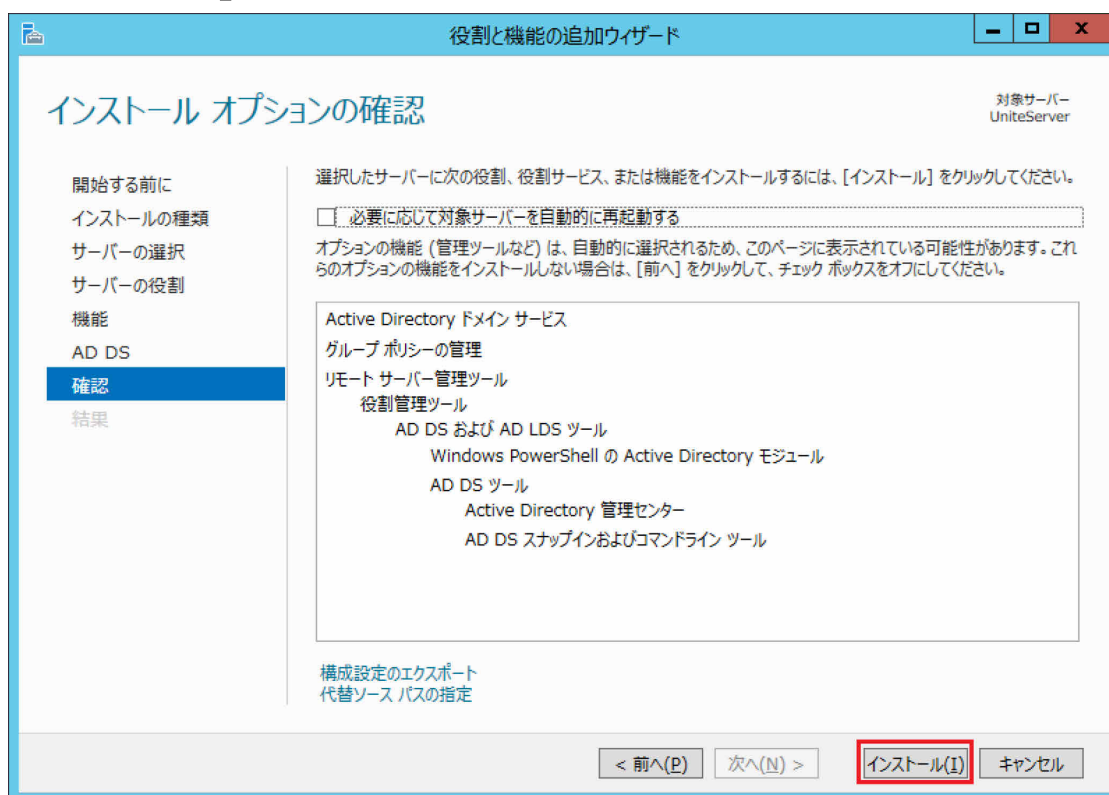


7 「機能の選択」画面で「次へ」をクリックします。

8 「Active Directory ドメイン サービス」画面で「次へ」をクリックします。

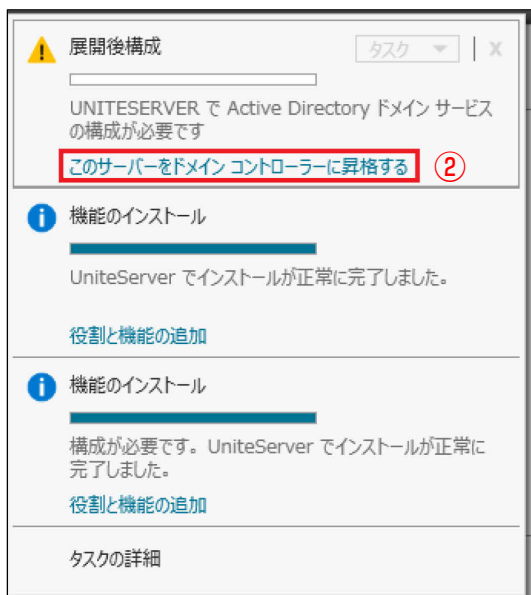
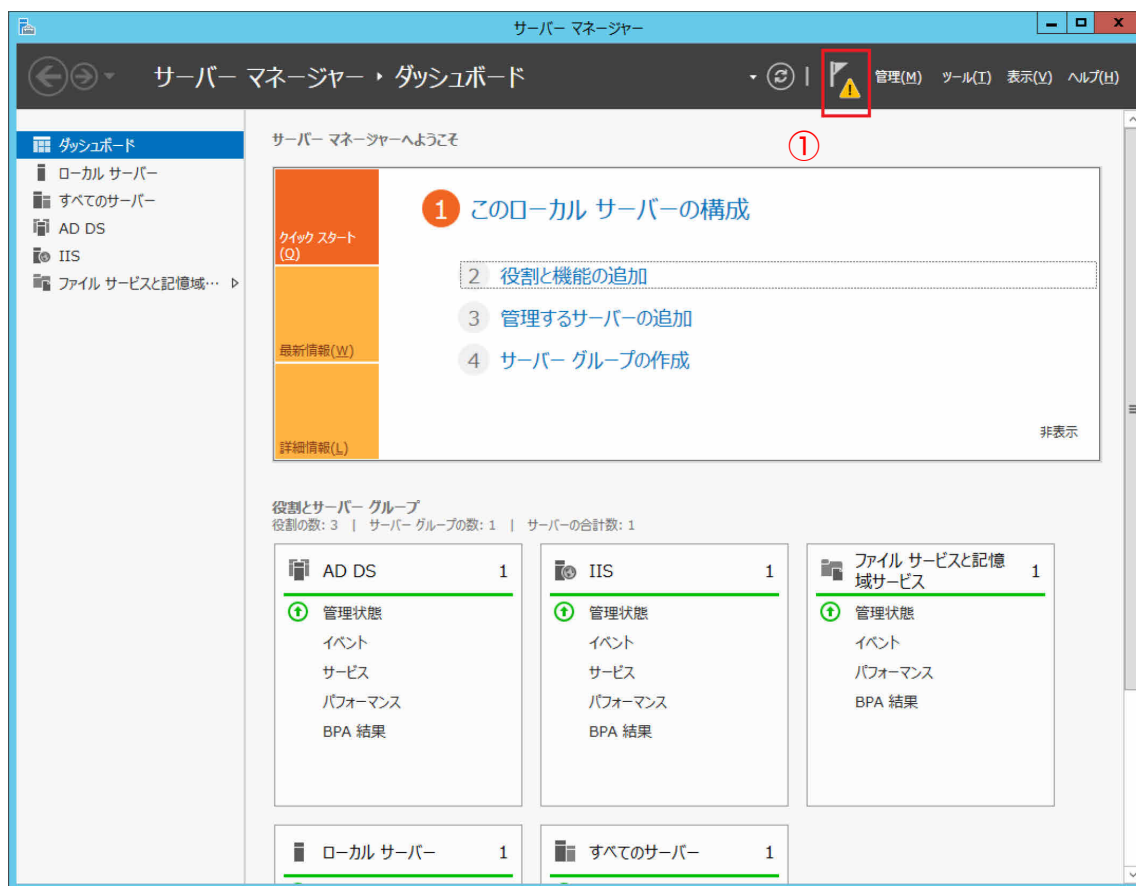


9 「インストール」をクリックすると、機能のインストールが始まります。



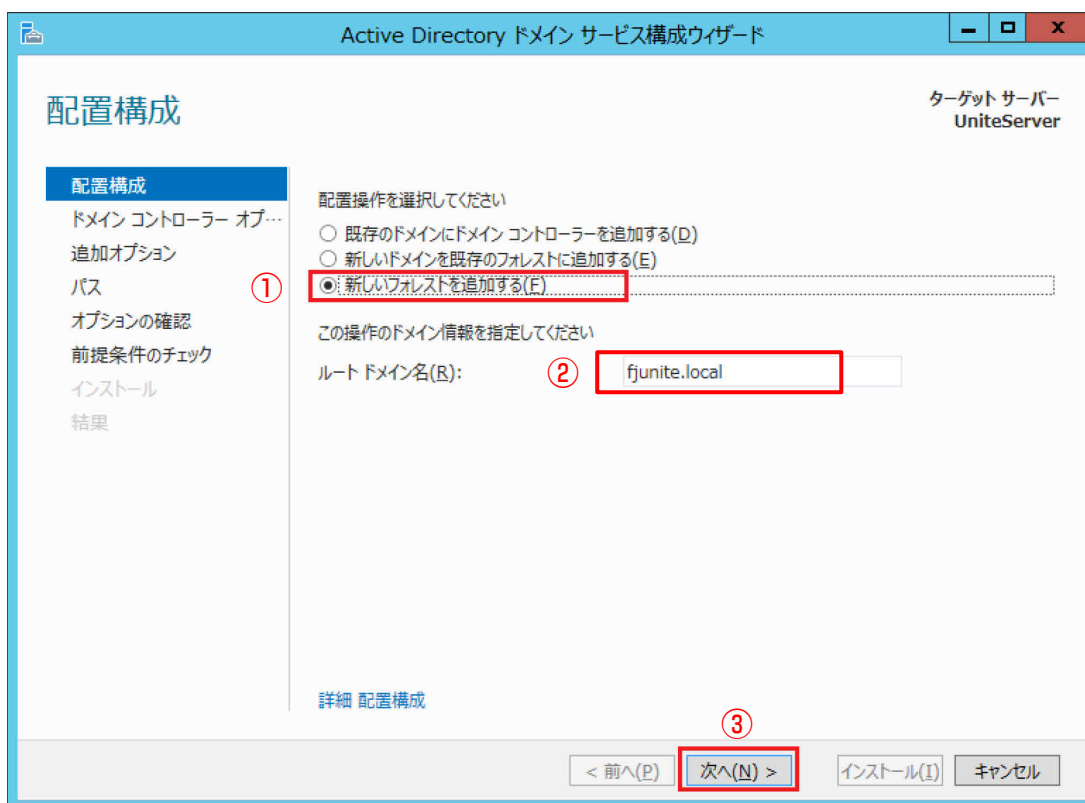
10 インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

- 11 ①「サーバー マネージャー」の通知領域（ウィンドウ右上）の「黄色い△の！」マークをクリックし、②表示されたポップアップの「展開後構成」にある「このサーバーをドメイン コントローラーに昇格する」をクリックします。



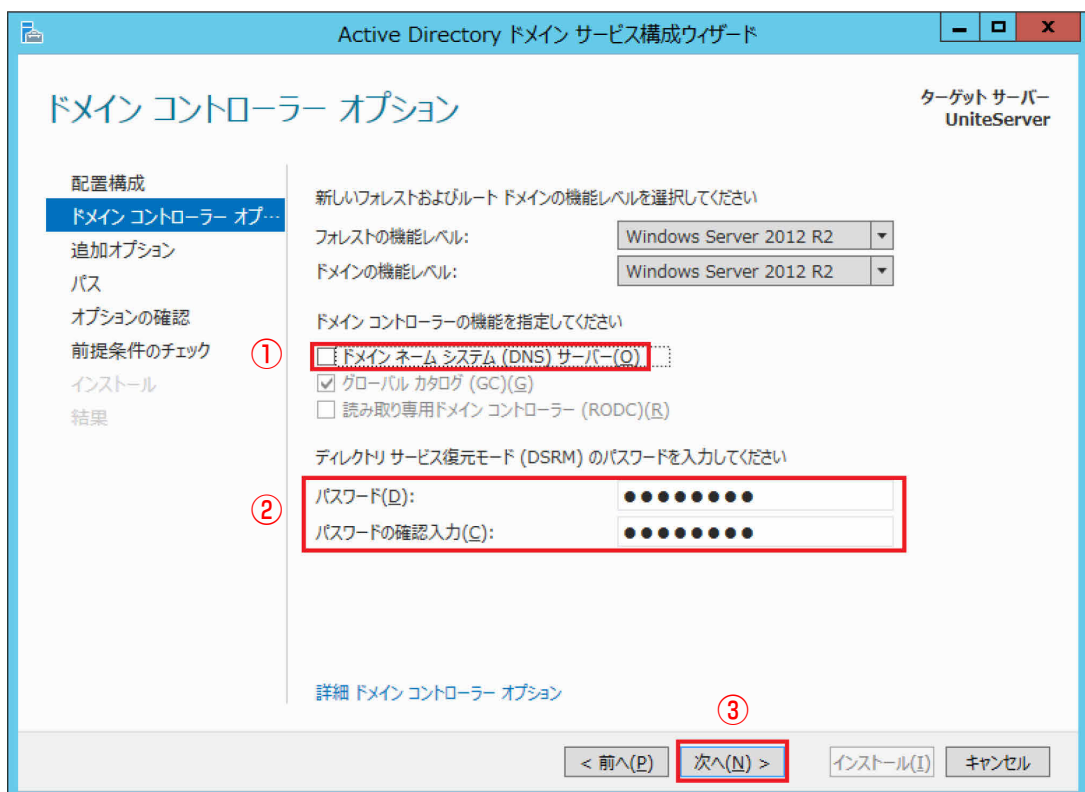


- 12 「Active Directory ドメイン サービス構成ウィザード」で①「新しいフォレストを追加する」をクリックし、②ルートドメイン名を設定（この例では“fjunit.local”と設定）し、③「次へ」をクリックします。

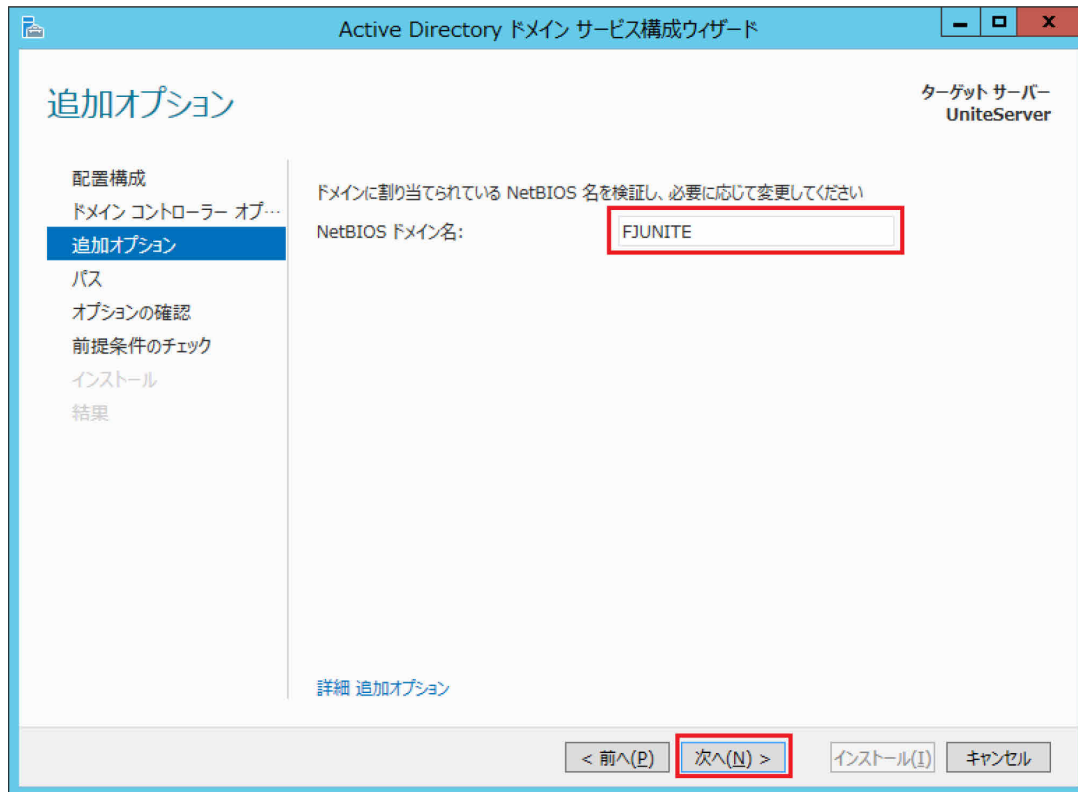


- 13 ①「ドメイン ネーム システム (DNS) サーバー」のチェックを外し、②「ディレクトリ サービス復元モード (DSRM) のパスワード」を設定し、③「次へ」をクリックします。

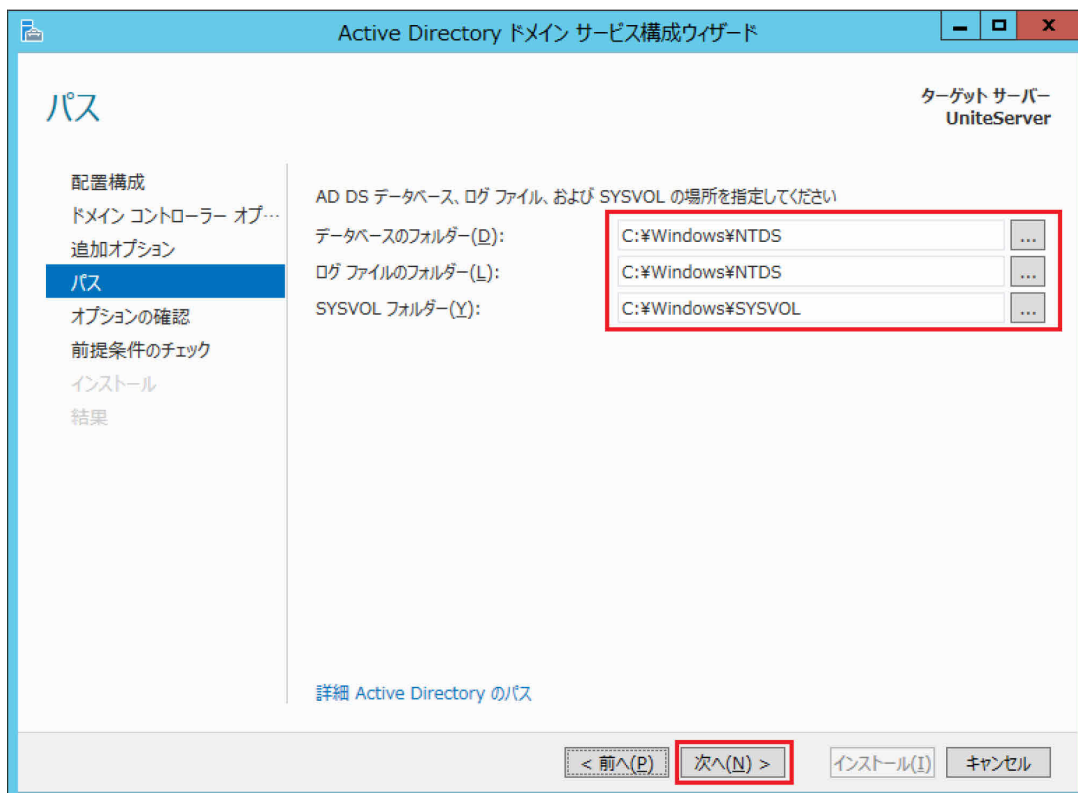
ディレクトリ サービス復元モードのパスワードは、Active Directory データベースをバックアップから復元する際に、システムをディレクトリ サービス復元モードで起動するために使用します。パスワードの設定は、管理者が行ってください。



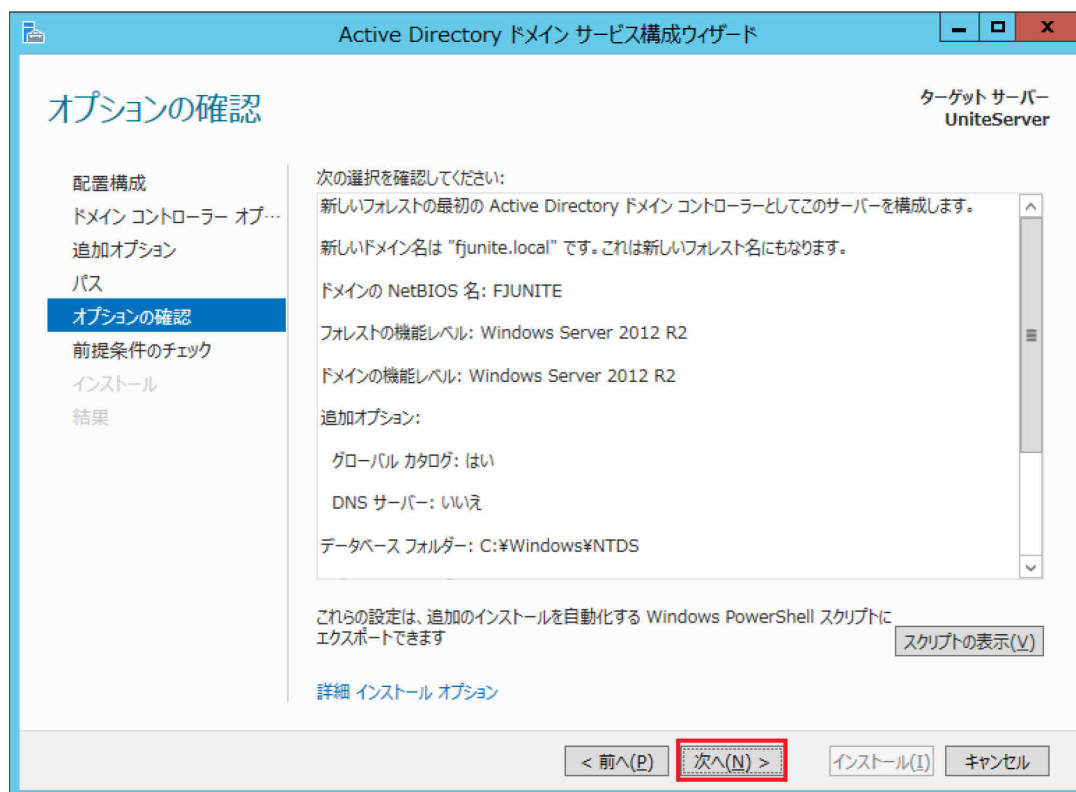
- 14** 「NetBIOS ドメイン名」が手順 12 で設定したドメイン名（この例では「FJUNITE」）になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。



- 15** 「次へ」をクリックします。



## 16 「オプションの確認」で表示された内容を確認し、「次へ」をクリックします。




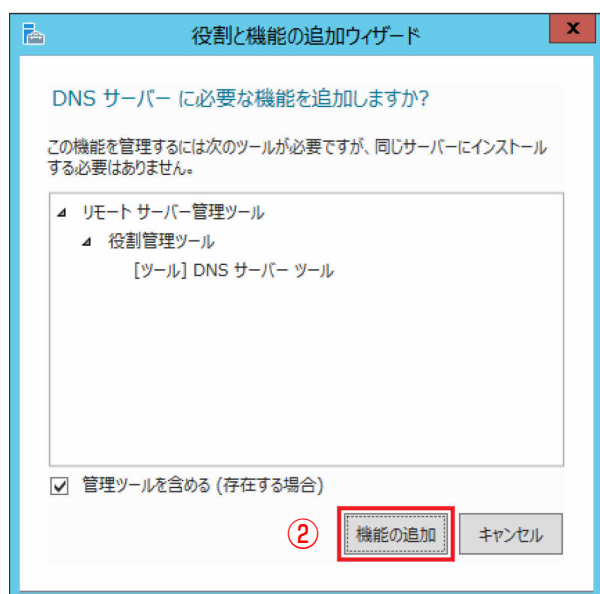
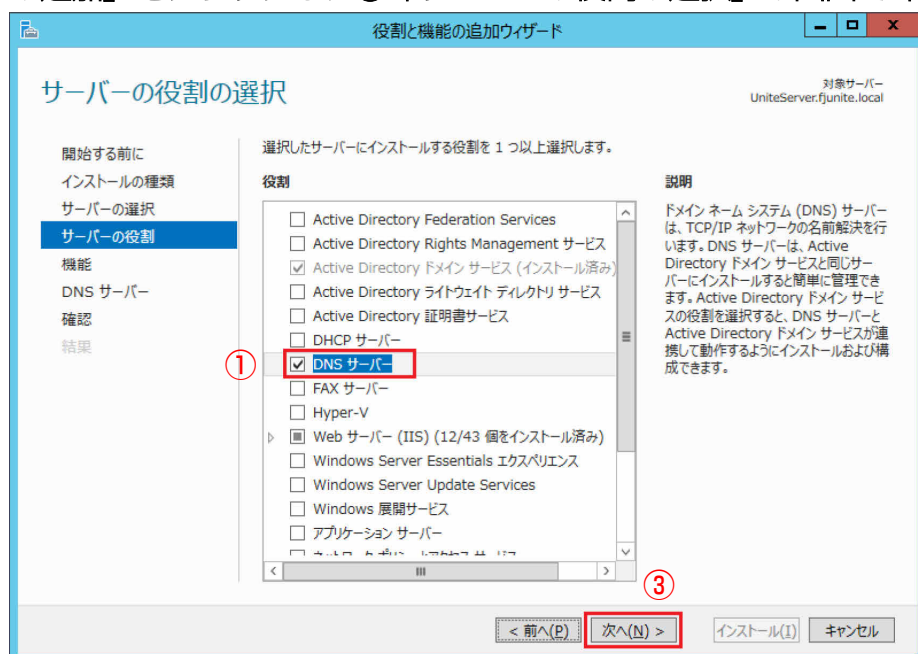
## 17 前提条件のチェックに合格すると「すべての前提条件のチェックに合格しました」と表示され、「インストール」が有効になります。「インストール」をクリックすると、インストールが開始されます（システムが自動的に再起動されます）。



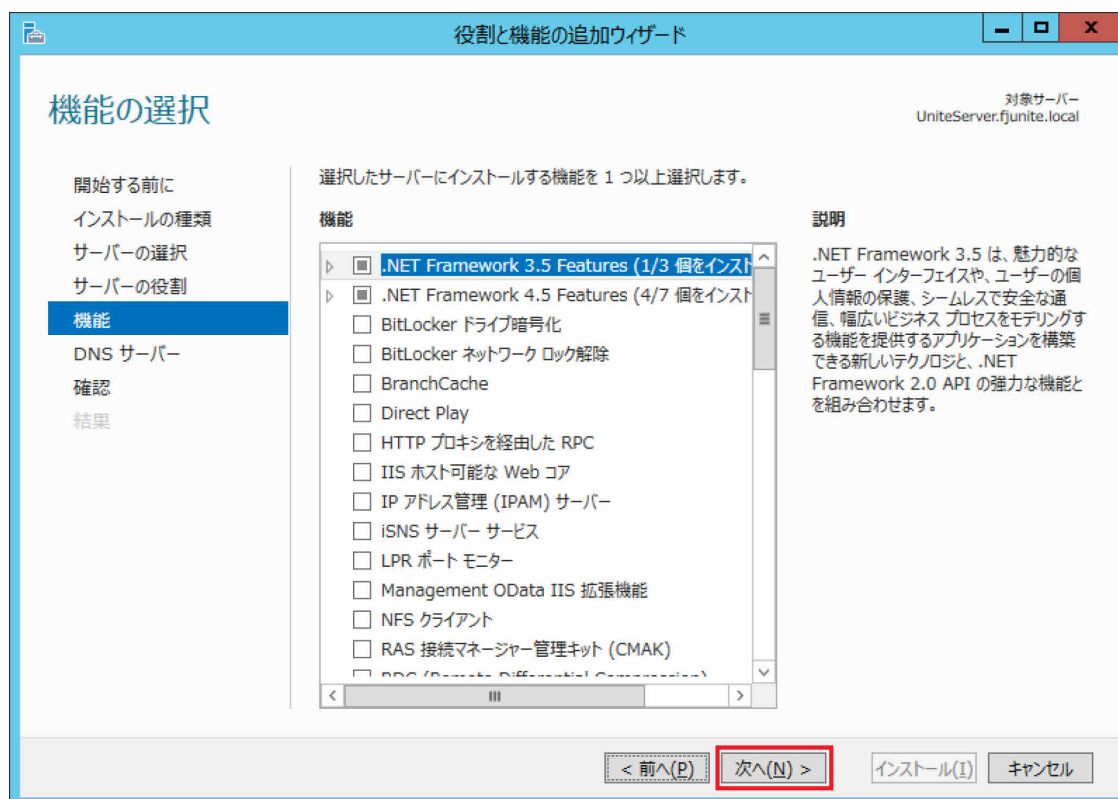


## ● DNS の設定

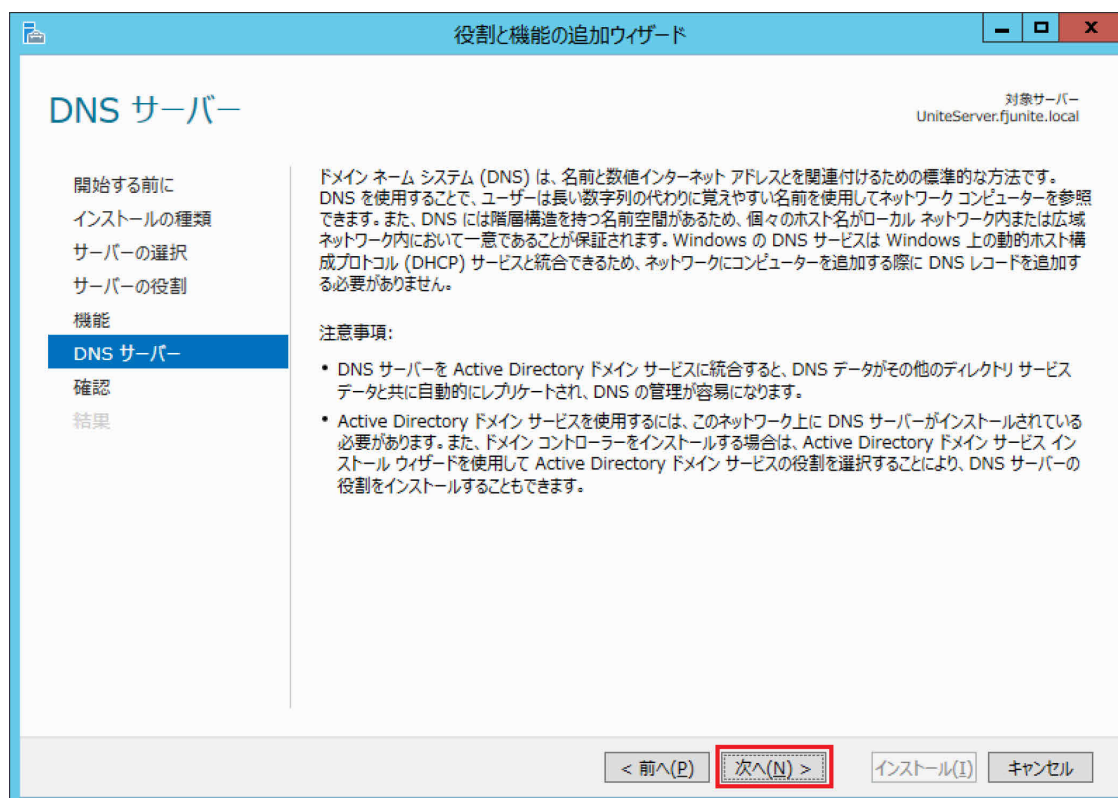
- 1  (スタート) → 「管理ツール」の順にクリックし、「サーバー マネージャー」をダブルクリックします。
- 2 「役割と機能の追加」をクリックします。  
「役割と機能の追加ウィザード (開始する前に)」が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 5 「サーバープールからサーバーを選択」をクリックし、サーバープールの欄からサーバーをクリックし、「次へ」をクリックします。
- 6 ① 「DNS サーバー」をクリックし、「役割と機能の追加ウィザード」が表示されたら② 「機能の追加」をクリックし、③ 「サーバーの役割の選択」の画面で「次へ」をクリックします。



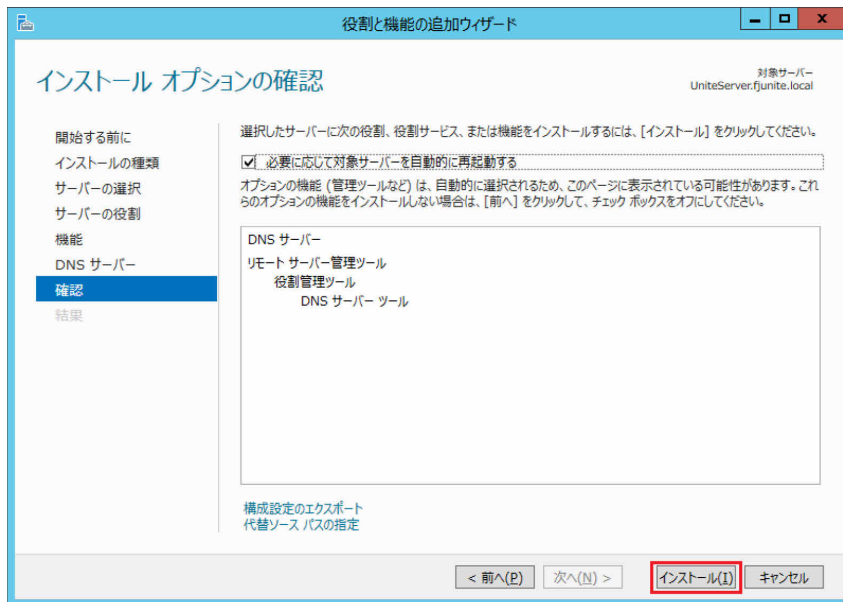
## 7 「次へ」をクリックします。



## 8 「DNS サーバー」画面で「次へ」をクリックします。

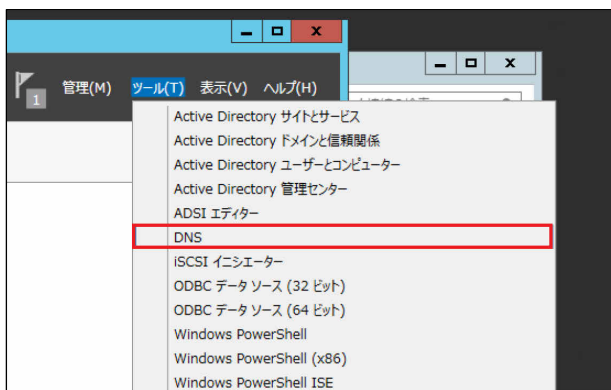


## 9 「インストール」をクリックすると、機能のインストールが始まります。



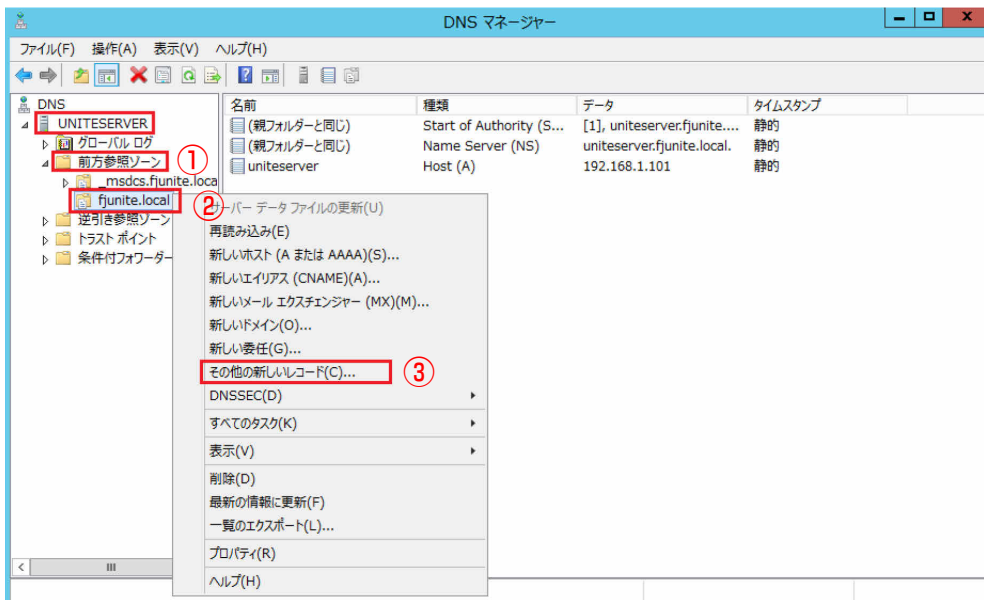
## 10 インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

## 11 「サーバー マネージャー」の「ツール」メニューから「DNS」をクリックします。

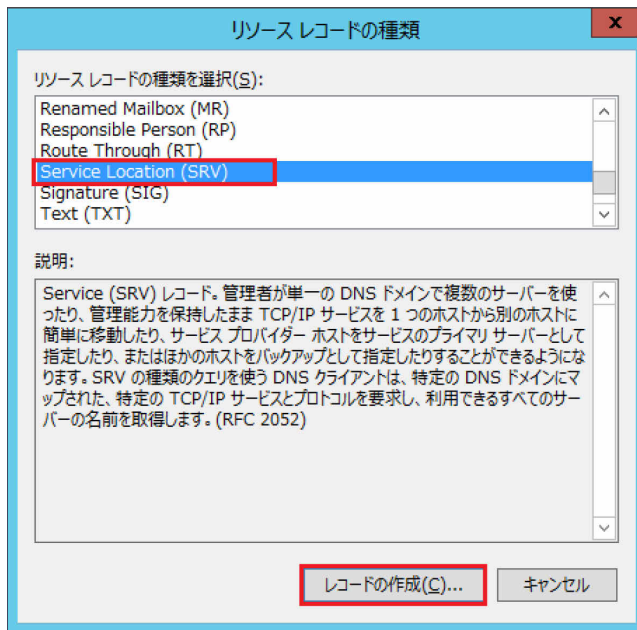


DNS マネージャーが起動します。

## 12 ①「DNS マネージャー」の左枠のサーバー名（ここでは例として” UNITESERVER”）の下の「前方参照ゾーン」をクリックして展開します。②ドメイン名（ここでは例として” fjunitelocal”）を右クリックし、③「その他の新しいレコード」をクリックします。

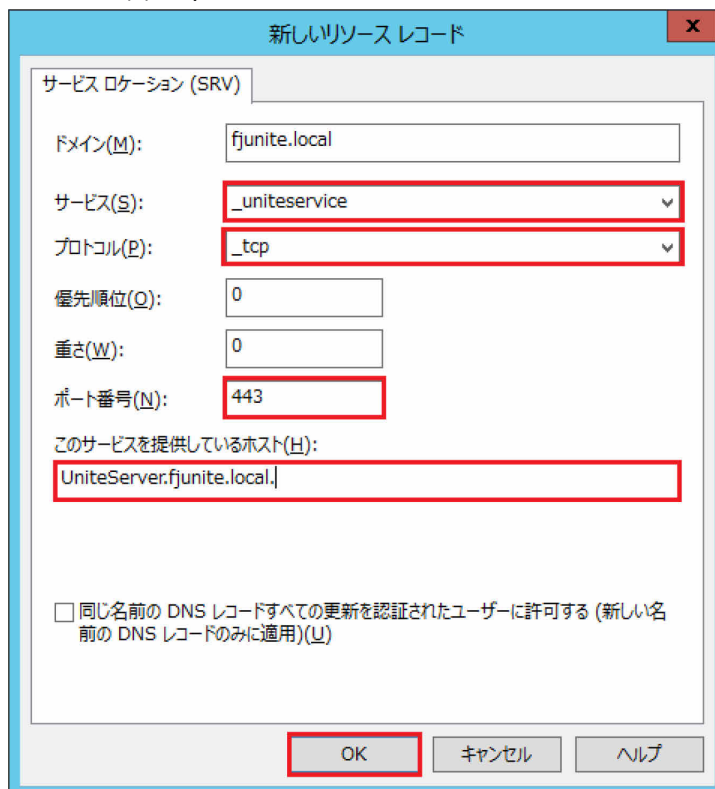


### 13 「Service Location (SRV)」をクリックし、「レコードの作成」をクリックします。




### 14 次のように設定して「OK」をクリックします。

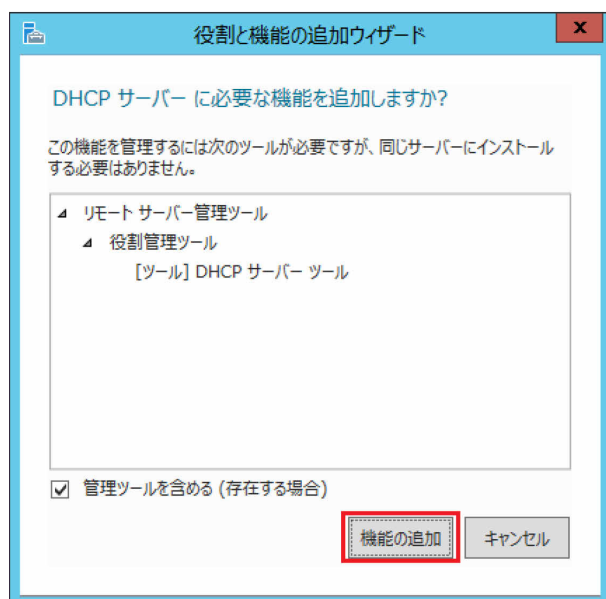
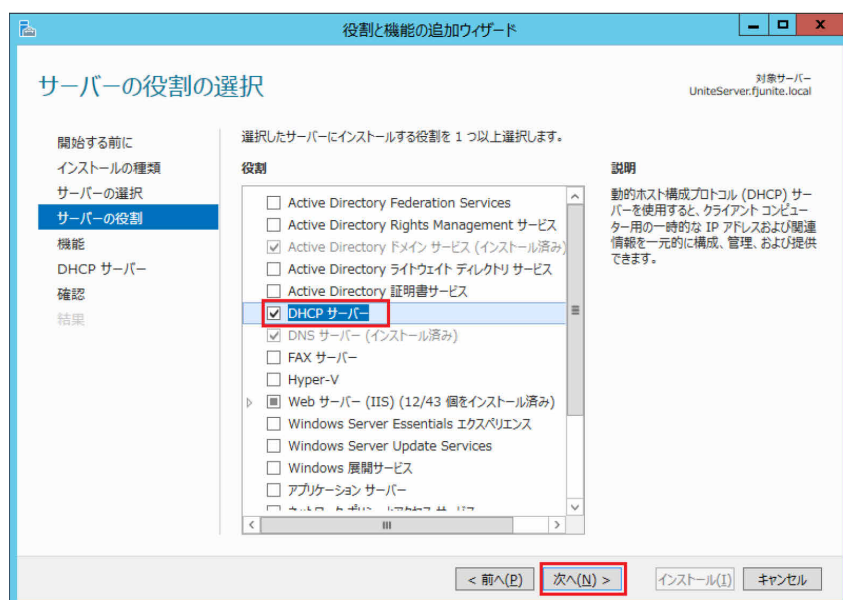
- サービス：\_uniteservice
- プロトコル：\_tcp
- ポート番号:443
- このサービスを提供しているホスト：UniteServer.fjunite.local.（“サーバー名” .”ドメイン名” .）



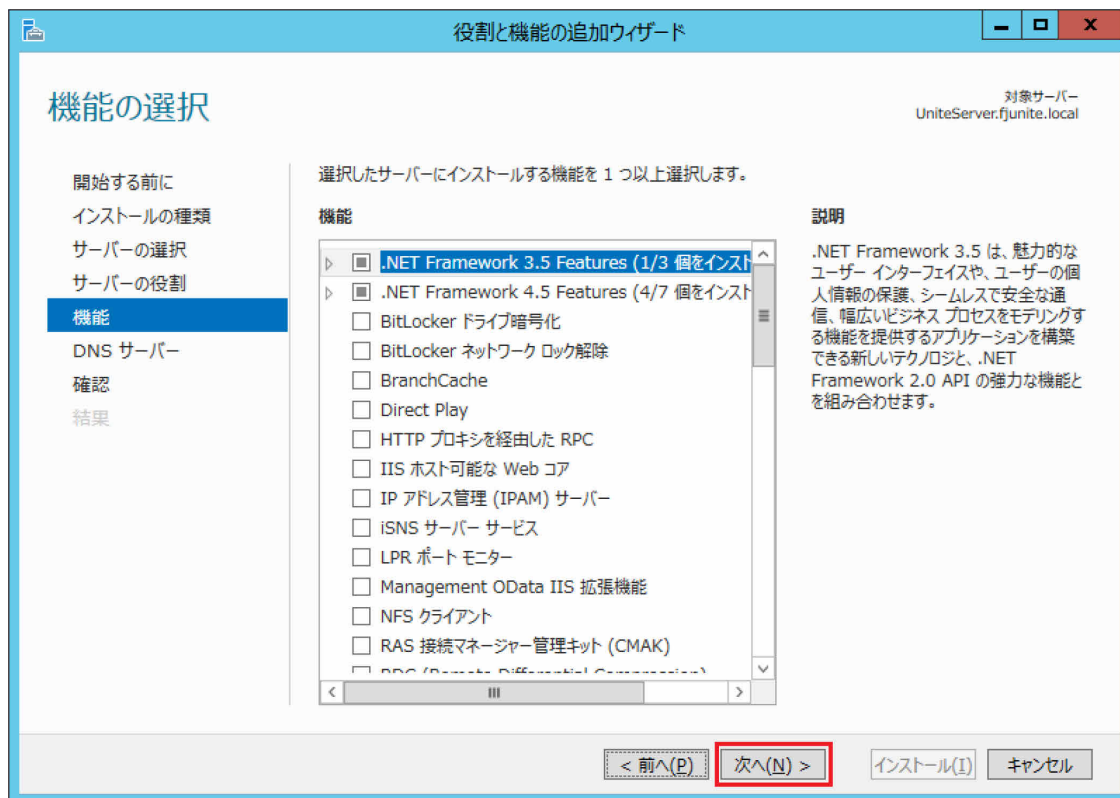
### 15 「リソース レコードの種類」画面で「完了」をクリックします。

## ● DHCP サーバーの設定

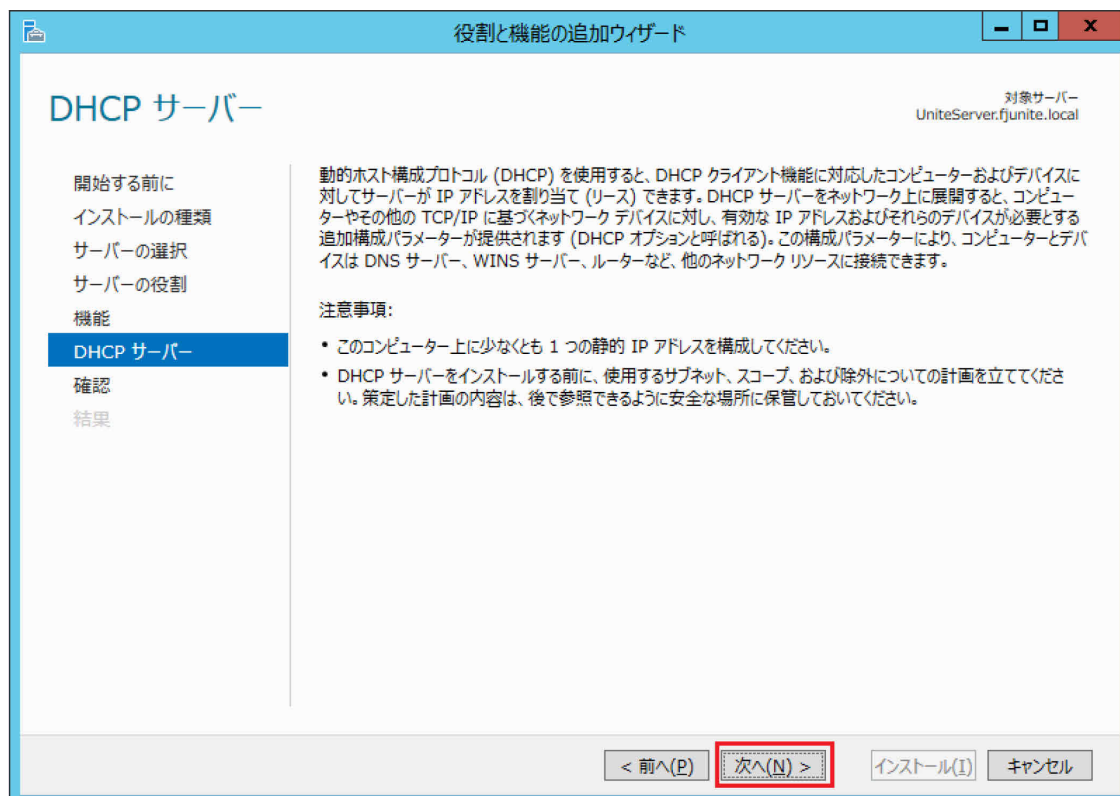
- 1  (スタート) → 「管理ツール」の順にクリックし、「サーバー マネージャー」をダブルクリックします。
- 2 「役割と機能の追加」をクリックします。  
「役割と機能の追加ウィザード (開始する前に)」が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 5 「サーバープールからサーバーを選択」をクリックし、サーバープールの欄からサーバーをクリックし、「次へ」をクリックします。
- 6 ①「DHCP サーバー」をクリックし、「役割と機能の追加ウィザード」が表示されたら②「機能の追加」をクリックし、③「サーバーの役割の選択」の画面で「次へ」をクリックします。



## 7 「次へ」をクリックします。

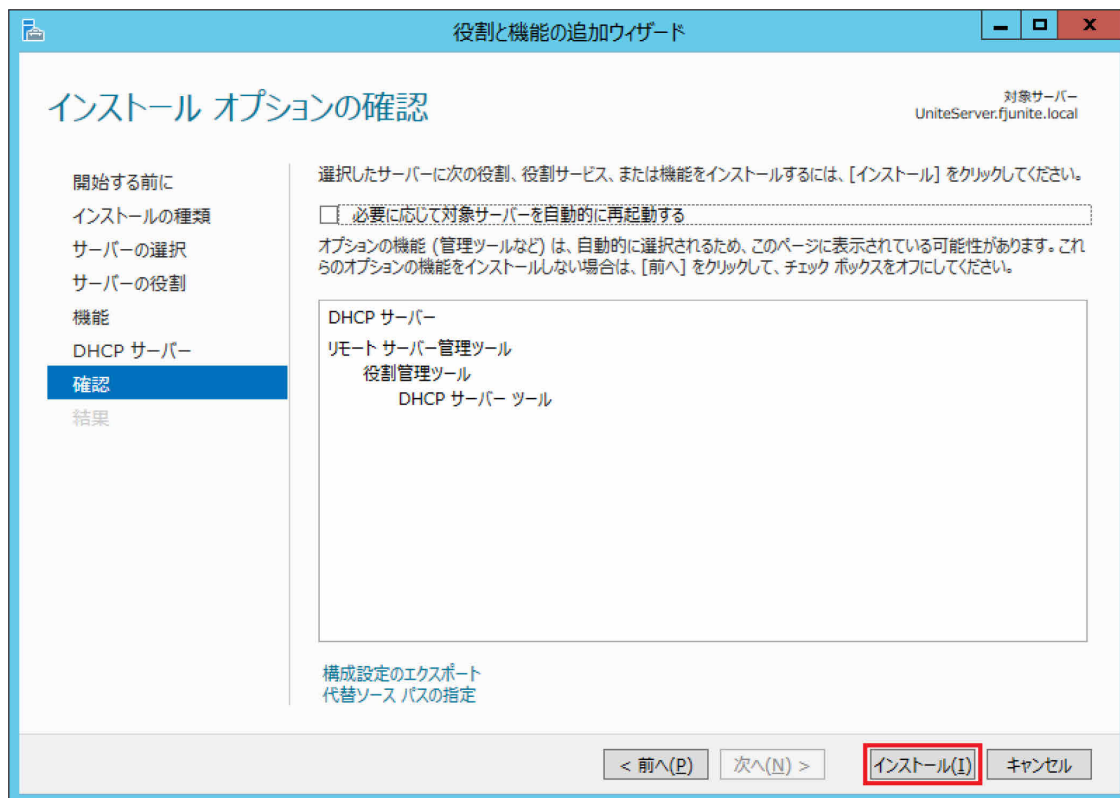


## 8 「DHCP サーバー」画面で「次へ」をクリックします。



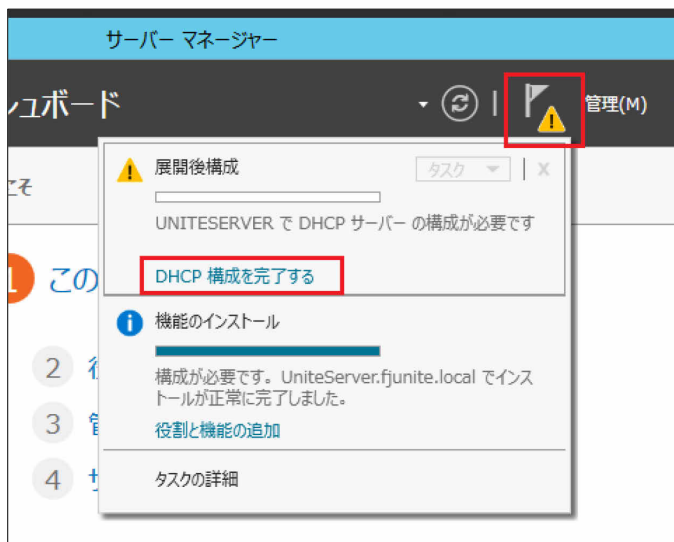


## 9 「インストール」をクリックすると、機能のインストールが始まります。



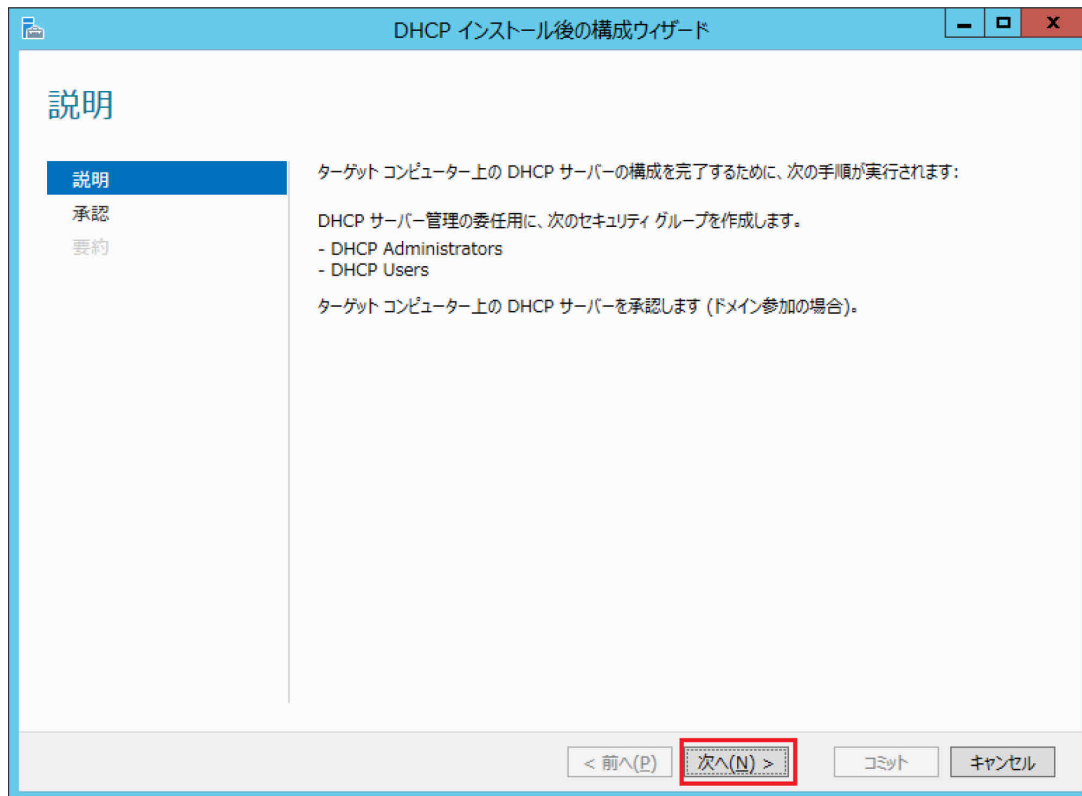
## 10 インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

## 11 「サーバー マネージャー」の通知領域（ウィンドウ右上）の「黄色い△の！マーク」をクリックし、表示されたポップアップの「展開後構成」にある「DHCP 構成を完了する」をクリックします。

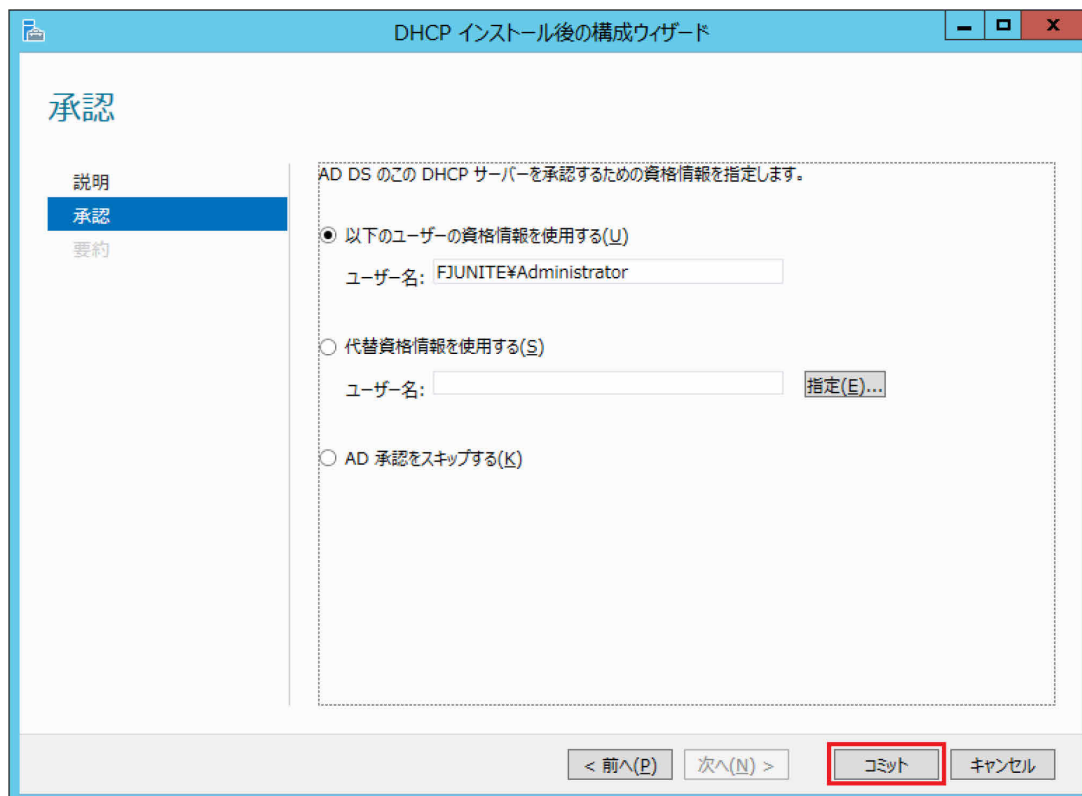


「DHCP インストール後の構成ウィザード」が表示されます。

## 12 「次へ」をクリックします。

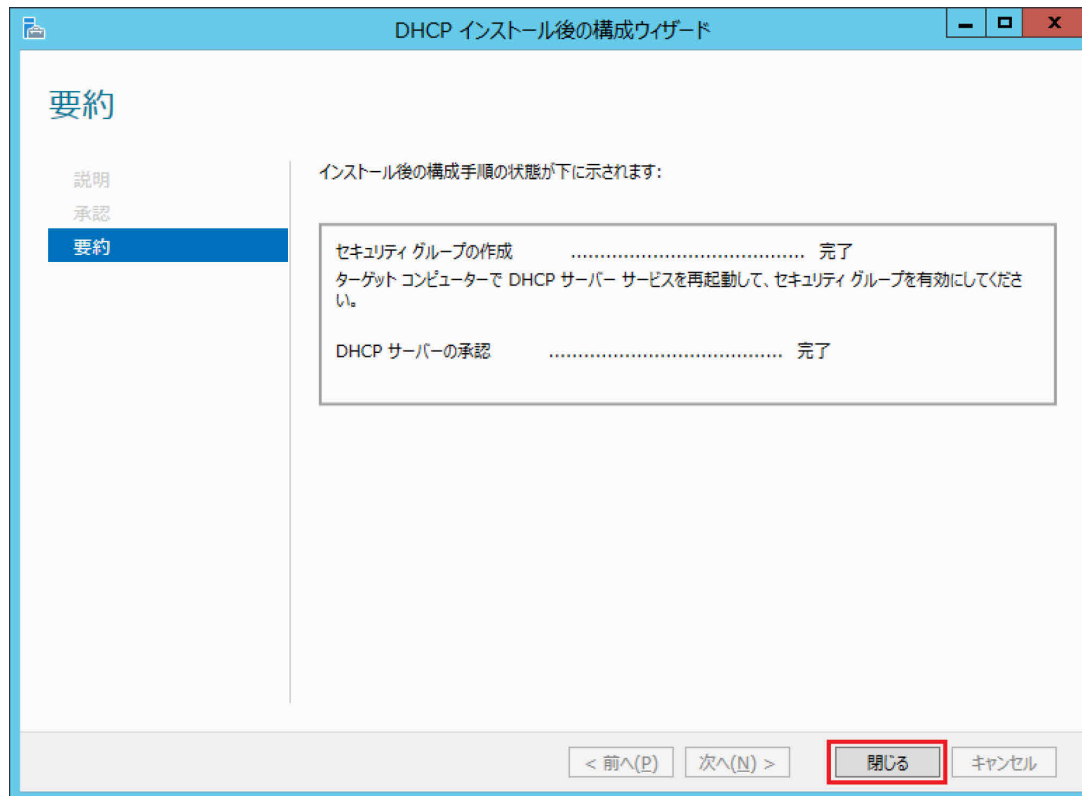


## 13 「コミット」をクリックします。

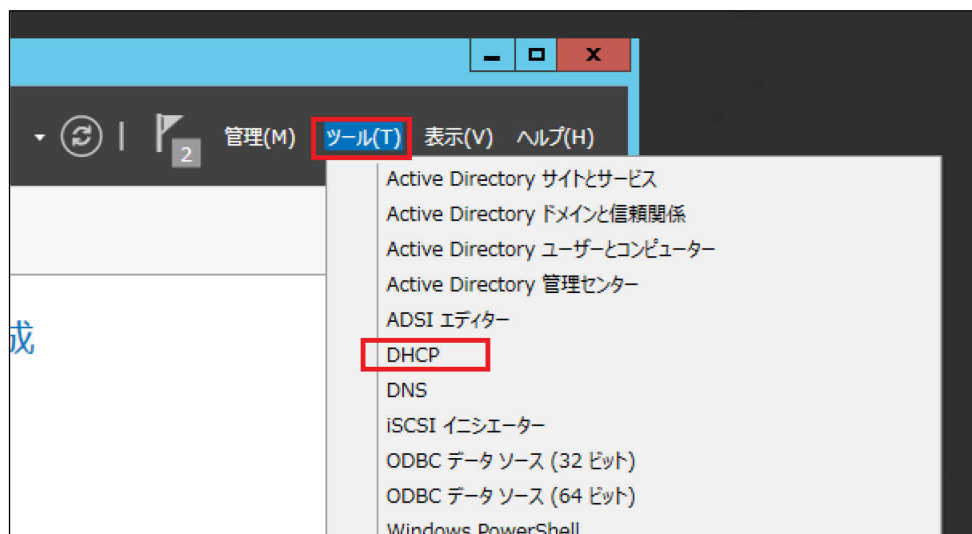




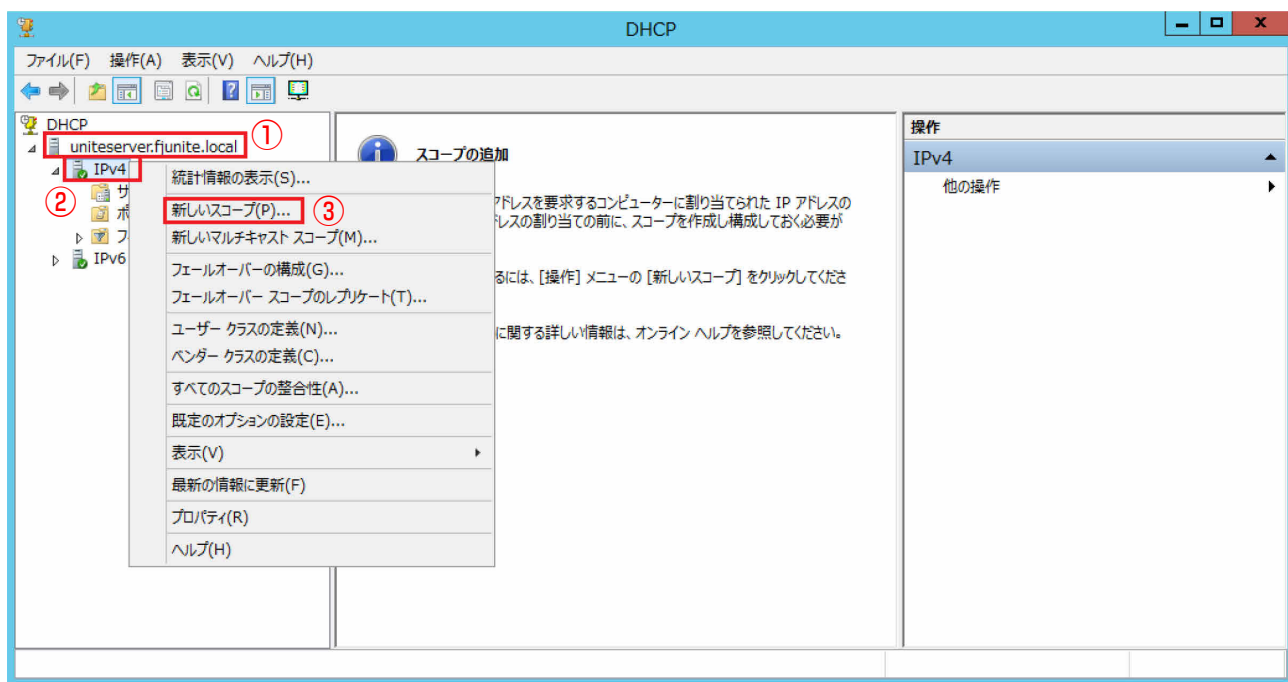
## 14 「閉じる」をクリックします。



## 15 サーバー マネージャーの「ツール」→「DHCP」の順にクリックします。

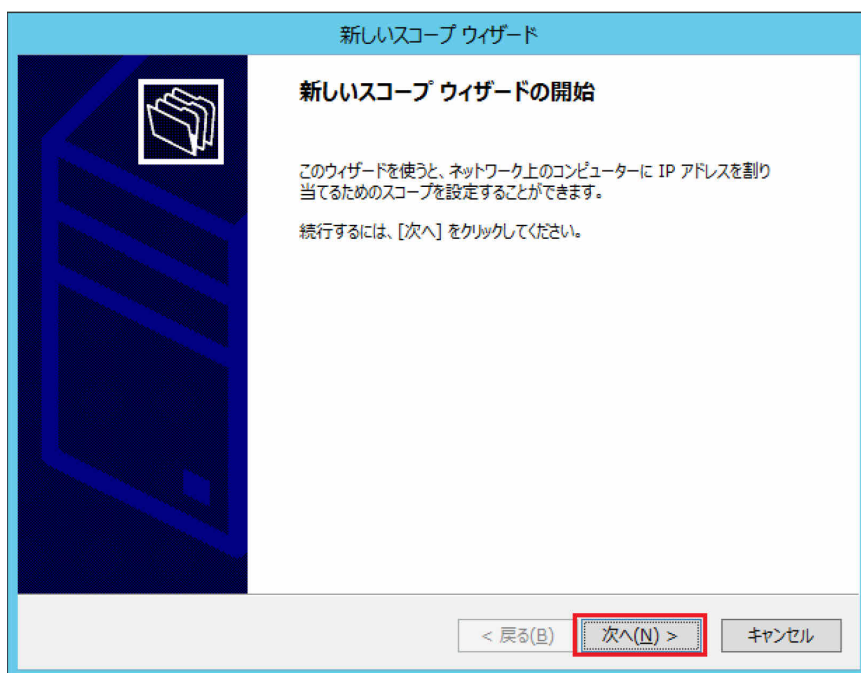


- 16** ①左枠のサーバー名（ここでは例として” uniteserver.fjunite.local” ）をクリックして展開し、  
②その下の「IPv4」を右クリックし、③「新しいスコープ」をクリックします。



「新しいスコープ ウィザードの開始」が表示されます。

- 17** 「次へ」をクリックします。



**18** 「名前」と「説明」を任意に設定（この例では” UniteDHCP” と” Scope for Unite” ）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**スコープ名**  
識別するためのスコープ名を指定する必要があります。説明も追加することができます。

このスコープの名前と説明を入力してください。この情報を入力することで、ネットワークでこのスコープがどのように使用されるかをすばやく判断することができます。

名前(A): UniteDHCP

説明(D): Scope for Unite

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

**19** IP アドレスの範囲を設定し、「次へ」をクリックします。

（この例では以下のように設定）

- 開始 IP アドレス：192.168.1.11
- 終了 IP アドレス：192.168.1.100
- 長さ：24
- サブネット：255.255.255.0

新しいスコープ ウィザード

**IP アドレスの範囲**  
連続した IP アドレスのセットを識別して、スコープ アドレスの範囲を定義します。

DHCP サーバーの構成設定

スコープが割り当てるアドレスの範囲を指定してください。

開始 IP アドレス(S): 192 . 168 . 1 . 11

終了 IP アドレス(E): 192 . 168 . 1 . 100

DHCP クライアントに伝達する構成設定

長さ(L): 24

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

**20** 必要に応じて除外範囲を設定（この例では未設定）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**除外と遅延の追加**  
除外とは、サーバーから割り当てられないアドレスまたはアドレスの範囲のことです。遅延とは、サーバーが DHCP OFFER メッセージの送信を遅延させる時間のことです。

除外する IP アドレスの範囲を入力してください。特定のアドレスのみを除外する場合は [開始 IP アドレス] のみ指定してください。

開始 IP アドレス(S):      終了 IP アドレス(E):

除外するアドレスの範囲(C):

サブネット遅延 (ミリ秒)(L):

< 戻る(B)      **次へ(N) >**      キャンセル

**21** 必要に応じてリース期間を変更（この例では未変更）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**リース期間**  
リース期間は、クライアントがこのスコープからの IP アドレスをどのくらいの期間使用できるかを示します。

リース期間は、通常コンピューターが物理的に同じネットワークに接続している時間の平均です。ポータブルコンピューターやダイヤルアップを主体とするモバイルネットワークの場合は、リース期間を短くすると便利です。  
同様に、固定された場所で使用されているデスクトップコンピューターを主体とする固定ネットワークの場合は、リース期間を長くすることをお勧めします。

このサーバーから割り当てられたときのスコープのリース期間を設定してください。

期間:

日(D):      時間(Q):      分(M):

< 戻る(B)      **次へ(N) >**      キャンセル

## 22 「今すぐオプションを構成する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**DHCP オプションの構成**  
クライアントがスコープを使用する前に、一般的な DHCP オプションを構成する必要があります。

クライアントがアドレスを取得すると、ルーターの IP アドレス (デフォルト ゲートウェイ)、DNS サーバー、そのスコープ用の WINS 設定などの DHCP オプションが与えられます。

ここで選択するこのスコープ用の設定は、このサーバーの [サーバー オプション] フォルダーで構成した設定よりも優先されます。

このスコープの DHCP オプションを今すぐ構成しますか?

☒ **今すぐオプションを構成する(Y)**

☐ 後でオプションを構成する(O)

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

## 23 必要に応じて使用しているルーターの IP アドレスを設定（この例では未設定）し、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**ルーター (デフォルト ゲートウェイ)**  
このスコープが割り当てるルーターまたはデフォルトゲートウェイを指定することができます。

クライアントが使用するルーターの IP アドレスを追加するには、そのアドレスを下に入力してください。

IP アドレス(P):

< 戻る(B)   **次へ(N) >**   キャンセル

## 24 次の設定を行い、「次へ」をクリックします。

- 親ドメイン：P.17 手順 12 で入力した「ルートドメイン名」（この例では fjunit.local）
- サーバー名：P.6 手順 5 で入力した「コンピューター名」（この例では UniteServer）
- IP アドレス：P.7 手順 4 で入力した「IP アドレス」（この例では 192.168.1.101 （設定済みであれば、そのままにする。））

新しいスコープ ウィザード

**ドメイン名および DNS サーバー**  
ドメイン ネーム システム (DNS) は、ネットワーク上のクライアントが使用するドメイン名のマップや翻訳を行います。

ネットワーク上のクライアント コンピューターが DNS 名の解決のために使う親ドメインを指定することができます。

親ドメイン(M):

ネットワーク上の DNS サーバーを使用するようにスコープ クライアントを構成するには、それらのサーバーの IP アドレスを入力してください。

サーバー名(S):  IP アドレス(P):

追加(D) 削除(R) 上へ(U) 下へ(O)

解決(E)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

## 25 必要に応じて設定（この例では未設定）を行い、「次へ」をクリックします。

新しいスコープ ウィザード

**WINS サーバー**  
Windows を実行しているコンピューターは、WINS サーバーを使って NetBIOS コンピューター名を IP アドレスに変換することができます。

ここにサーバー IP アドレスを入力すると、Windows クライアントはブロードキャストを使って登録し NetBIOS 名を解決する前に WINS を照会できるようになります。

サーバー名(S):  IP アドレス(P):

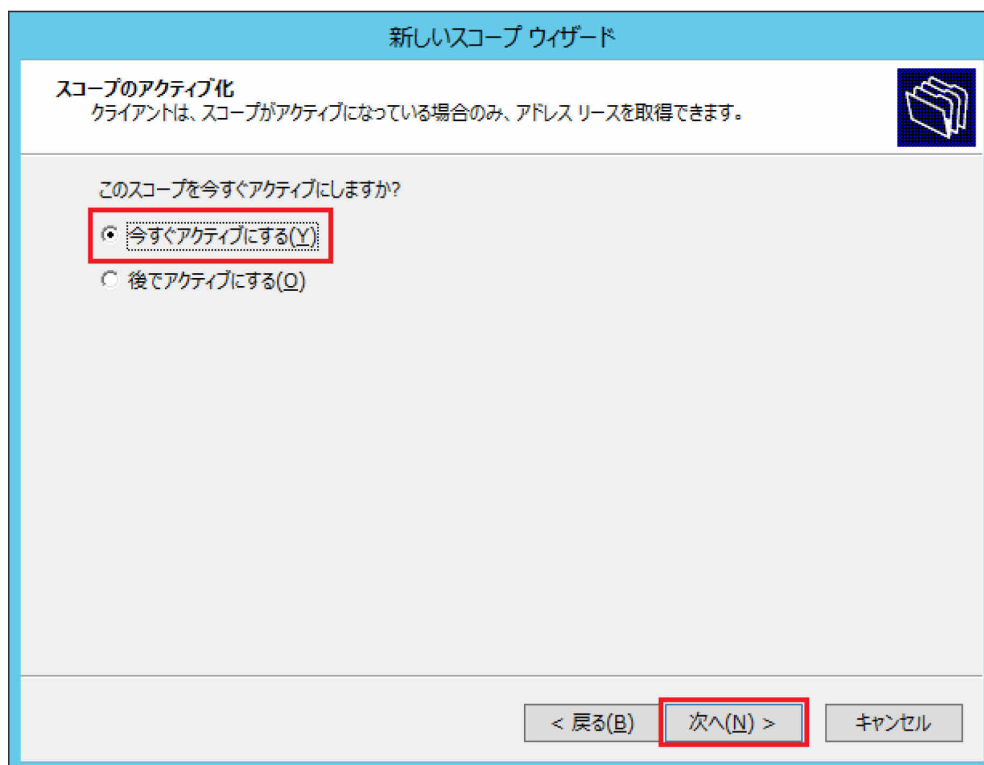
追加(D) 削除(R) 上へ(U) 下へ(O)

解決(E)

Windows DHCP クライアントの動作を変更するには、[スコープ オプション] でオプション 046 と WINS/NBT ノードの種類を変更してください。

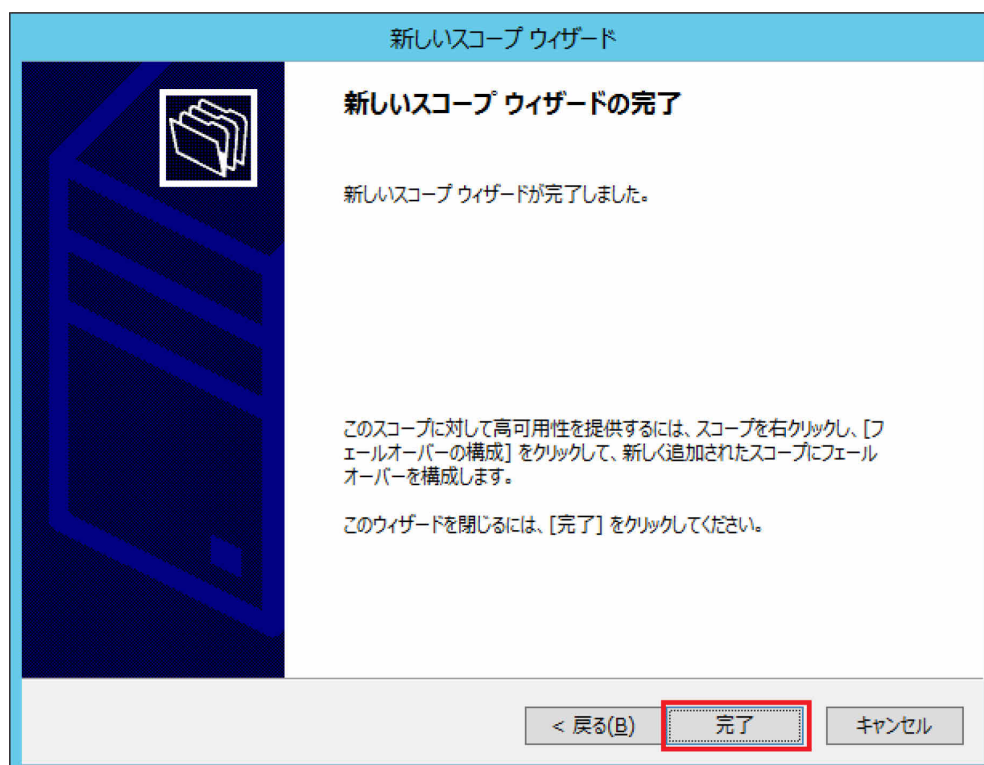
< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

**26** 「今すぐアクティブにする」をクリックし、「次へ」をクリックします。




「新しいスコープ ウィザードの完了」が表示されます。

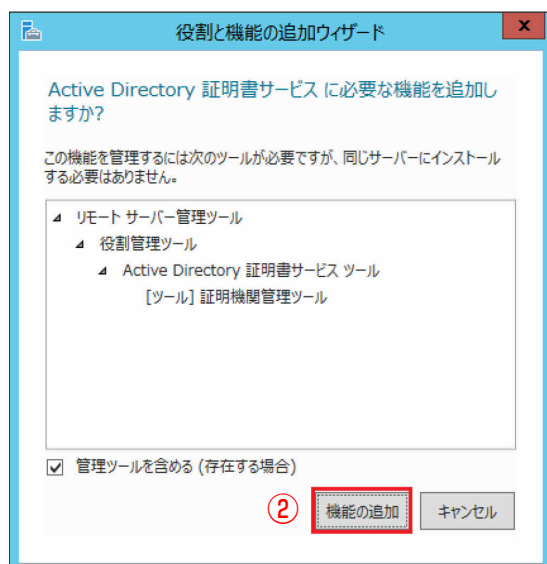
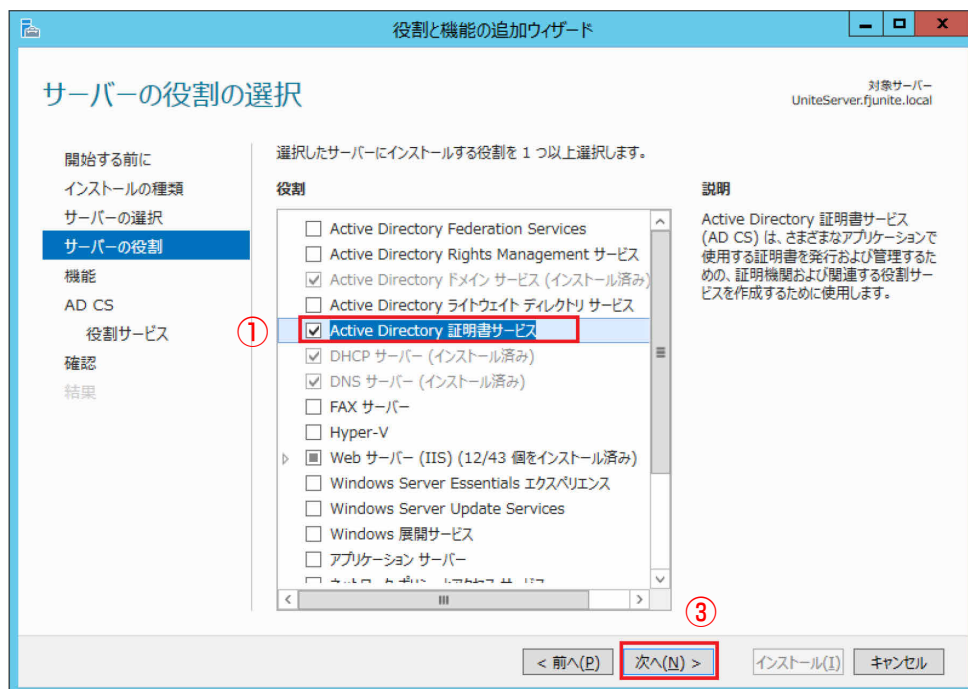
**27** 「完了」をクリックします。





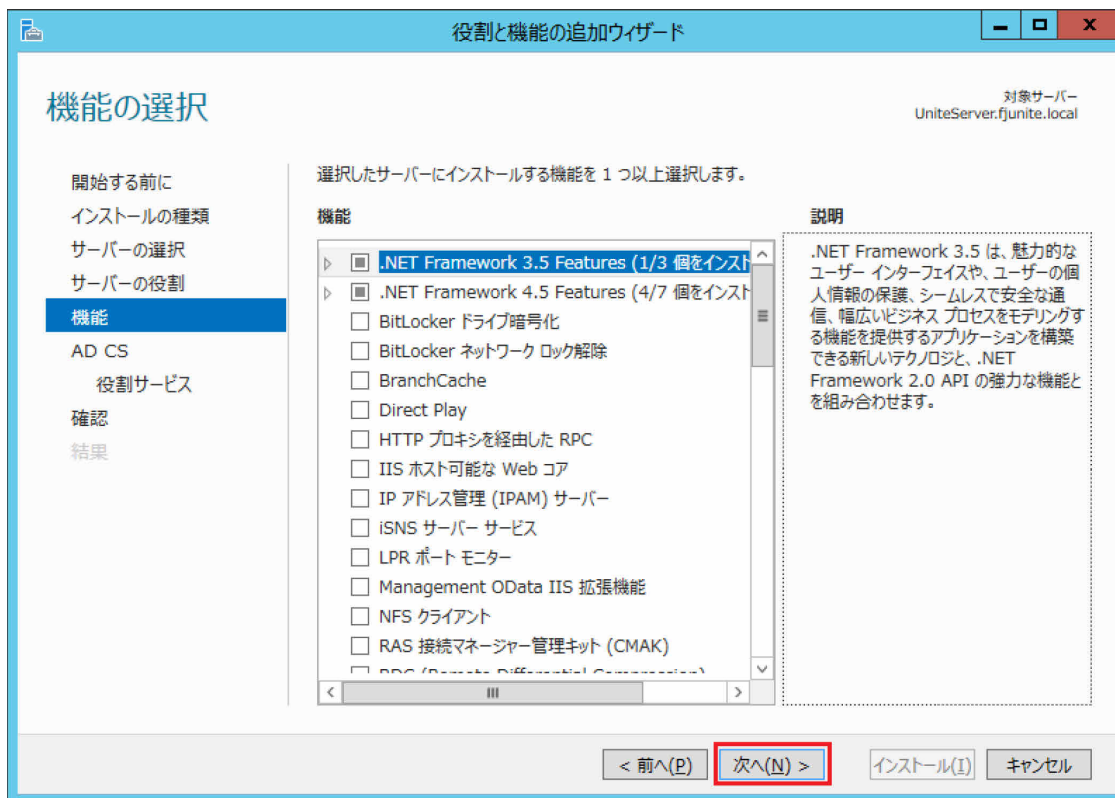
## ● 証明機関を設定する

- 1  (スタート) → 「管理ツール」の順にクリックし、「サーバー マネージャー」をダブルクリックします。
- 2 「役割と機能の追加」をクリックします。  
「役割と機能の追加ウィザード (開始する前に)」が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 5 「サーバープールからサーバーを選択」をクリックし、サーバープールの欄からサーバーをクリックし、「次へ」をクリックします。
- 6 ① 「Active Directory 証明書サービス」をクリックし、「役割と機能の追加ウィザード」が表示されたら② 「機能の追加」をクリックし、③ 「サーバーの役割の選択」画面で「次へ」をクリックします。

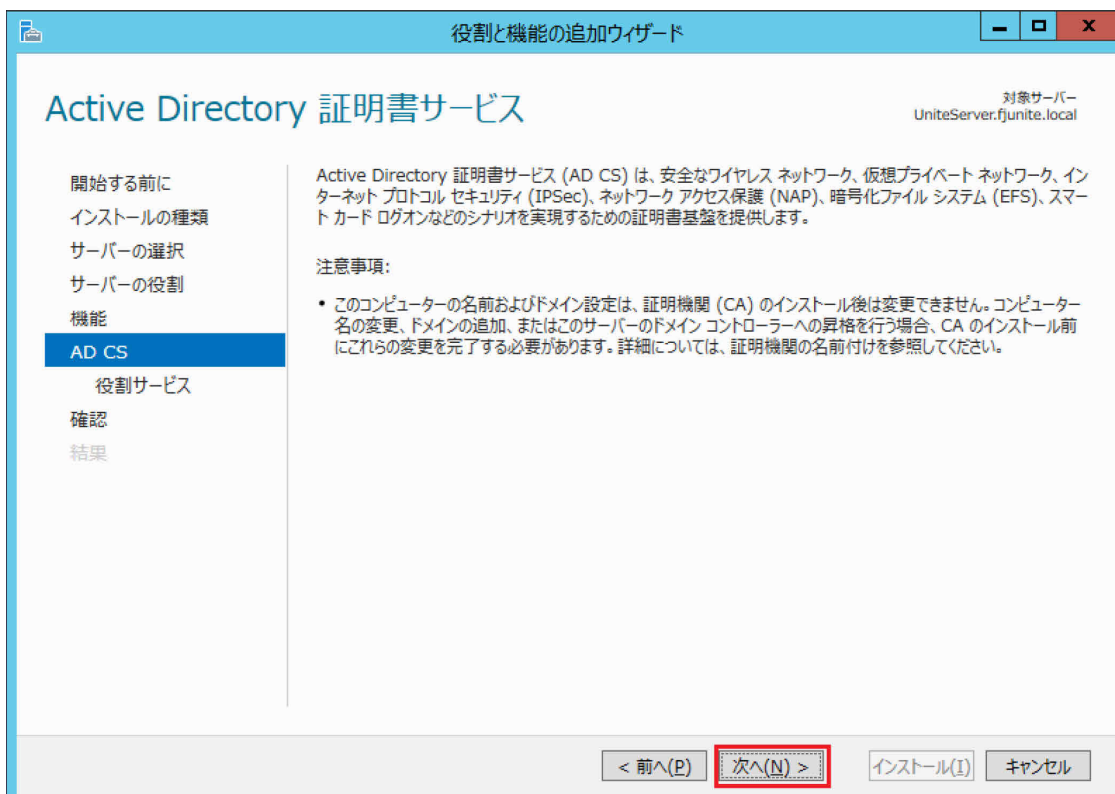




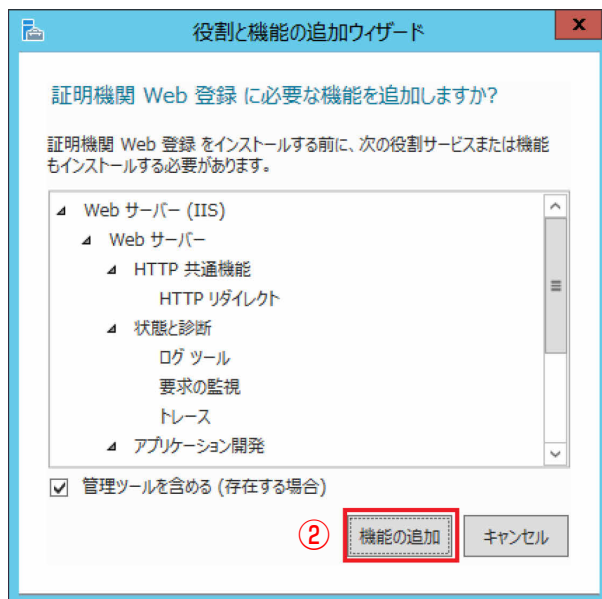
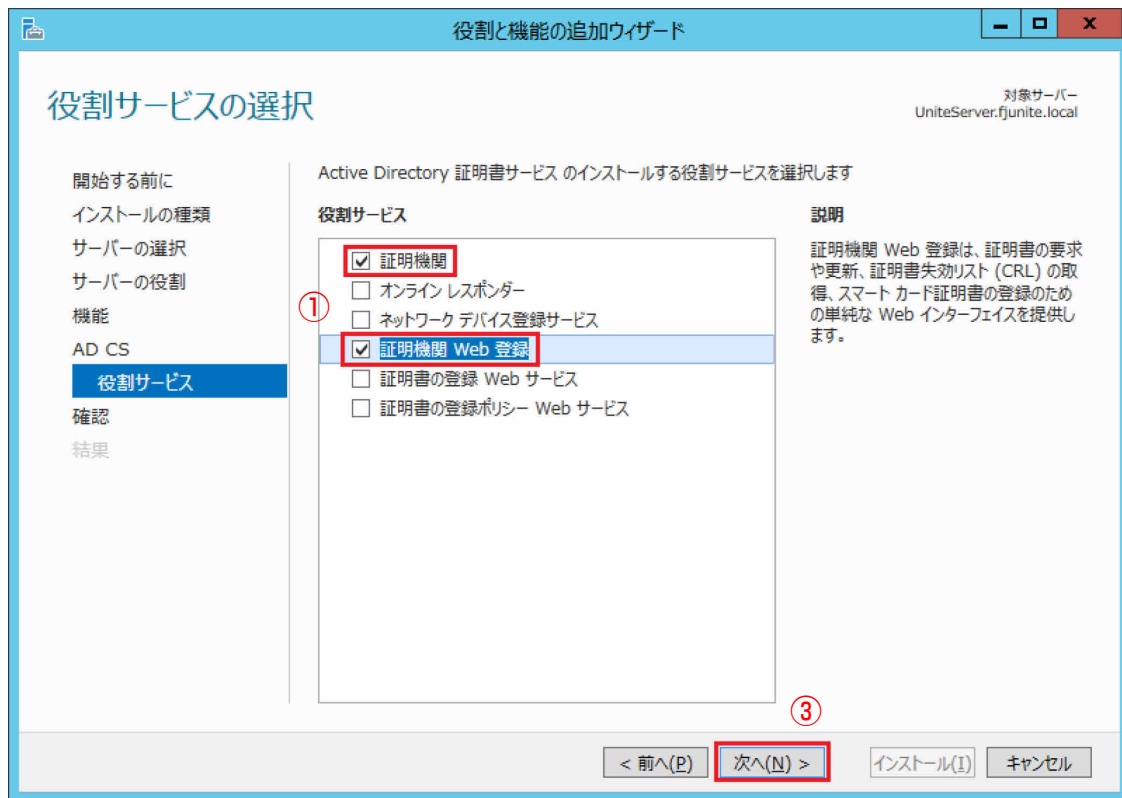
## 7 「次へ」をクリックします。



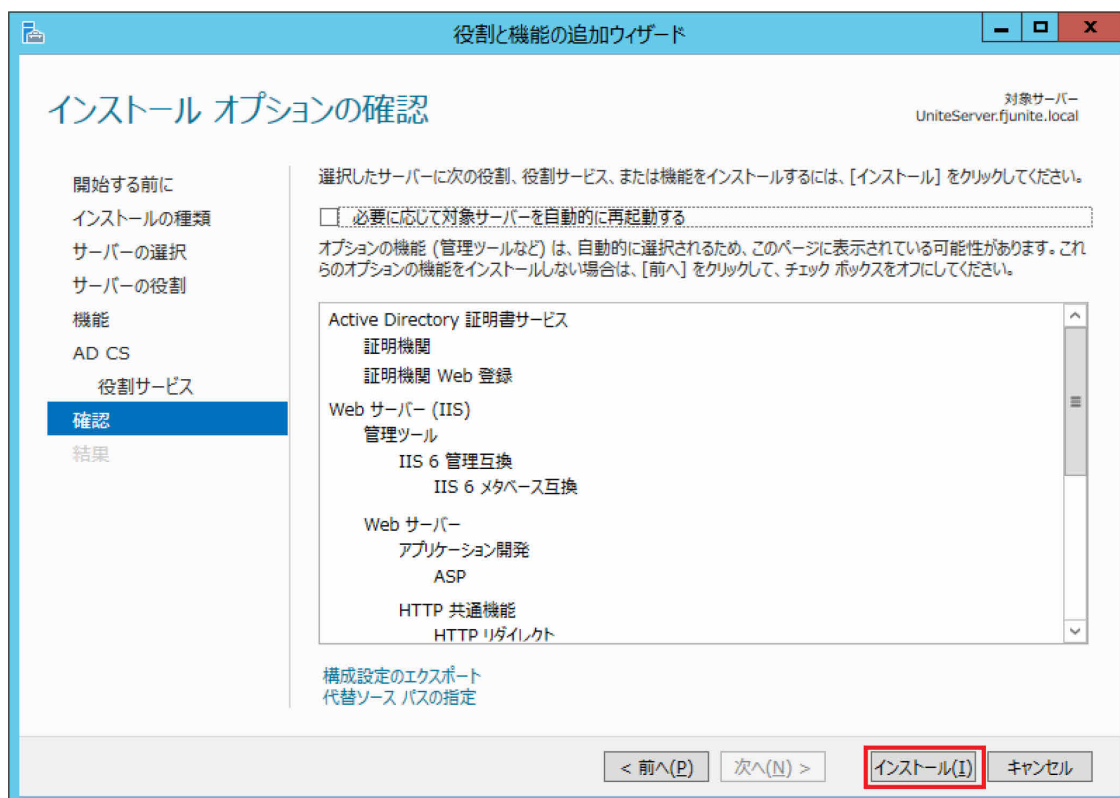
## 8 「Active Directory 証明書サービス」画面で「次へ」をクリックします。



- 9 ①「証明機関」と「証明機関 Web 登録」をクリックし、「役割と機能の追加ウィザード」が表示されたら②「機能の追加」をクリックし、③「役割サービスの選択」画面で「次へ」をクリックします。

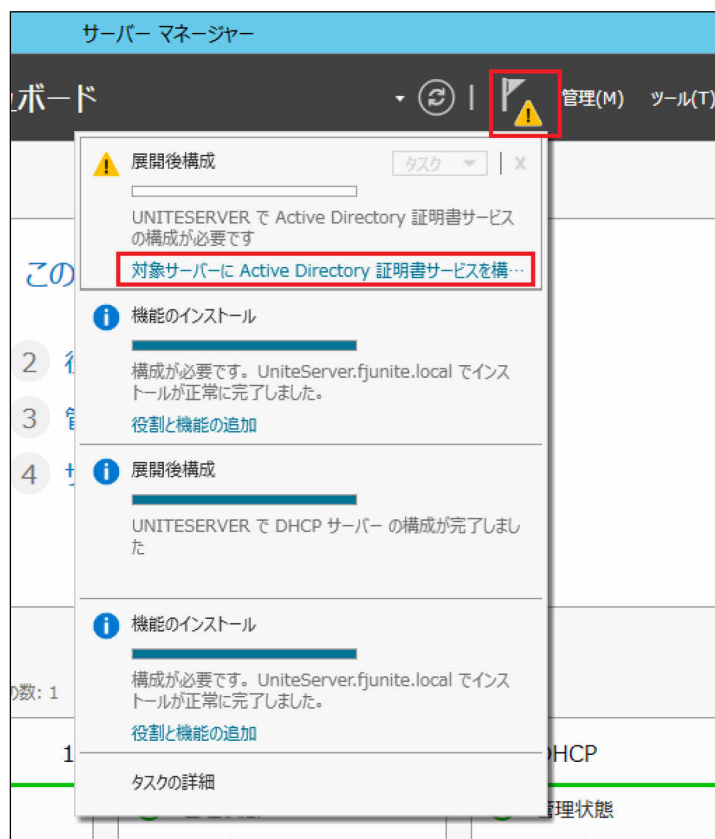


## 10 「インストール」をクリックすると、機能のインストールが始まります。



インストールが完了したら「閉じる」をクリックします。

## 11 「サーバー マネージャー」の通知領域（ウィンドウ右上）の「黄色い△の！マーク」をクリックし、表示されたポップアップの「展開後構成」にある「対象サーバーに Active Directory 証明書サービスを構成する」をクリックします。



## 12 「AD CS の構成 (資格情報)」画面で「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunite.local

資格情報

役割サービス

確認

進行状況

結果

役割サービスを構成するための証明書を指定してください

次の役割サービスをインストールするには、ローカルの Administrators グループに属している必要があります:

- スタンドアロン証明機関
- 証明機関 Web 登録
- オンライン レスポンダー

次の役割サービスをインストールするには、Enterprise Admins グループに属している必要があります:

- エンタープライズ証明機関
- 証明書の登録ポリシー Web サービス
- 証明書の登録 Web サービス
- ネットワーク デバイス登録サービス

資格情報: FJUNITE¥Administrator 変更(C)...

AD CS サーバーの役割の詳細

< 前へ(P) 次へ(N) > 構成(C) キャンセル

## 13 「証明機関」と「証明機関 Web 登録」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunite.local

役割サービス

資格情報

役割サービス

セットアップの種類

CA の種類

秘密キー

暗号化

CA 名

有効期間

証明書データベース

確認

進行状況

結果

構成する役割サービスの選択

- ☒ 証明機関
- ☒ 証明機関 Web 登録
- ☐ オンライン レスポンダー
- ☐ ネットワーク デバイス登録サービス
- ☐ 証明書の登録 Web サービス
- ☐ 証明書の登録ポリシー Web サービス

AD CS サーバーの役割の詳細

< 前へ(P) 次へ(N) > 構成(C) キャンセル

## 14 「エンタープライズ CA」をクリックし、「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunit.local

### セットアップの種類

資格情報  
役割サービス  
**セットアップの種類**  
CA の種類  
秘密キー  
暗号化  
CA 名  
有効期間  
証明書データベース  
確認  
進行状況  
結果

CA のセットアップの種類を指定してください

エンタープライズ証明機関 (CA) は、Active Directory ドメイン サービス (AD DS) を使用して証明書の管理を簡略化できます。スタンドアロン CA では、AD DS を使用して証明書を発行または管理することはありません。

☒ **エンタープライズ CA (E)**  
エンタープライズ CA はドメイン メンバーである必要があり、証明書または証明書ポリシーを発行するために通常はオンラインです。

☐ スタンドアロン CA (A)  
スタンドアロン CA はワークグループまたはドメインのメンバーとすることができます。スタンドアロン CA は AD DS を必要とせず、ネットワーク接続なし (オフライン) で使用できます。

[セットアップの種類の詳細](#)

< 前へ(P) **次へ(N) >** 構成(C) キャンセル

## 15 「ルート CA」をクリックし、「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunit.local

### CA の種類

資格情報  
役割サービス  
セットアップの種類  
**CA の種類**  
秘密キー  
暗号化  
CA 名  
有効期間  
証明書データベース  
確認  
進行状況  
結果

CA の種類を指定してください

Active Directory 証明書サービス (AD CS) をインストールする場合は、公開キー基盤 (PKI) 階層を作成または拡張します。ルート CA は、PKI 階層の最上位に位置し、自身の自己署名証明書を発行します。下位 CA は、PKI 階層内の上位の CA から証明書を受け取ります。

☒ **ルート CA (R)**  
ルート CA は、PKI 階層で構成される最初の、また場合によっては唯一の CA です。

☐ 下位 CA (U)  
下位 CA は、確立された PKI 階層を必要とし、階層内の上位の CA によって証明書の発行を許可されます。

[CA の種類の詳細](#)

< 前へ(P) **次へ(N) >** 構成(C) キャンセル

## 16 「新しい秘密キーを作成する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunit.local

### 秘密キー

資格情報  
役割サービス  
セットアップの種類  
CA の種類  
**秘密キー**  
暗号化  
CA 名  
有効期間  
証明書データベース  
確認  
進行状況  
結果

秘密キーの種類を指定してください

証明書を生成してクライアントに発行するには、証明機関 (CA) に秘密キーが必要です。

☒ ① 新しい秘密キーを作成する(R)

秘密キーがない場合、または新しい秘密キーを作成する場合は、このオプションを使用します。

☐ ② 既存の秘密キーを使用する(U)

CA の再インストール時に、以前に発行された証明書との連続性を確保する場合は、このオプションを使用します。

☐ ③ 証明書を選択し、関連付けられている秘密キーを使用する(C)

このコンピューターに既存の証明書がある場合、または証明書をインポートしてそれに関連付けられている秘密キーを使用する場合は、このオプションを選択します。

☐ ④ このコンピューターの既存の秘密キーを選択する(E)

以前のインストールの秘密キーを保持している場合、または代替ソースからの秘密キーを使用する場合は、このオプションを選択します。

[秘密キーの詳細](#)

< 前へ(P) **次へ(N) >** 構成(C) キャンセル

## 17 「SHA256」をクリックし、「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunit.local

### CA の暗号化

資格情報  
役割サービス  
セットアップの種類  
CA の種類  
秘密キー  
**暗号化**  
CA 名  
有効期間  
証明書データベース  
確認  
進行状況  
結果

暗号化オプションを指定してください

暗号化プロバイダーの選択(C): RSA#Microsoft Software Key Storage Provider

キー長(K): 2048

この CA から発行された証明書の署名に使用するハッシュ アルゴリズムを選択(H):

SHA256

SHA384

SHA512

SHA1

MD5

☐ CA が秘密キーにアクセスするときに、管理者による操作を許可する。(A)

[暗号化の詳細](#)

< 前へ(P) **次へ(N) >** 構成(C) キャンセル



## 18 「この CA の共通名」を確認し、「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunit.local

### CA の名前

資格情報  
役割サービス  
セットアップの種類  
CA の種類  
秘密キー  
暗号化  
**CA 名**  
有効期間  
証明書データベース  
確認  
進行状況  
結果

CA の名前を指定してください

この証明機関 (CA) を識別する共通名を入力します。この名前は、CA で発行されるすべての証明書に付加されます。識別名のサフィックスは自動的に生成されますが、変更できます。

この CA の共通名(C):  
fjunit-UNITESERVER-CA

識別名のサフィックス(D):  
DC=fjunit,DC=local

識別名のプレビュー(V):  
CN=fjunit-UNITESERVER-CA,DC=fjunit,DC=local

CA の名前の詳細

< 前へ(P) **次へ(N) >** 構成(C) キャンセル

## 19 「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunit.local

### 有効期間

資格情報  
役割サービス  
セットアップの種類  
CA の種類  
秘密キー  
暗号化  
CA 名  
**有効期間**  
証明書データベース  
確認  
進行状況  
結果

有効期間を指定してください

この証明機関 (CA) に対して生成される証明書の有効期間を選択(V):

5 年間

CA の有効期限: 2021/09/28 20:11:00

この CA 証明書に対して構成する有効期間は、その CA が発行する証明書の有効期間を超えている必要があります。

有効期間の詳細

< 前へ(P) **次へ(N) >** 構成(C) キャンセル



## 20 「次へ」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunite.local

### CA データベース

資格情報  
役割サービス  
セットアップの種類  
CA の種類  
秘密キー  
暗号化  
CA 名  
有効期間  
**証明書データベース**  
確認  
進行状況  
結果

データベースの場所を指定してください

証明書データベースの場所(C):  
C:\Windows\system32\CertLog

証明書データベース ログの場所(E):  
C:\Windows\system32\CertLog

[CA データベースの詳細](#)

< 前へ(P) **次へ(N) >** 構成(C) キャンセル

## 21 「構成」をクリックします。

AD CS の構成

対象サーバー  
UniteServer.fjunite.local

### 確認

資格情報  
役割サービス  
セットアップの種類  
CA の種類  
秘密キー  
暗号化  
CA 名  
有効期間  
証明書データベース  
**確認**  
進行状況  
結果

次の役割、役割サービス、または機能を構成するには、[構成] をクリックします。

^ Active Directory 証明書サービス

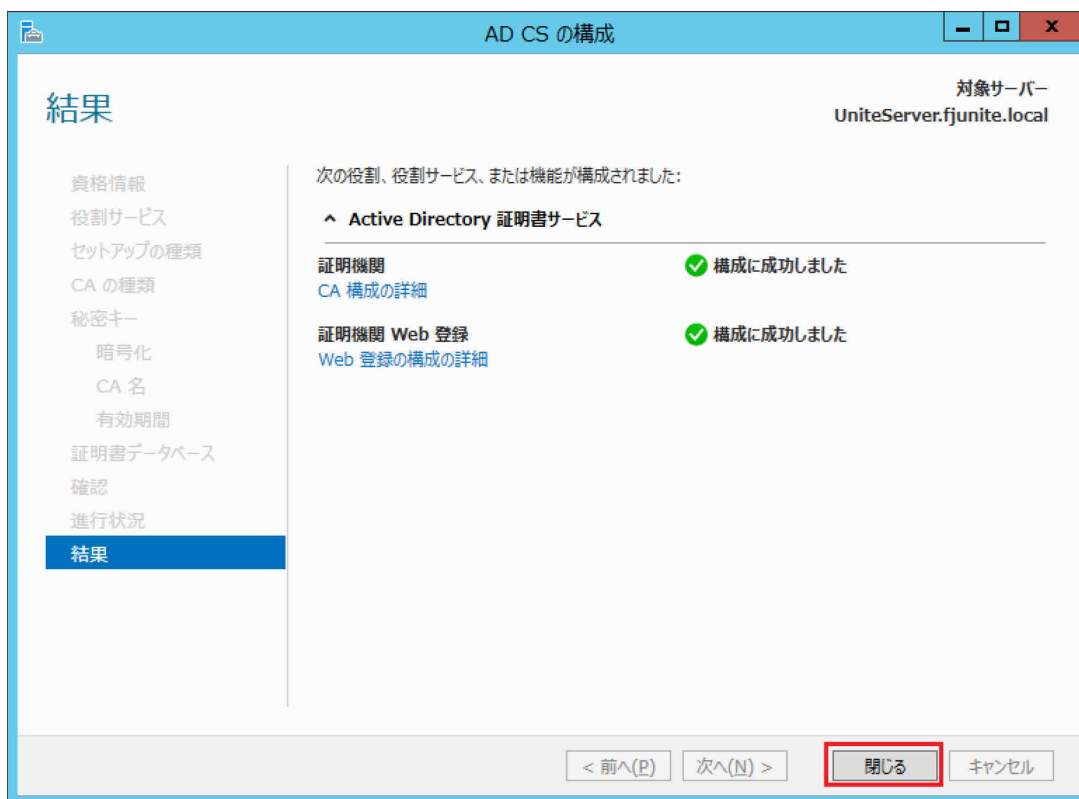
証明機関

CA の種類:	エンタープライズ ルート
暗号化プロバイダー:	RSA#Microsoft Software Key Storage Provider
ハッシュ アルゴリズム:	SHA256
キー長:	2048
管理者による対話操作を許可する:	無効
証明書の有効期間:	2021/09/28 20:11:00
識別名:	CN=fjunite-UNITESERVER-CA,DC=fjunite,DC=local
証明書データベースの場所:	C:\Windows\system32\CertLog
証明書データベース ログの場所:	C:\Windows\system32\CertLog


証明機関 Web 登録

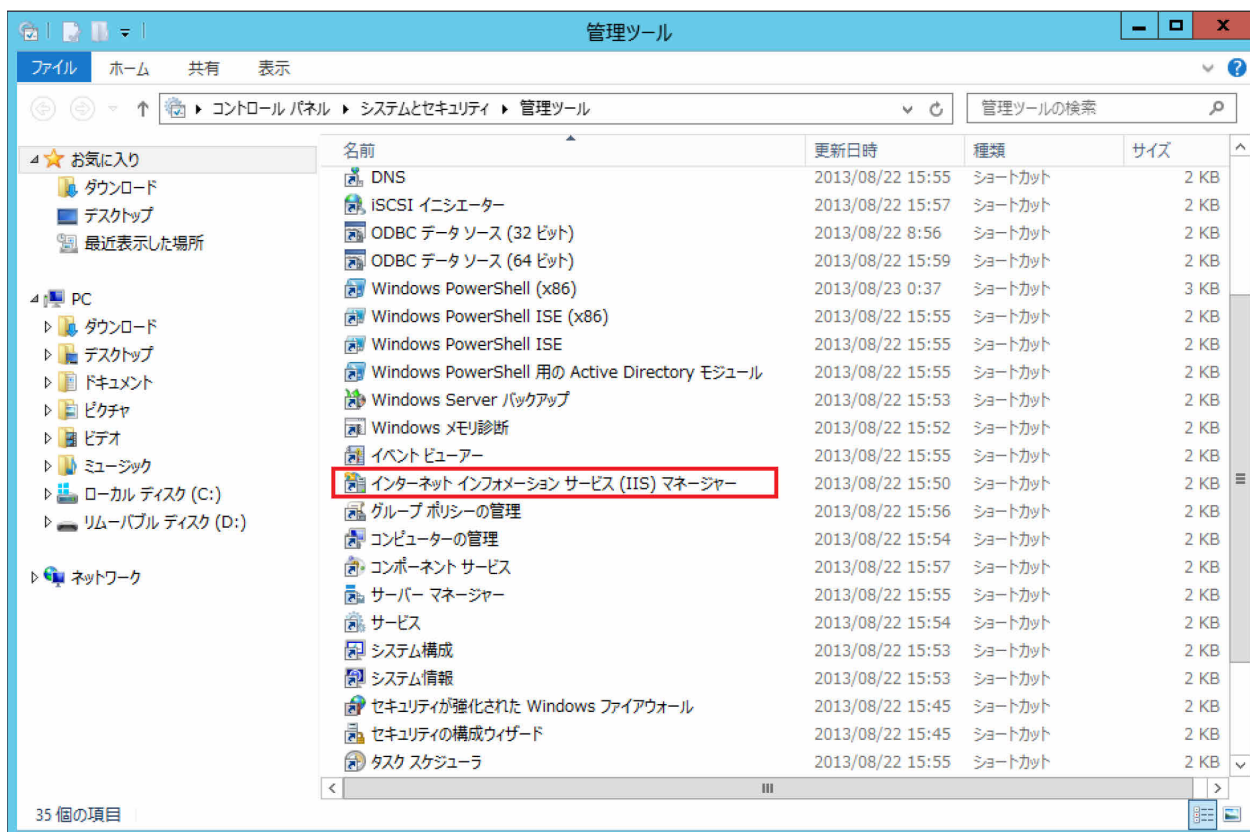
< 前へ(P) 次へ(N) > **構成(C)** キャンセル

## 22 「閉じる」をクリックします。

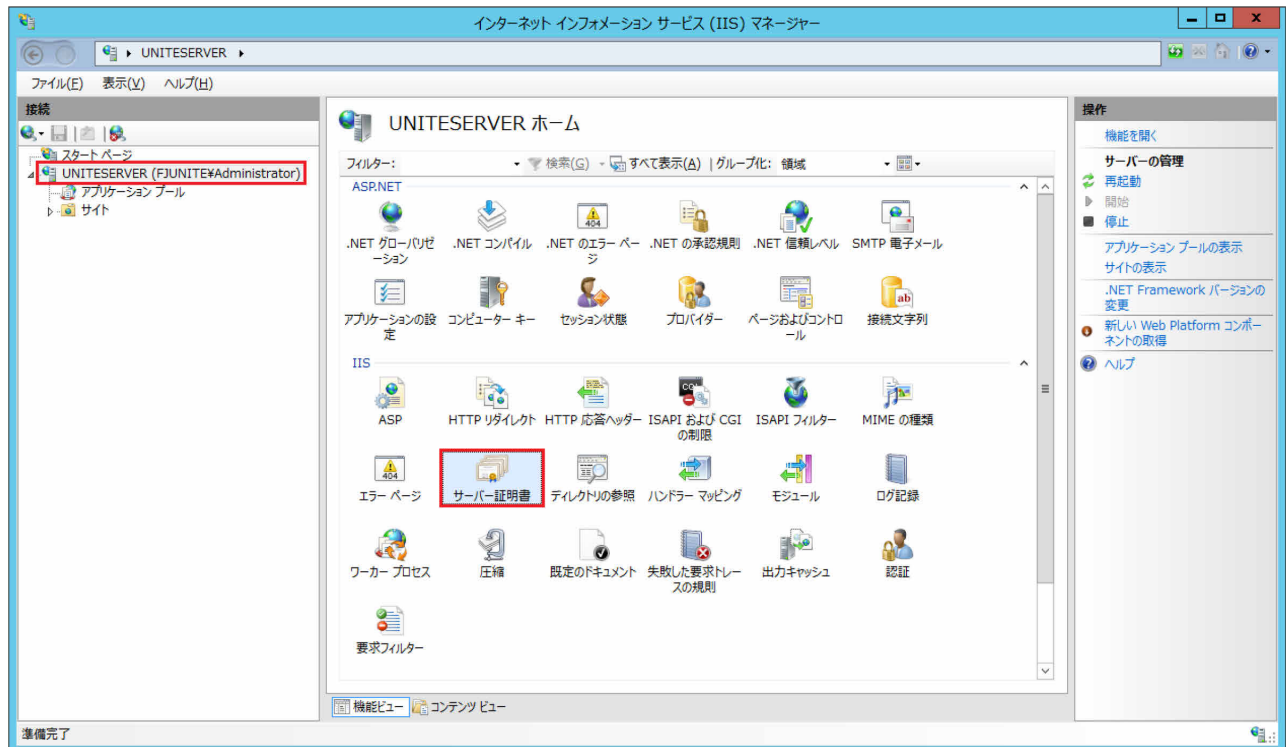


- Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を構成する

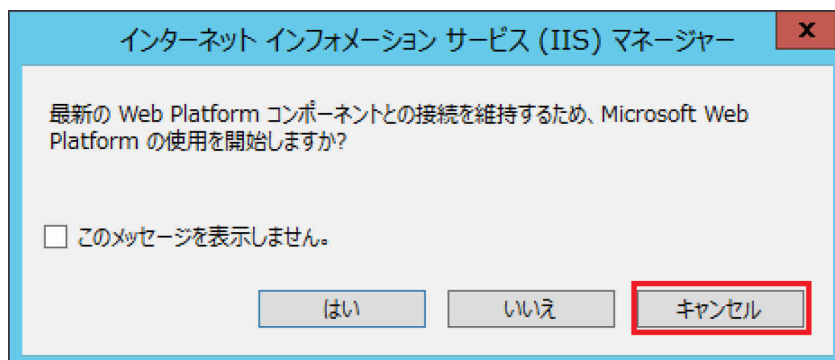
1  (スタート) → 「管理ツール」の順にクリックし、「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」をクリックします。



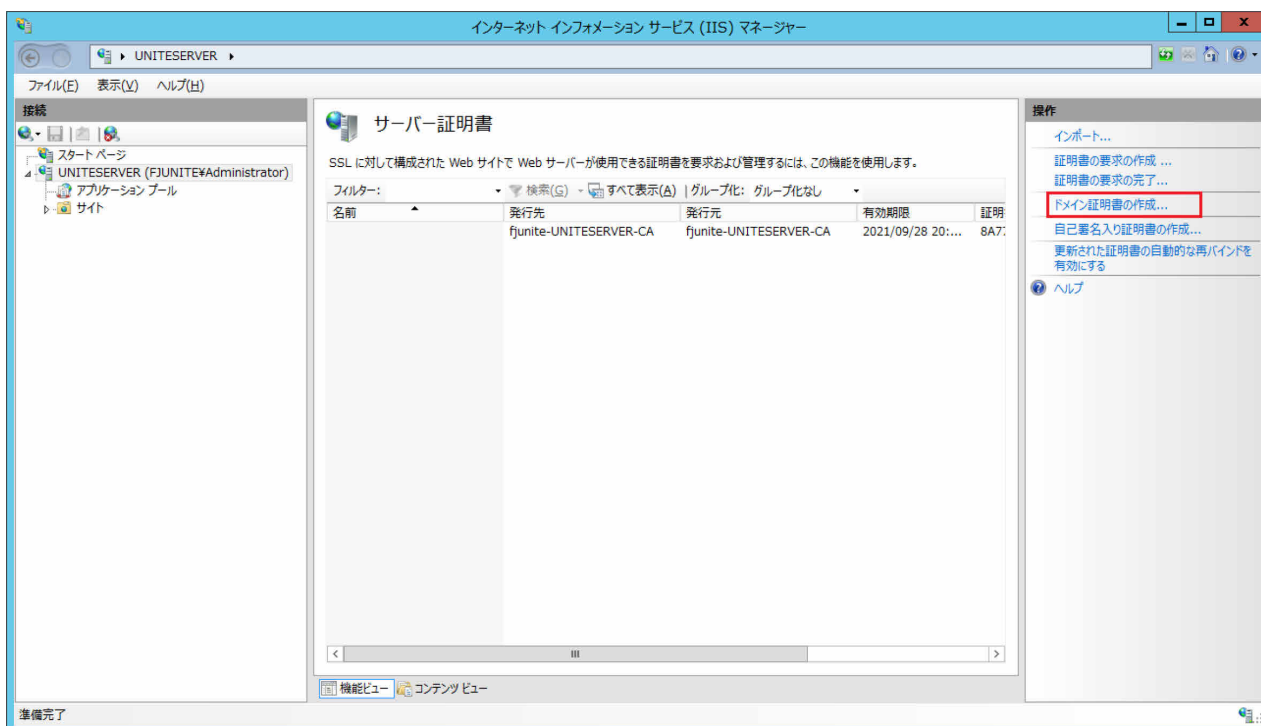
- 2 左側の「接続」パネルのサーバー名（ここでは例として「UNITESERVER」）をクリックし、「サーバー証明書」をダブルクリックします。



- 次の画面が表示された場合は「キャンセル」をクリックします。



3 右側の「操作」パネルの「ドメイン証明書の作成」をクリックします。



4 「一般名」(“サーバー名.”ドメイン名“。この例では、”UniteServer.fjunite.local”)、「組織」、「組織単位」、「市区町村」、「都道府県」、「国/地域」を適切に設定し、「次へ」をクリックします。

The screenshot shows the '証明書を作成' (Create Certificate) wizard, specifically the '識別名プロパティ' (Identity Properties) step. The form contains the following fields and values:

Field	Value
一般名(M):	UniteServer.fjunite.local
組織(O):	Fujitsu
組織単位 (OU)(U):	Corporation
市区町村(L):	Kawasaki
都道府県(S):	Kanagawa
国/地域(R):	JP

The '一般名(M):' field is highlighted with a red box. At the bottom of the window, the '次へ(N)' (Next) button is also highlighted with a red box.

- 5 ①「オンライン証明機関の指定」欄の右の「選択」をクリックし、②「証明機関を設定する」の手順 18 (→P.42) で確認した CA 名の証明機関をクリックし、③「OK」をクリックします。④「オンライン証明機関」画面で「フレンドリ名」にこの証明書を識別するための名称（ここでは例として” Unite 証明書”）を任意で設定し、⑤「終了」をクリックします。

証明書の作成

オンライン証明機関

ドメイン内で証明書に署名する証明機関を指定します。フレンドリ名が必要です。覚えやすい名前にしてください。

オンライン証明機関の指定(Q):

fjunit-UNITESERVER-CA¥UniteServer.fjunit.local

例: CertificateAuthorityName¥ServerName

フレンドリ名(Y):

Unite証明書

① 選択...

④

⑤ 終了(E)

前に戻る(P) 次へ(N) キャンセル

証明機関の選択

使用する証明機関を選択してください(S):

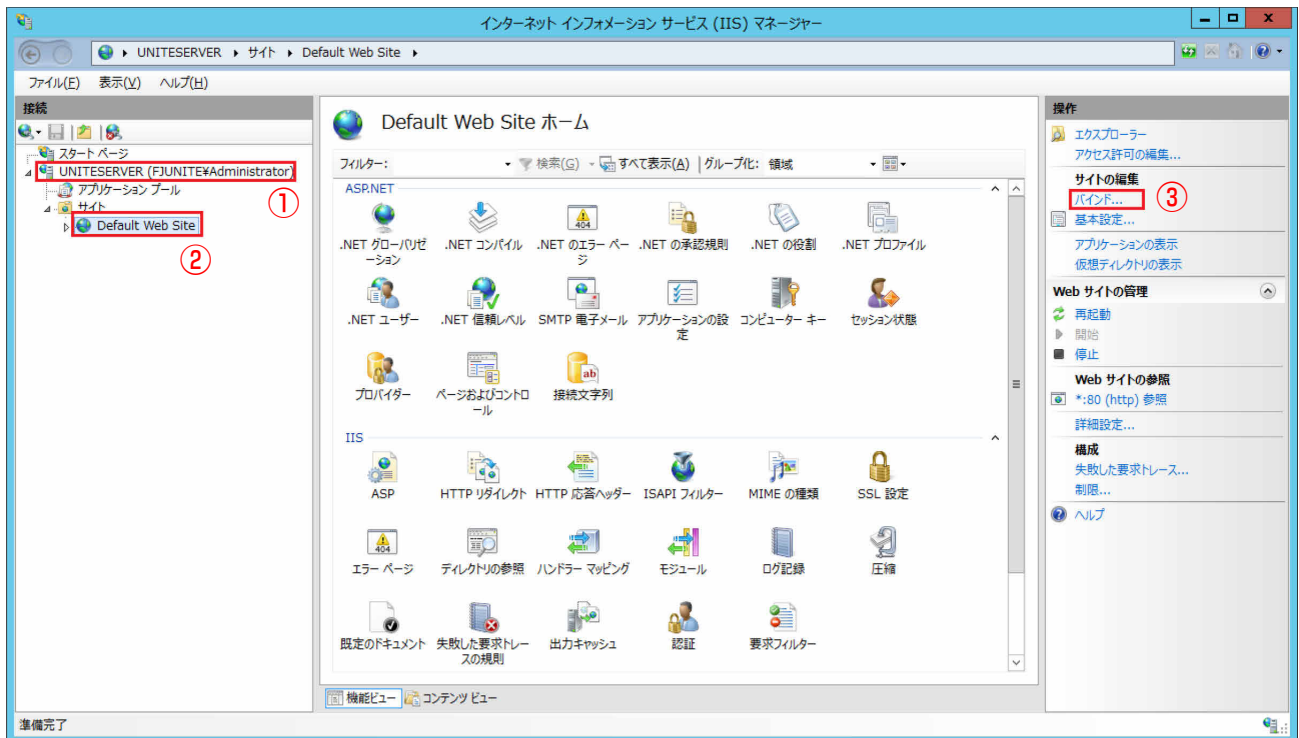
証明機関	コンピューター
fjunit-UNITESERVER-CA	UniteServer.fjunit.local

②

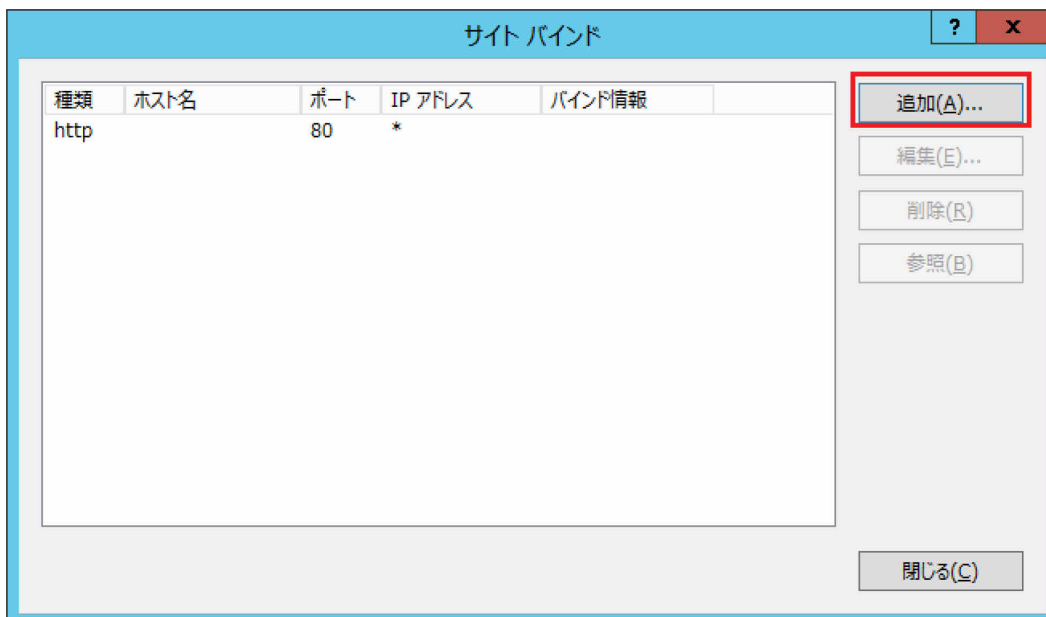
③ OK

キャンセル

- 6 ①左側の「接続」パネルにあるサーバー名（ここでは例として“UNITESERVER”）の下の「サイト」をクリックして展開し、②「Default Web Site」をクリックし、③右側の「操作」パネルから「バインド」をクリックします。



- 7 「追加」をクリックします。



## 8 次の内容を設定し、「OK」をクリックします。

- 種類：https
- IP アドレス：未使用 IP のすべて
- ポート：443
- ホスト名：(空欄のまま)
- SSL 証明書：Unite 証明書 (P.47 手順 5 でフレンドリ名として設定したものを指定)

サイト バインドの追加

種類(I): https IP アドレス(I): 未使用の IP アドレスすべて ポート(Q): 443

ホスト名(H):

☐ サーバー名表示を要求する(N)

SSL 証明書(E): Unite証明書 選択(L)... 表示(V)...

OK キャンセル

## 9 「サイト バインド」画面の「閉じる」をクリックします。

### ● SQL Server のインストール

Microsoft SQL Server (2008 R2 以降) をインストールします (この例では 2014 を使用)。

#### 1 セットアップを実行し、「SQL Server インストール センター」をクリックします。

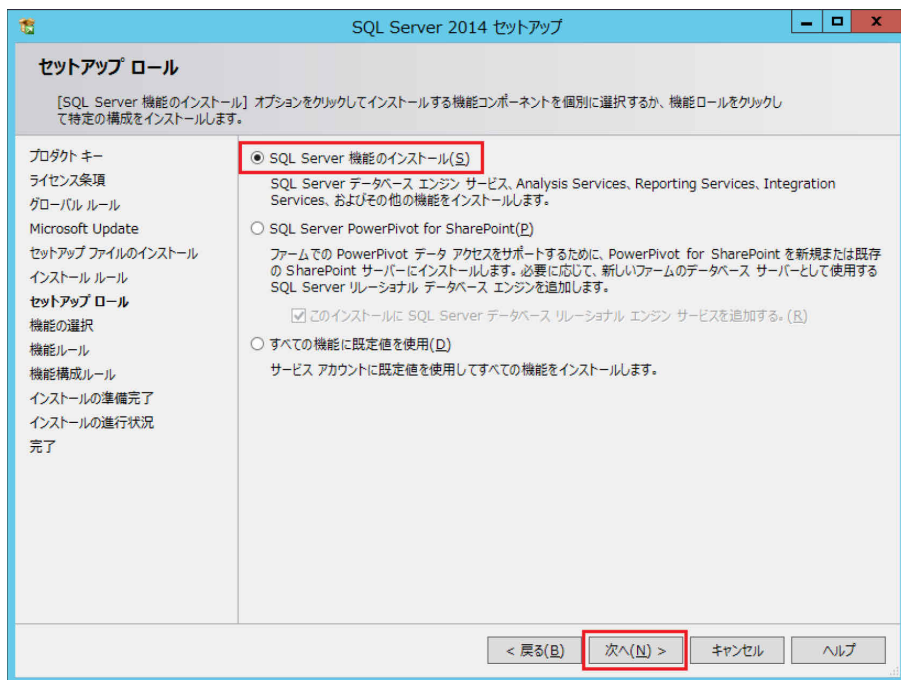
#### 2 左側の「インストール」をクリックし、「SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します」をクリックします。



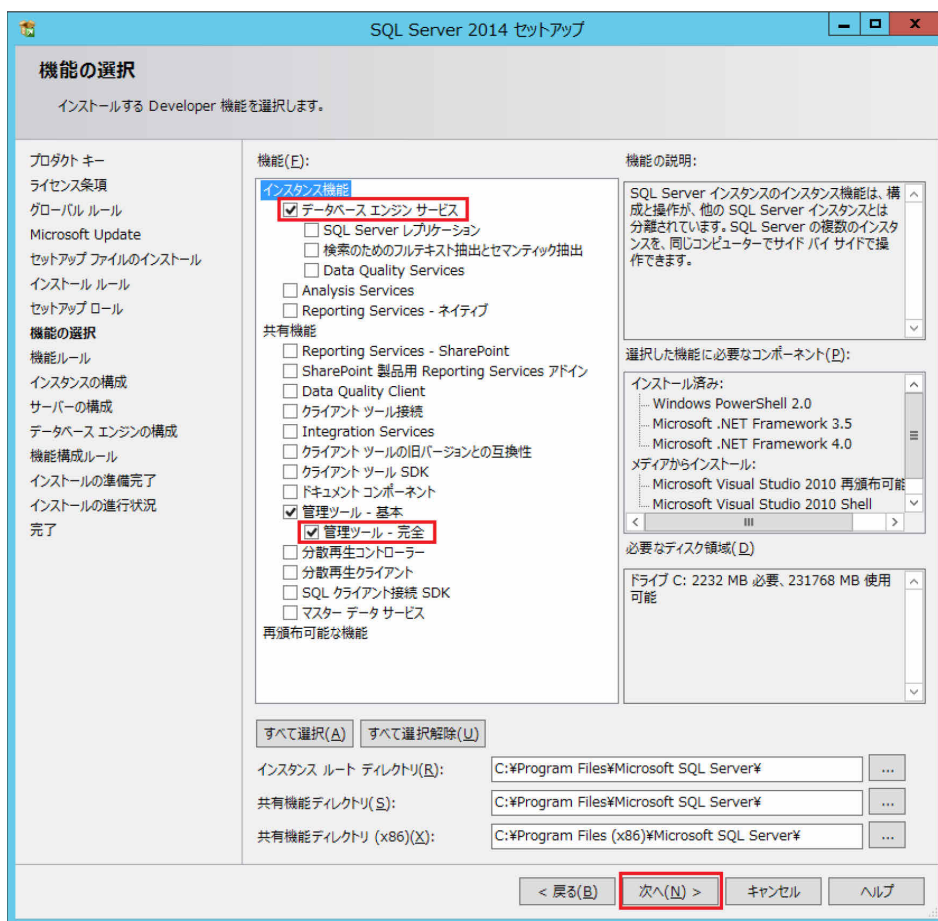


3 画面の指示に従って、「プロダクトキー」の入力と「ライセンス条項」に同意し、Windows Update の確認の設定を行い、インストールを続けます。

4 「SQL Server 機能のインストール」をクリックし、「次へ」をクリックします。



5 「データベース エンジン サービス」と「管理ツール-完全」をクリックし、「次へ」をクリックします。



## 6 「既定のインスタンス」をクリックし、「次へ」をクリックします。

SQL Server 2014 セットアップ

### インスタンスの構成

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

プロダクト キー  
ライセンス条項  
グローバル ルール  
Microsoft Update  
セットアップ ファイルのインストール  
インストール ルール  
セットアップ ロール  
機能の選択  
機能ルール  
**インスタンスの構成**  
サーバーの構成  
データベース エンジンの構成  
機能構成ルール  
インストールの準備完了  
インストールの進行状況  
完了

☒ 既定のインスタンス(D)

☐ 名前付きインスタンス(A): MSSQLSERVER

インスタンス ID(I): MSSQLSERVER

SQL Server ディレクトリ: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL12.MSSQLSERVER

インストール済みのインスタンス(L):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
---------	-----------	----	--------	-------

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル ヘルプ

## 7 「次へ」をクリックします。

SQL Server 2014 セットアップ

### サーバーの構成

サービス アカウントと照合順序の構成を指定します。

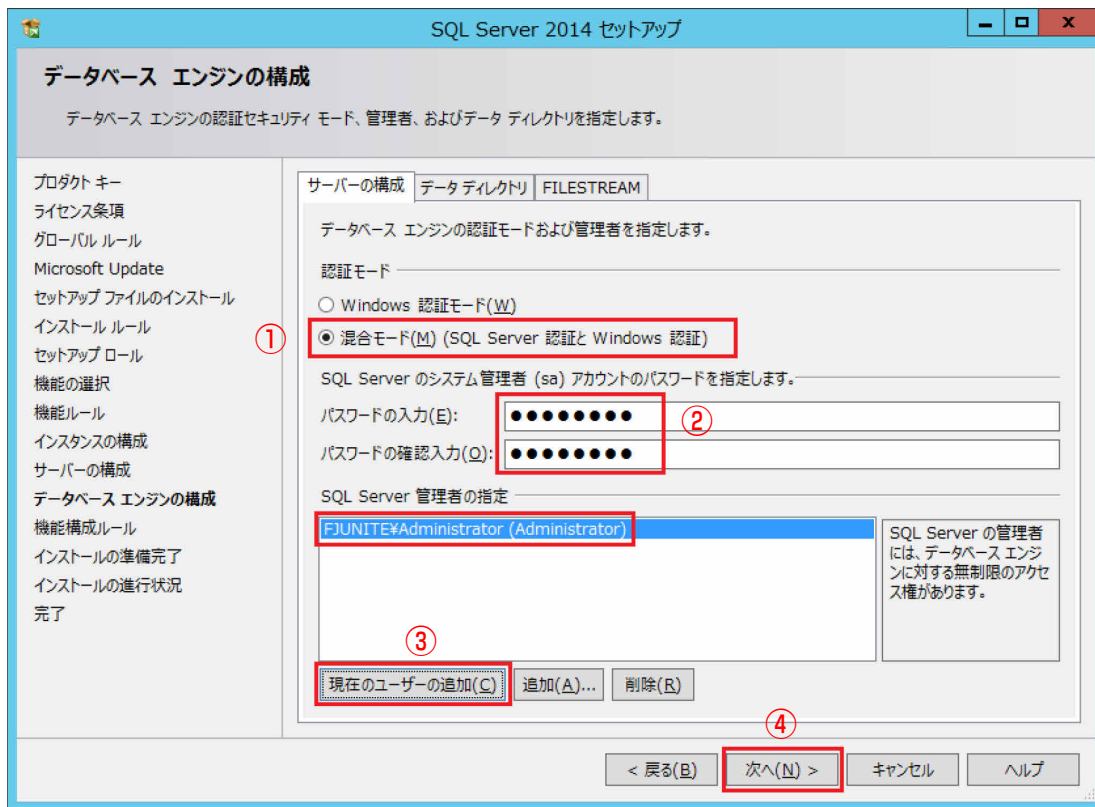
サービス アカウント 照合順序

各 SQL Server サービスに別々のアカウントを使用することをお勧めします(M)

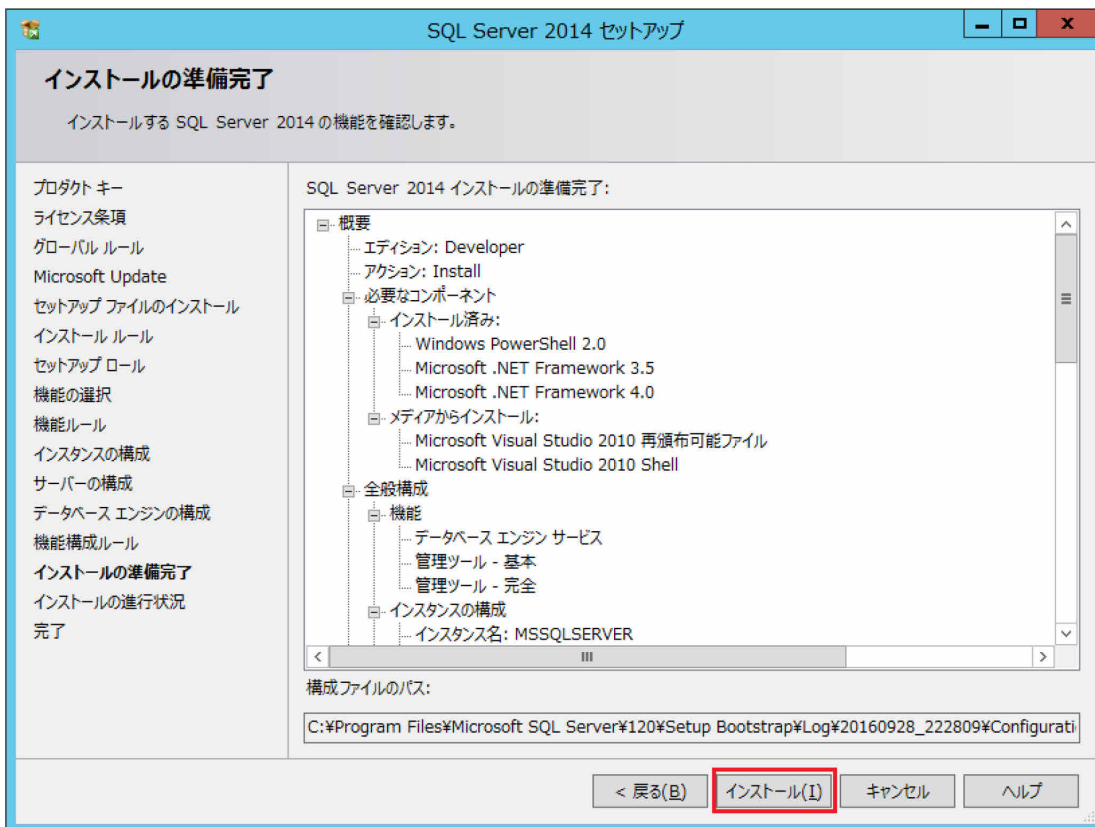
サービス	アカウント名	パスワード	スタートアップの種類
SQL Server エージェント	NT Service\MSSQLSERVER		手動
SQL Server データベース エンジン	NT Service\MSSQLSERVER		自動
SQL Server Browser	NT AUTHORITY\LOCAL SYSTEM		無効

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル ヘルプ

- 8 ①「混合モード」をクリックし、②SQL Server のシステム管理者アカウントのパスワードを設定し、③「現在のユーザーの追加」をクリックしたあと管理者を設定し、④最後に「次へ」をクリックします。



- 9 「インストール」をクリックすると、インストールが開始されます。



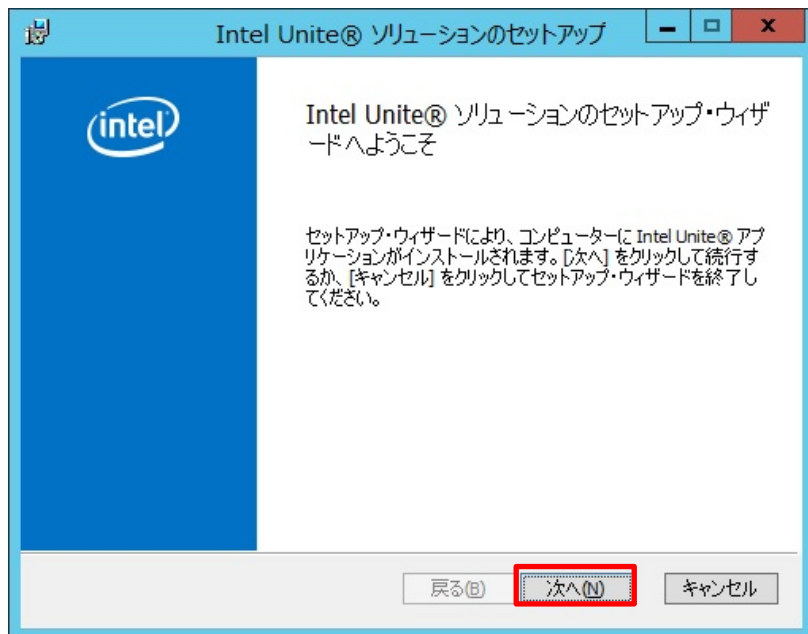
- 10 「完了」画面が表示されたら、「閉じる」をクリックします。

- Intel Unite エンタープライズ・サーバーをインストールする

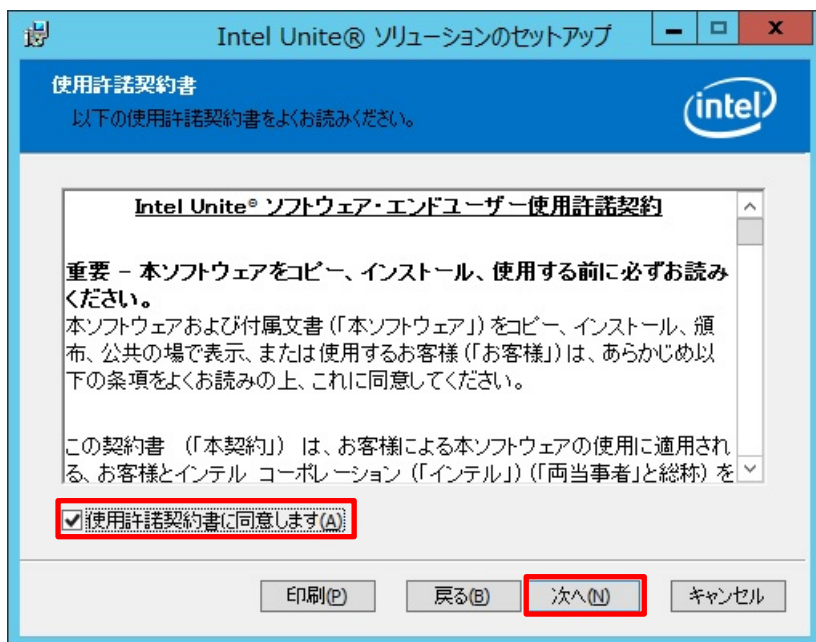
**1** ダウンロードした Unite エンタープライズ・サーバーのインストーラー（Intel Unite Server.mui.msi）を実行し、セットアップを開始します。

V3.2 より古いバージョンからアップグレードインストールする場合は、アップグレードインストールによりデータベースの内容が変更されます。変更は元に戻せないため、必要に応じて事前にデータベースをバックアップしてください。

**2** 「次へ」をクリックします。



**3** 「使用許諾契約書に同意します」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。



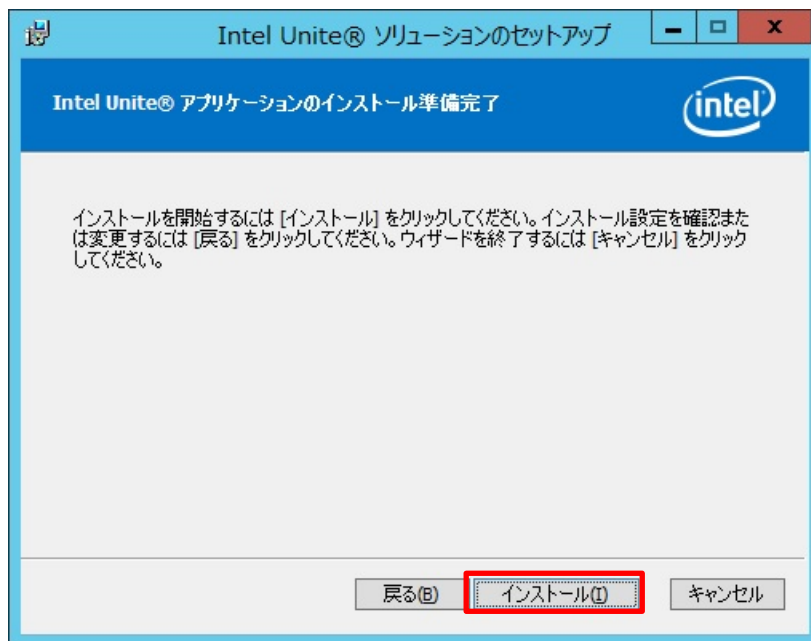
4 ①次の設定を行い、②「テスト接続」をクリックしてデータベース・サーバーへの接続に成功することを確認できたら、③「次へ」をクリックします。

- ・ SQL ホスト名：(local)
- ・ 「信頼済み (Windows 認証)」を選択
- ・ ホスト (FQDN)：このサーバーの FQDN (この例では「UniteServer.fjunit.local」)
- ・ サービス・アカウント・パスワード：UniteServer データベースのパスワードを設定 (8 文字以上で、大文字、小文字、数字、記号がそれぞれ 1 文字以上使用されている必要があります。)

5 「データベース」をクリックして展開し、「ローカル ハード ドライブにすべてインストール」をクリックし、最後に「次へ」をクリックします。



## 6 「インストール」をクリックすると、インストールが開始されます。

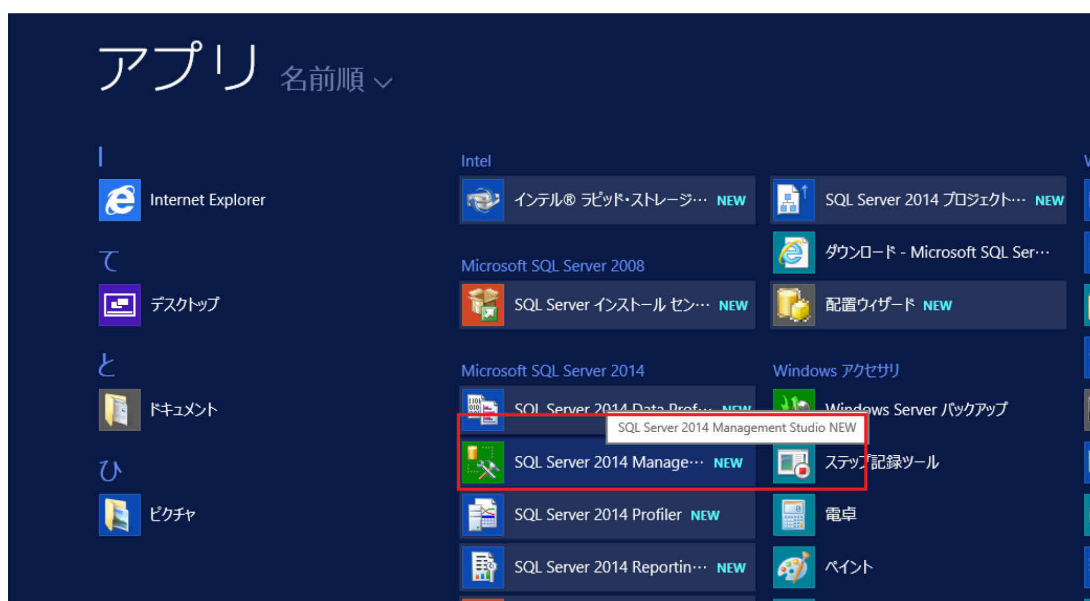


## 7 インストール完了後、「完了」をクリックして終了します。

### ● 正常にインストールされたことを確認する

SQL Management Studio を使用して、UniteServer データベースが作成されていることを確認します。

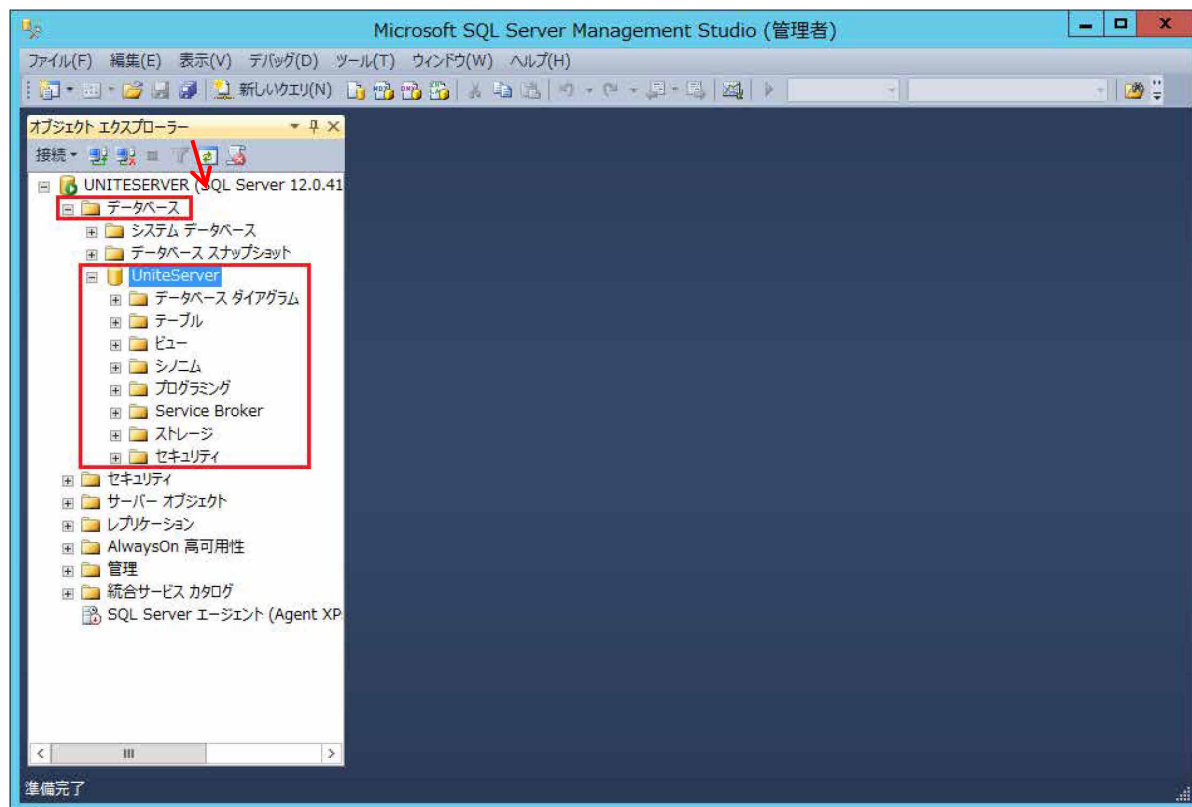
## 1 (スタート) をクリックし、アプリ一覧を表示し、「SQL Management Studio」をクリックします。



## 2 SQL Server に接続します。



## 3 左側の枠で「データベース」をクリックして展開し、「UniteServer」データベースが作成されていることを確認してください。





- 4 ブラウザを起動し、次の URL を入力して管理者ポータルにアクセスし、インストールが成功したことを確認します。

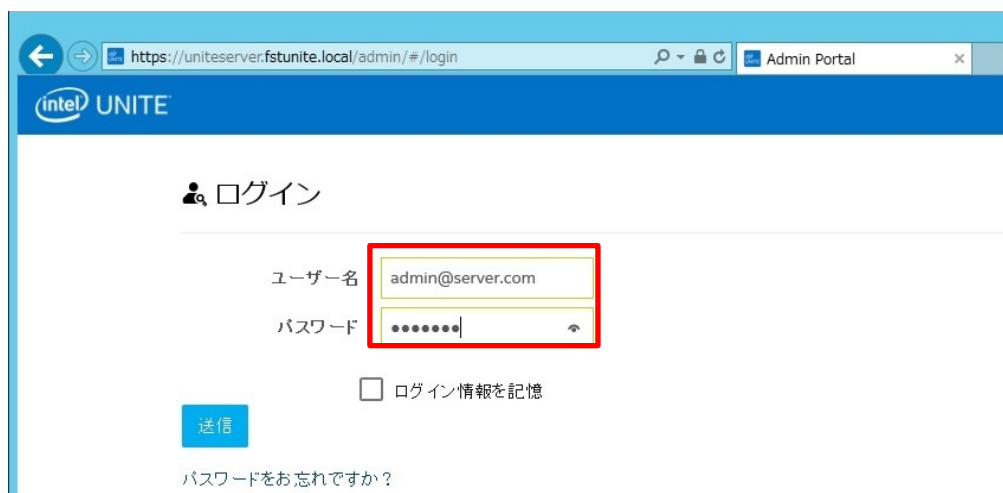
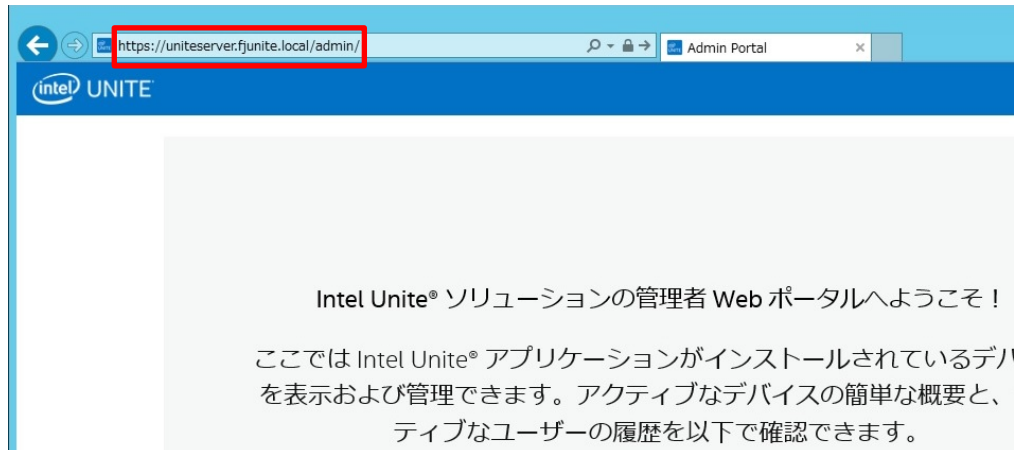
https://<サーバー名>/admin (この例では <https://UniteServer.fjunite.local/admin/>)

デフォルトの管理者アカウント

ユーザー：admin@server.com

パスワード：Admin@1

上記の管理者アカウントで管理者ポータルに初回ログインした後は、必ずパスワードを変更してください。



- 新しいパスワードを設定



- 5 ブラウザを起動し、次の URL にアクセスして、Web サービスのインストールが正常に完了したことを確認します。

https://<サーバー名>/unite/ccservice.asmx

(この例では https://UniteServer.fjunit.local/unite/ccservice.asmx )

- 6 「GetProfile」を選択します。

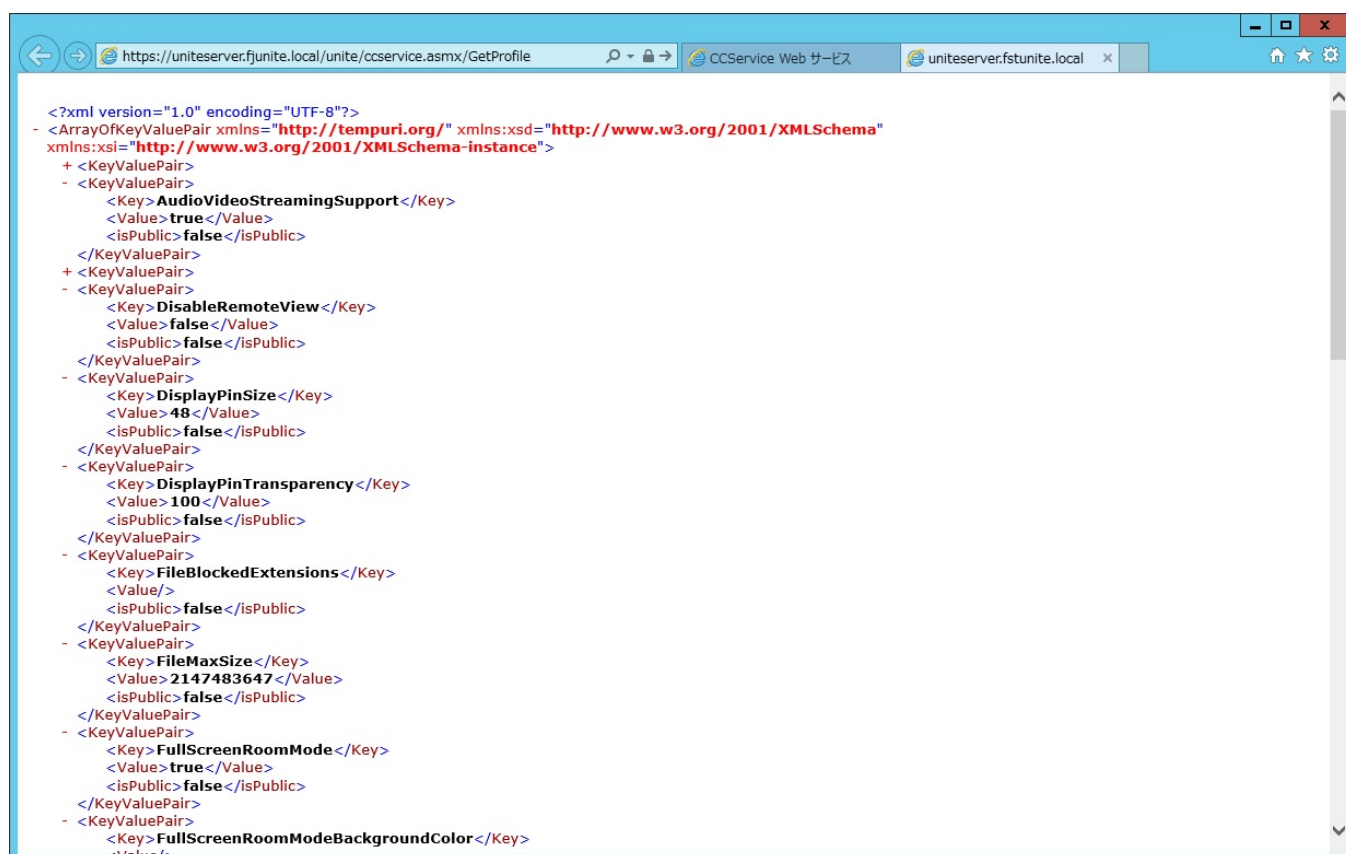


- 7 「値」の入力欄に、「test」と入力し、「起動」をクリックします。



## 8 次のように xml ファイルのデフォルト・プロファイルが表示されるか確認します。

これは、PIN サービスがデータベースにアクセスでき、正常にデータを取得できることを意味します。

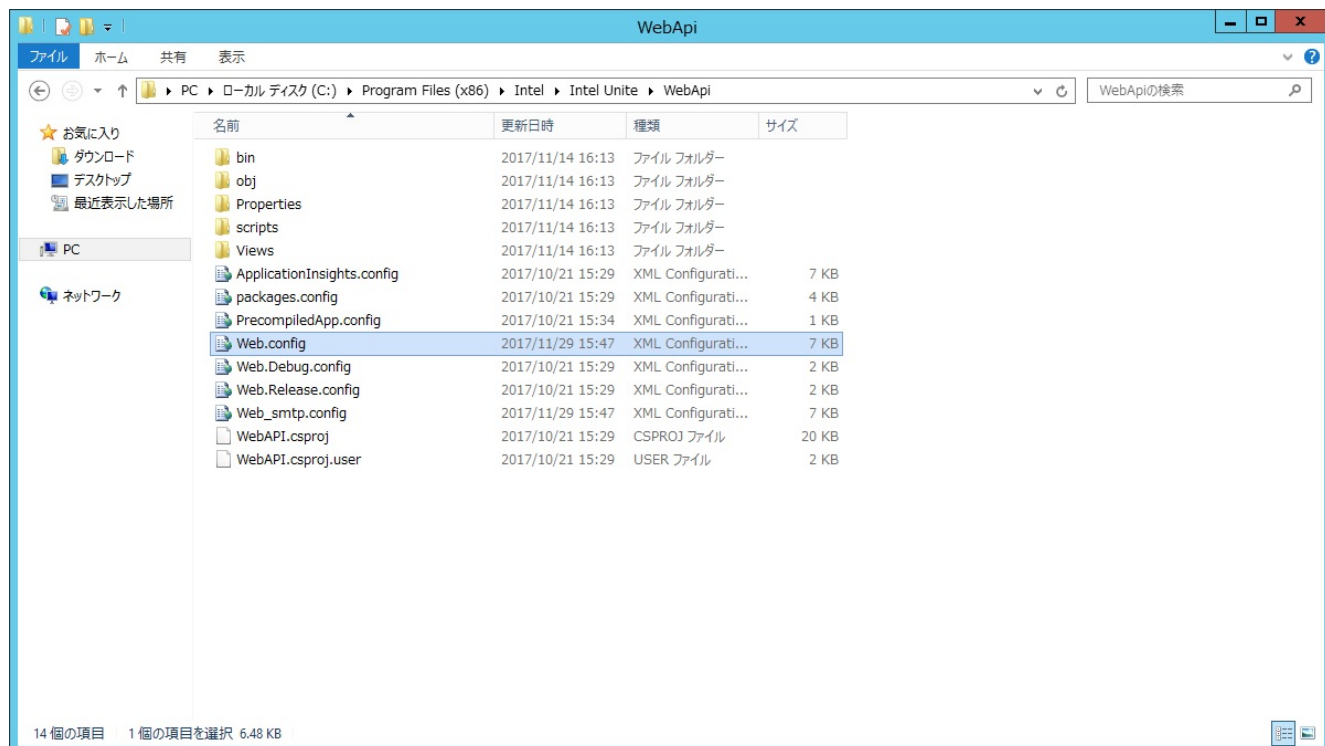


The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying `https://uniteserver.fjunite.local/unite/ccservice.asmx/GetProfile`. The browser has two tabs: "CCService Web サービス" and "uniteserver.fstunite.local". The main content area displays an XML document. The XML starts with a declaration `<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>` followed by a root element `<ArrayOfKeyValuePair xmlns="http://tempuri.org/" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">`. Inside this root element, there are several `<KeyValuePair>` elements, each containing a `<Key>`, a `<Value>`, and an `<isPublic>` attribute. The keys and values are as follows:

- `<Key>AudioVideoStreamingSupport</Key>`, `<Value>true</Value>`, `<isPublic>>false</isPublic>`
- `<Key>DisableRemoteView</Key>`, `<Value>>false</Value>`, `<isPublic>>false</isPublic>`
- `<Key>DisplayPinSize</Key>`, `<Value>48</Value>`, `<isPublic>>false</isPublic>`
- `<Key>DisplayPinTransparency</Key>`, `<Value>100</Value>`, `<isPublic>>false</isPublic>`
- `<Key>FileBlockedExtensions</Key>`, `<Value>/>`, `<isPublic>>false</isPublic>`
- `<Key>FileMaxSize</Key>`, `<Value>2147483647</Value>`, `<isPublic>>false</isPublic>`
- `<Key>FullScreenRoomMode</Key>`, `<Value>true</Value>`, `<isPublic>>false</isPublic>`
- `<Key>FullScreenRoomModeBackgroundColor</Key>`, `<Value>/>`, `<isPublic>>false</isPublic>`

## ● 電子メールサーバーの設定

- 1 「C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\WebApi\Web.config」ファイルをメモ帳などで開きます。



- 2 以下の内容を<system.net>と</system.net>の間に追加し、上書き保存します。

<mailSettings>

<smtp from = “送信元とするメールアドレス” deliveryMethod=” Network” >


<network host=” Exchange サーバーの FQDN” port=” 25” username=” 認証に使用するアカウント名” password=” 認証に使用するアカウントパスワード” />

</smtp>

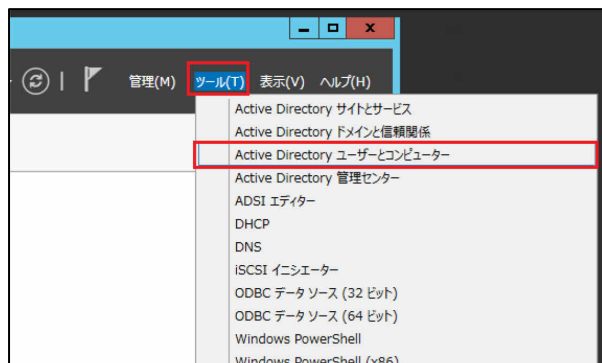
</mailSettings>

```
<system.codedom>
  <compilers>
    <compiler language="c#;cs;sharp" extension=".cs" type="Microsoft.CodeDom.Providers.DotNetCompilerPlatform.CSharpCodePr
    <compiler language="vb;vbs;visualbasic;vbscript" extension=".vb" type="Microsoft.CodeDom.Providers.DotNetCompilerPlatfc
  </compilers>
</system.codedom>
<system.net>
  <mailSettings>
    <smtp from="administrator@fjunitelocal" deliveryMethod="Network">
      <network host="ExchangeServer.fjunitelocal" port="25" userName="administrator@fjunitelocal" password="P@ssw0rd"/>
    </smtp>
  </mailSettings>
</system.net>
</configuration>
```

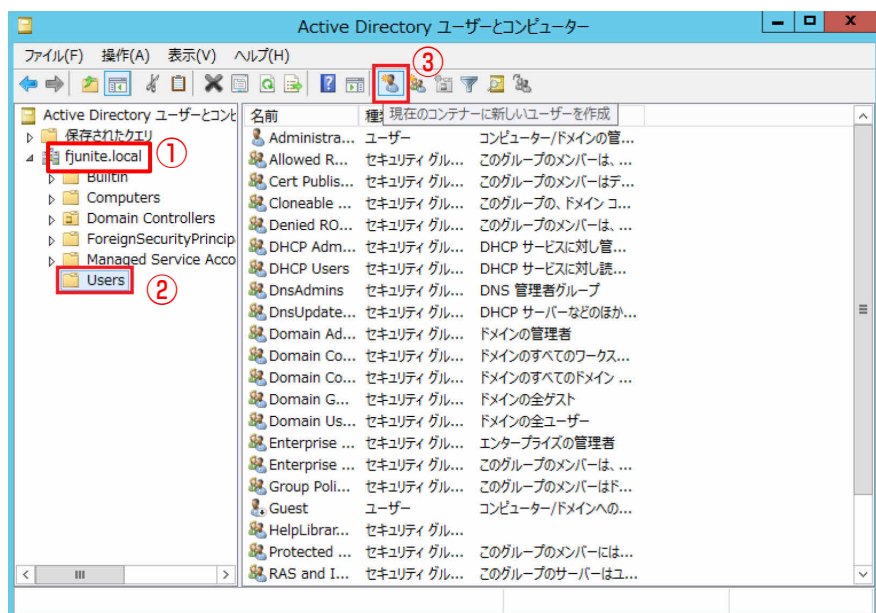
## ● Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成

1  (スタート) → 「管理ツール」の順にクリックし、「サーバー マネージャー」をダブルクリックします。

2 「ツール」から「Active Directory ユーザーとコンピューター」をクリックします。



3 ①左枠のサーバー（この例では fjunite.local）をクリックして展開し、②「User」をクリックし、③「現在のコンテナに新しいユーザーを作成」をクリックします。



4 「姓」、「名」、「ユーザー ログオン名」を設定し、「次へ」をクリックします（この例では、姓：Unite、名：Hub、ユーザーログオン名：UniteHub としています。）。



**5** パスワードの初期値等を必要に応じて設定し、「次へ」をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: fjunite.local/Users

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

☐ ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要(M)

☐ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

☐ パスワードを無期限にする(W)

☐ アカウントは無効(Q)

必要に応じて設定

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

**6** 「完了」をクリックします。

新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: fjunite.local/Users

[完了] をクリックすると、次のオブジェクトが作成されます:

フルネーム: Unite Hub

ユーザー ログイン名: UniteHub@fjunite.local


< 戻る(B) 完了 キャンセル

## Unite ハブのインストール

### ● ハブ PC (Q956/MRE) のセットアップ

1 取扱説明書の手順に従い、ハブ PC (Q956/MRE) の Windows セットアップを行います。

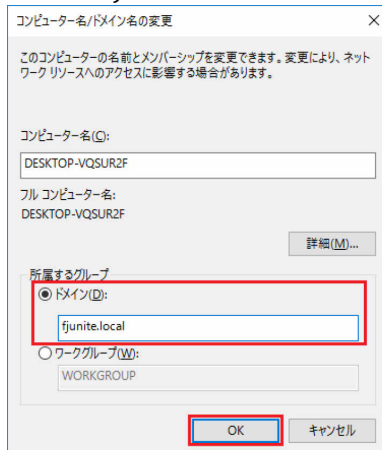
2 使用中に省電力モード状態にならないよう次の設定をします。

- ①  (スタート) → 「コントロールパネル」 → 「ハードウェアとサウンド」 → 「電源オプション」 の順にクリックします。
- ② 「バランス」の「プラン設定の変更」をクリックし、次のように設定します。
  - ディスプレイの電源を切る：適用しない
  - コンピューターをスリープ状態にする：適用しない
- ③ 「変更の保存」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

3 ハブ PC を、先にセットアップしたサーバー管理下のネットワークに接続します。

4 ハブ PC を「ドメインのセットアップ (→P.14)」で作成したドメインに参加させます。

- ① 「スタートボタン」を右クリックし、「コントロール パネル」をクリックします。
- ② 「システムとセキュリティ」から「システム」をクリックします。
- ③ 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「設定の変更」をクリックし、「システムのプロパティ」を開きます。
- ④ 「変更」をクリックします。
- ⑤ 所属するグループの「ドメイン」をクリックし、作成したドメイン名を入力（この例では「fjunite.local」）し、「OK」をクリックします。



- ⑥ ドメインに参加するためのアクセス許可のあるアカウントの名前とパスワードの入力を要求されますので、「Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成 (P.61)」で作成したアカウント情報を入力（この例では、ユーザー名：UniteHub）し、「OK」をクリックします。





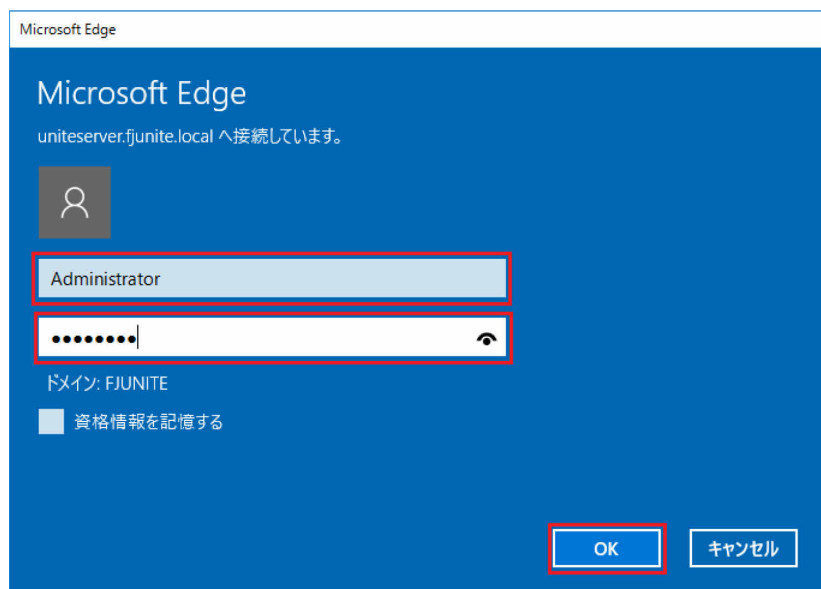
- ⑦ ドメインへの参加が表示されますので「OK」をクリックし、システムの再起動の要求が表示されたら「OK」をクリックし、システムを再起動します。
- ⑧ サインイン画面にて、画面左下の「他のユーザー」をクリックし、「Unite Hub 用の Active Directory のアカウント作成 (P.61)」で作成したアカウントでサインインします（この例では、ユーザー名：UniteHub）。

## ● 証明書のインストール

作業中に「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合は、エンタープライズ・サーバーの管理者アカウント情報を入力してください。

### 1 ブラウザを起動し、下記 URL にアクセスします。

- <http://<サーバー名>/certsrv>（この例では <http://UniteServer.fjunitelocal/certsrv>）
- ユーザー名とパスワードが要求されますので、「エンタープライズ・サーバーのインストール (P.4)」でセットアップしたエンタープライズ・サーバーの管理者アカウントとパスワードを入力して「OK」をクリックします。



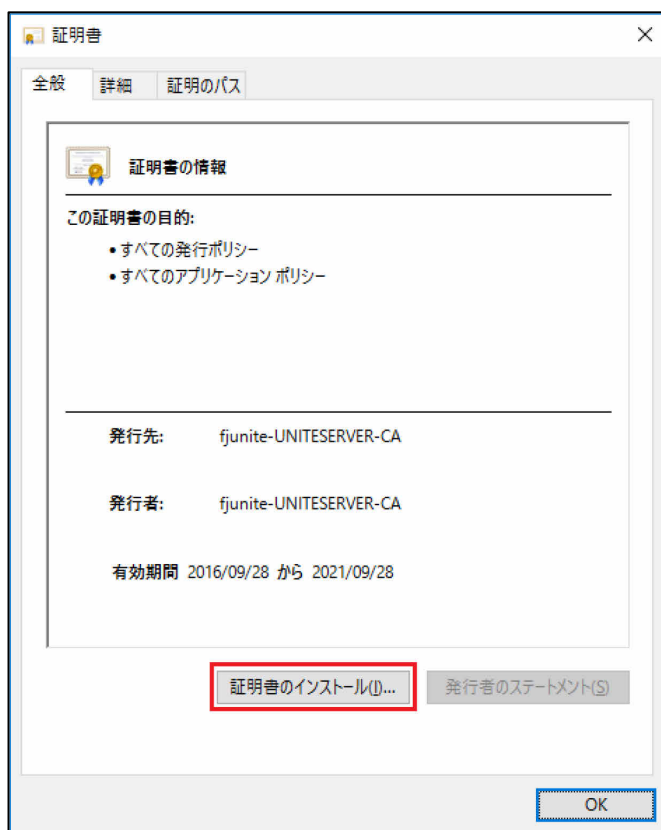
### 2 「Microsoft Active Directory 証明書サービス」画面で、「CA 証明書、証明書チェーン、または CRL のダウンロード」をクリックします。



### 3 「CA 証明書のダウンロード」をクリックし、証明書を任意のフォルダに保存します。



### 4 ダウンロードした証明書をダブルクリックし、「証明書のインストール」をクリックします。



**5** 保存場所の「ローカルコンピューター」をクリックし、「次へ」をクリックします。

← 証明書のインポート ウィザード

証明書のインポート ウィザードの開始

このウィザードでは、証明書、証明書信頼リスト、および証明書失効リストをディスクから証明書ストアにコピーします。

証明機関によって発行された証明書は、ユーザー ID を確認し、データを保護したり、またはセキュリティで保護されたネットワーク接続を提供するための情報を含んでいます。証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

保存場所

☐ 現在のユーザー(U)

☒ ローカル コンピューター(L)

続行するには、[次へ] をクリックしてください。

次へ(N) キャンセル

**6** 「証明書をすべて次のストアに配置する」をクリックし、「参照」をクリックします。

← 証明書のインポート ウィザード

証明書ストア

証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の場所を指定することができます。

☐ 証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)

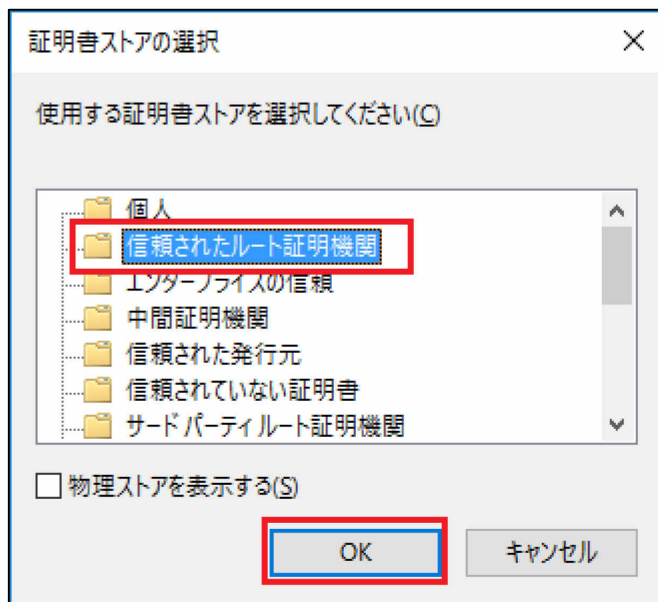
☒ 証明書をすべて次のストアに配置する(P)

証明書ストア:

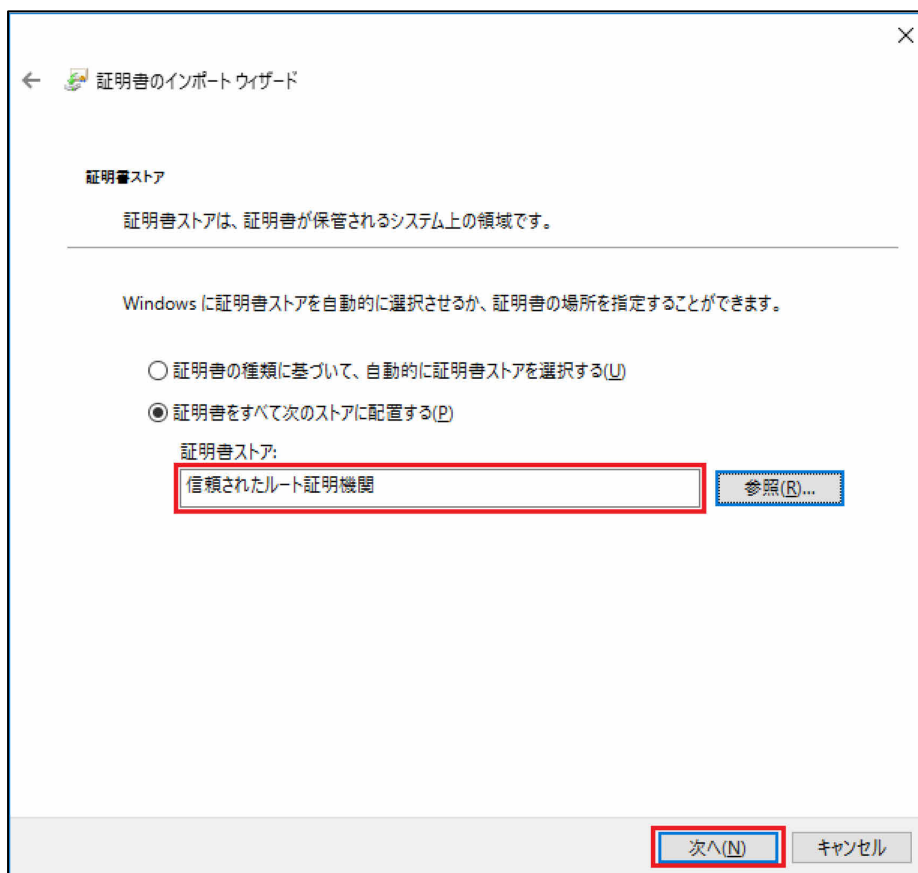
参照(R)...

次へ(N) キャンセル

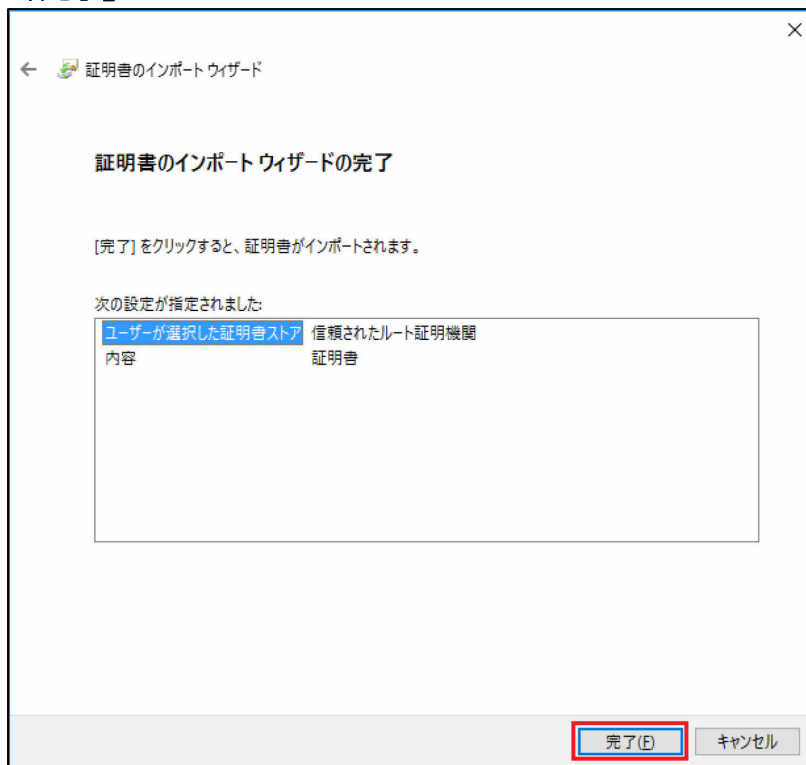
7 「信頼されたルート証明機関」をクリックし、「OK」をクリックします。



8 「証明書ストア」に「信頼されたルート証明機関」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



## 9 「完了」をクリックします。



## 10 正しくインポートされたメッセージが表示されたことを確認し、ウィンドウを閉じます。

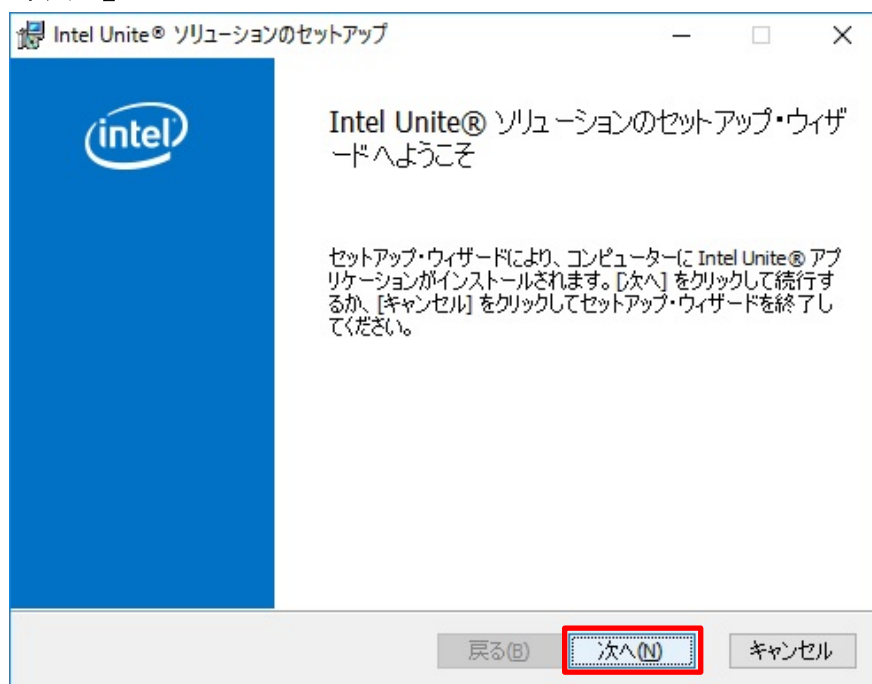
### ● Intel Unite ハブ アプリケーションのインストール

作業中に「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合は、エンタープライズ・サーバーの管理者アカウント情報を入力してください。

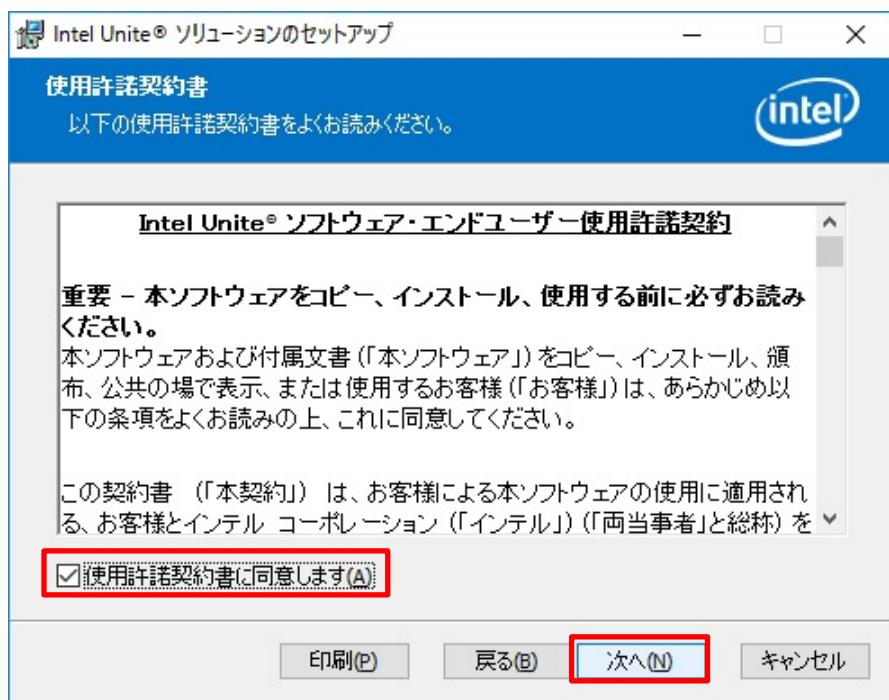
V3.2 より古いバージョンからアップグレードインストールする場合は、動作中のハブ アプリケーションを終了させてください。

## 1 ダウンロードしたインストーラー「Intel Unite Hub.mui.msi」を実行します。

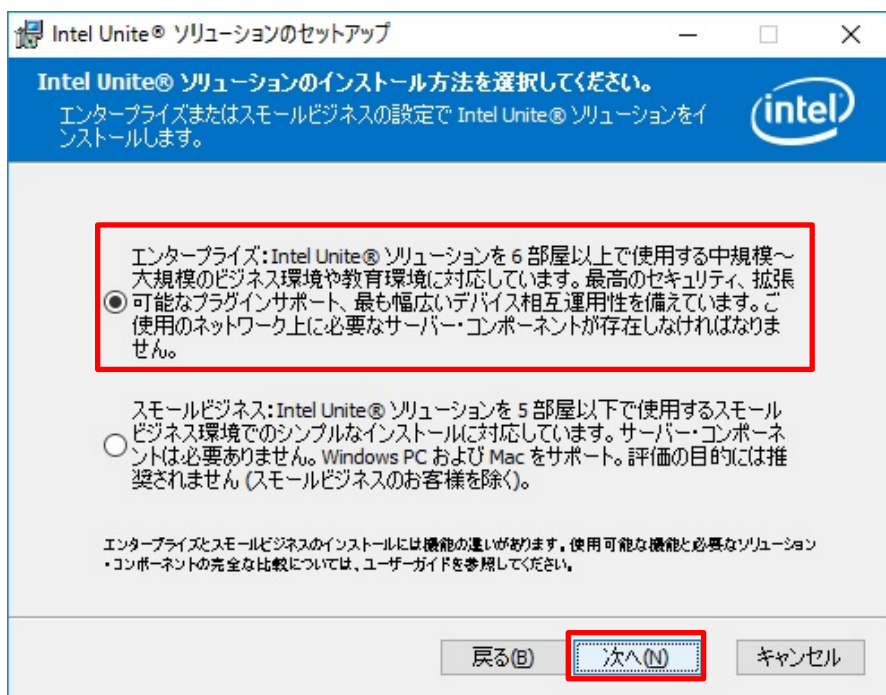
## 2 「次へ」をクリックします。



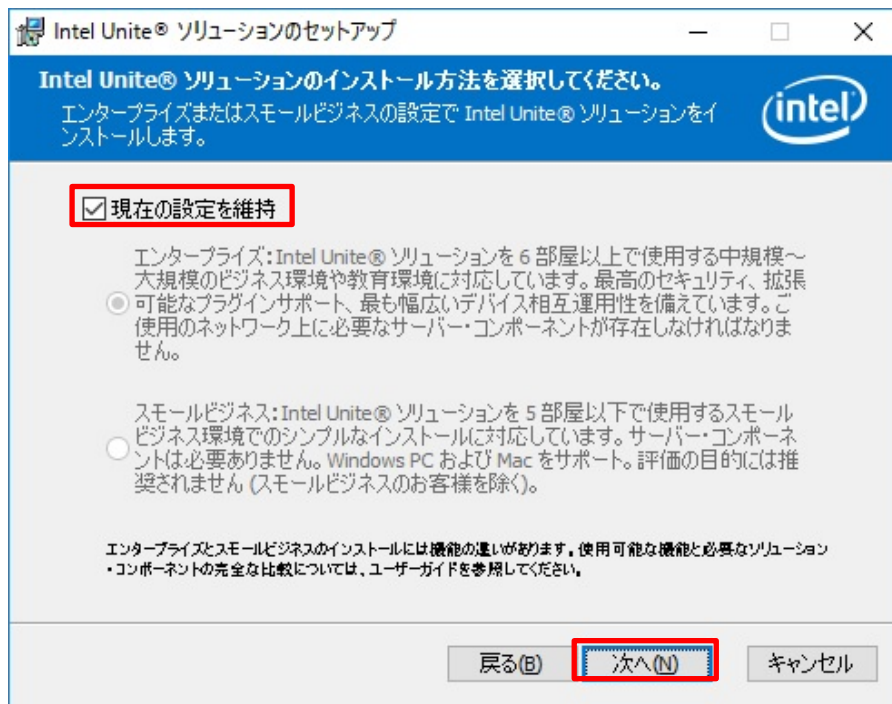
- 3 使用許諾契約書の内容を確認し、「使用許諾契約書に同意します」にチェックをつけ、「次へ」をクリックします。



- 4 「エンタープライズ」をクリックし、「次へ」をクリックします。



V3.2 より古いバージョンからのアップグレードインストール時、現在の設定を維持する場合は、「次へ」をクリックして手順 6 へ進んでください。維持しない場合はチェックを外してから「次へ」をクリックして手順 5 へ進んでください。



Intel Unite® ソリューションのセットアップ

Intel Unite® ソリューションのインストール方法を選択してください。  
エンタープライズまたはスモールビジネスの設定で Intel Unite® ソリューションをインストールします。

☒ 現在の設定を維持

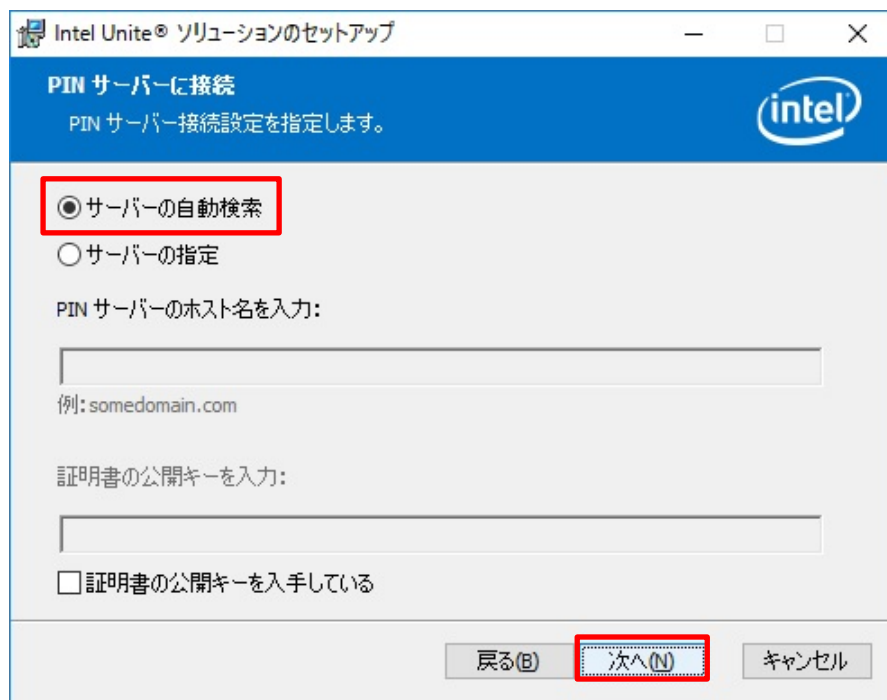
エンタープライズ: Intel Unite® ソリューションを 6 部屋以上で使用する中規模～大規模のビジネス環境や教育環境に対応しています。最高のセキュリティ、拡張可能なプラグインサポート、最も幅広いデバイス相互運用性を備えています。ご使用のネットワーク上に必要なサーバー・コンポーネントが存在しなければなりません。

☐ スモールビジネス: Intel Unite® ソリューションを 5 部屋以下で使用するスモールビジネス環境でのシンプルなインストールに対応しています。サーバー・コンポーネントは必要ありません。Windows PC および Mac をサポート。評価の目的には推奨されません (スモールビジネスのお客様を除く)。

エンタープライズとスモールビジネスのインストールには機能の違いがあります。使用可能な機能と必要なソリューション・コンポーネントの完全な比較については、ユーザーガイドを参照してください。

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

- 5 「サーバーの自動検索」をクリックし、「証明書の公開キーを入手している」のチェックが外れていることを確認し、「次へ」をクリックします。



Intel Unite® ソリューションのセットアップ

PIN サーバーに接続  
PIN サーバー接続設定を指定します。

☒ サーバーの自動検索

☐ サーバーの指定

PIN サーバーのホスト名を入力:  
  
例: somedomain.com

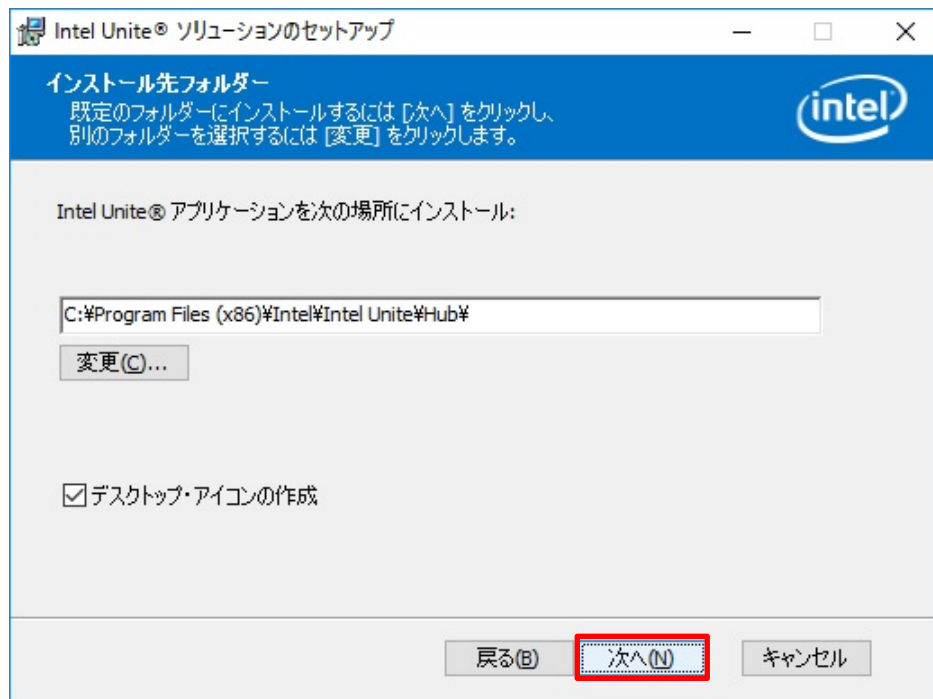
証明書の公開キーを入力:

☐ 証明書の公開キーを入手している

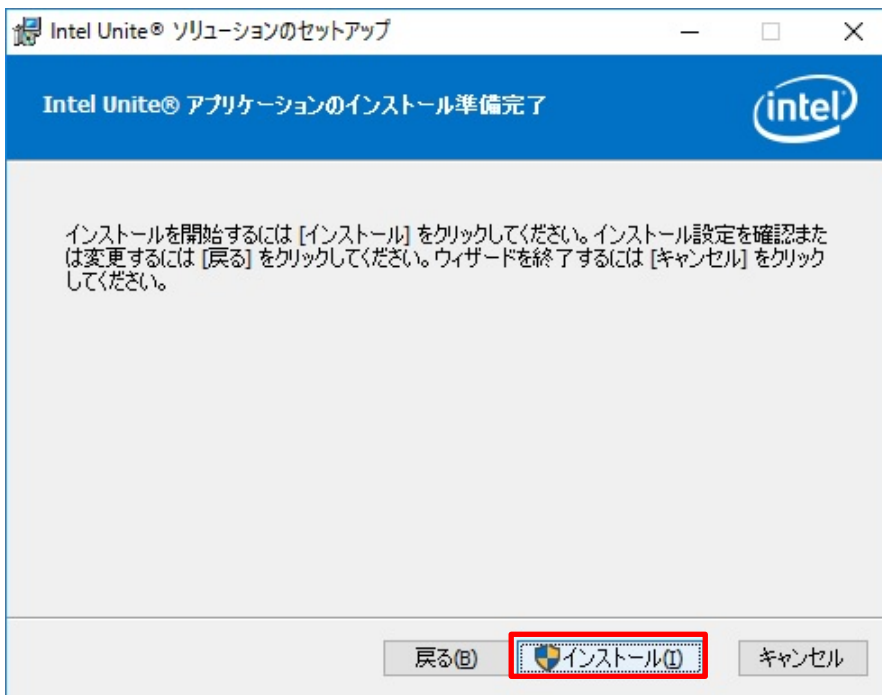
戻る(B) 次へ(N) キャンセル



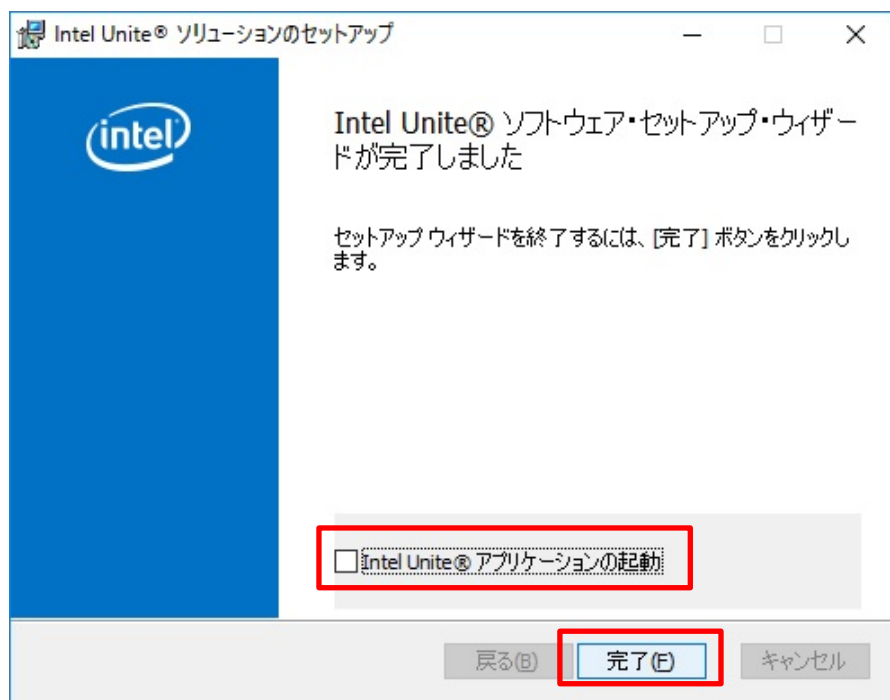
## 6 「次へ」をクリックします。



## 7 「インストール」をクリックし、インストールを開始します。



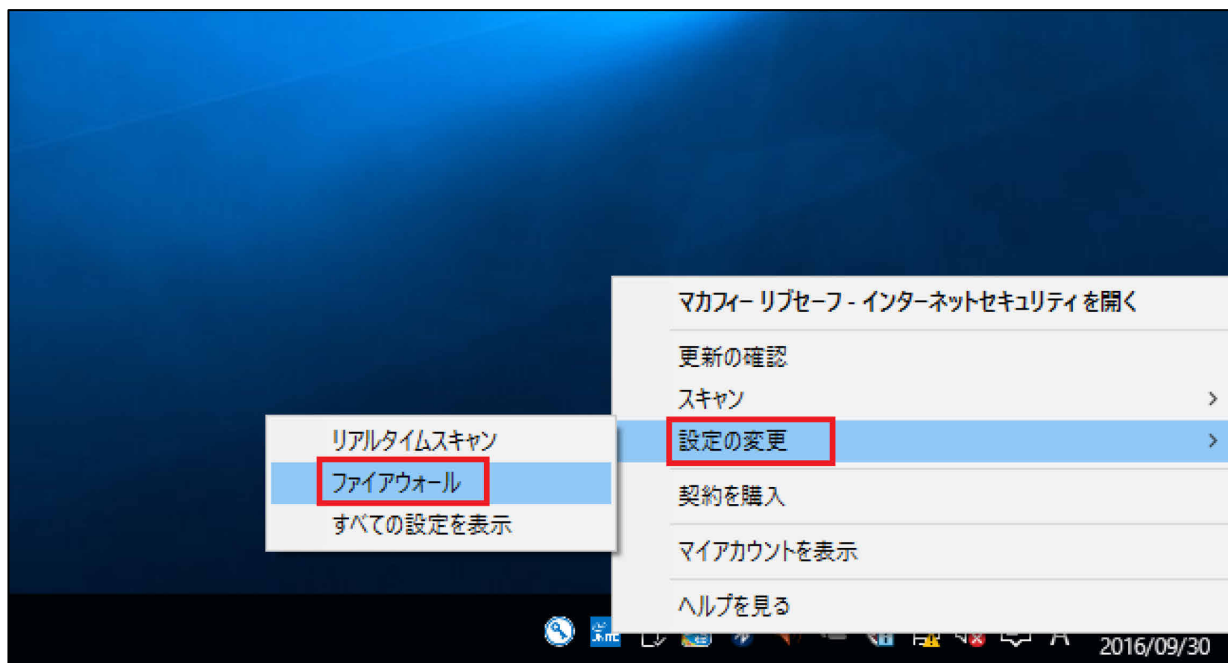
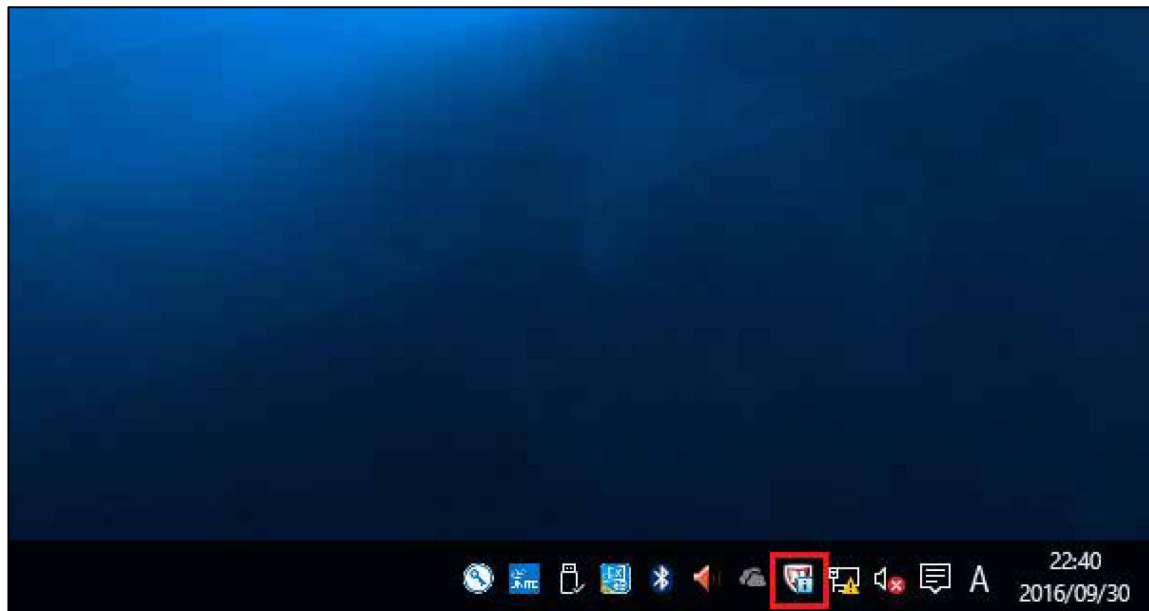
- 8 「Intel Unite アプリケーションの起動」のチェックを外し、「完了」をクリックし、インストールを終了します。



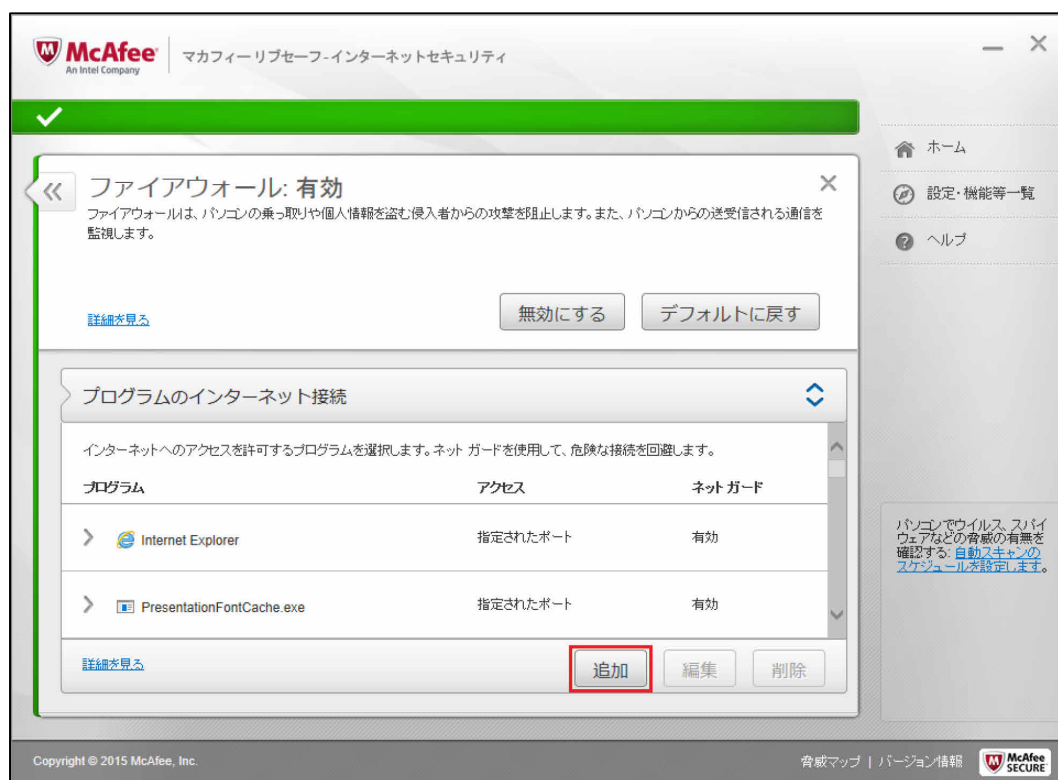
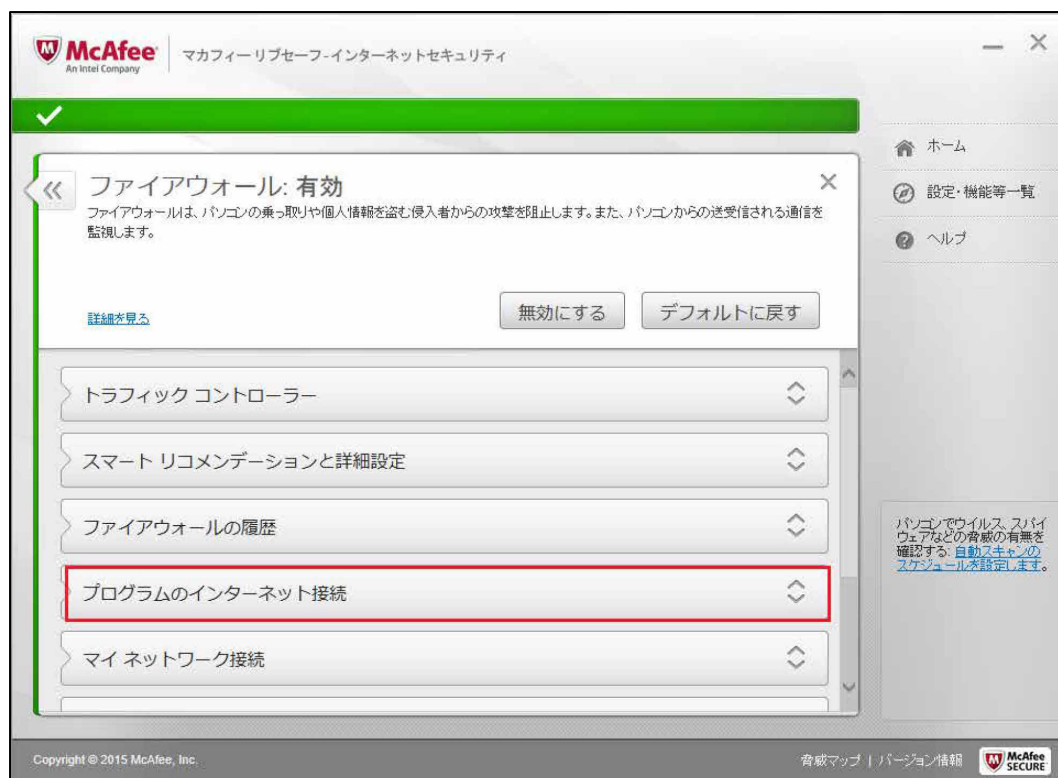
- ファイアウォールの設定

エンタープライズ・サーバーと通信するには、ファイアウォールで Intel Unite アプリケーションを除外する必要があります。Q956/MRE に標準添付のマカフィー リブセーフ インターネットセキュリティでの除外手順は次の通りです。

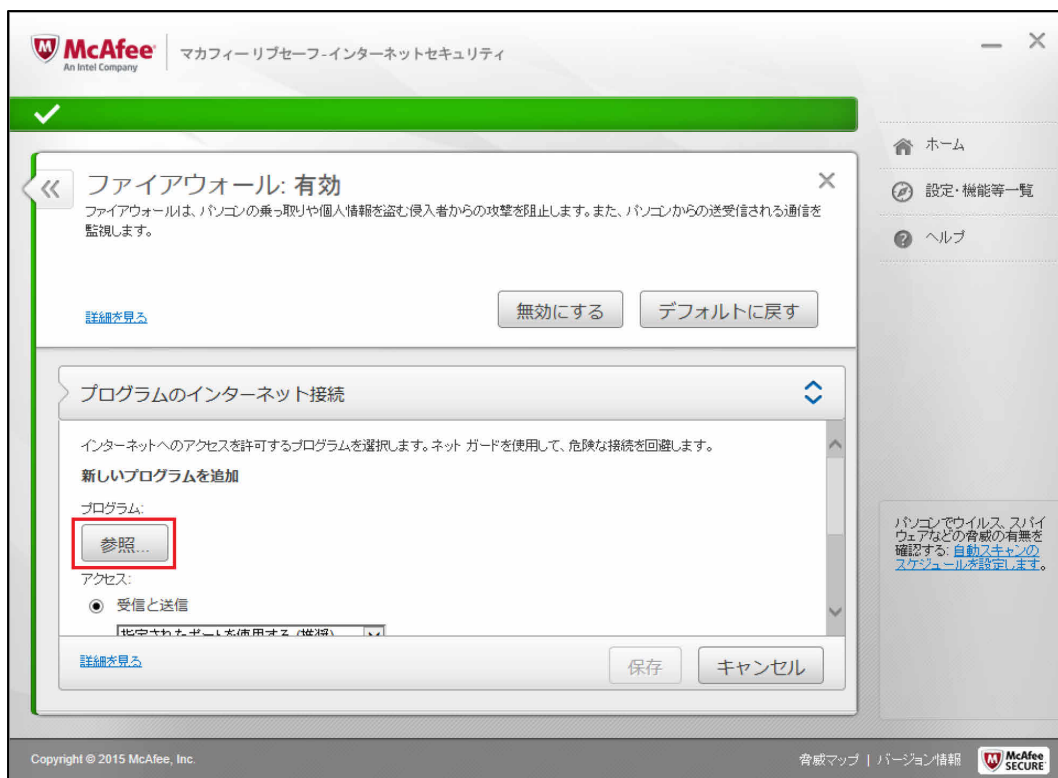
- 1 管理者権限のあるアカウントでサインインします。
- 2 タスクバーの通知領域に表示されている McAfee のアイコンを右クリックし、「設定の変更」→「ファイアウォール」の順にクリックします。



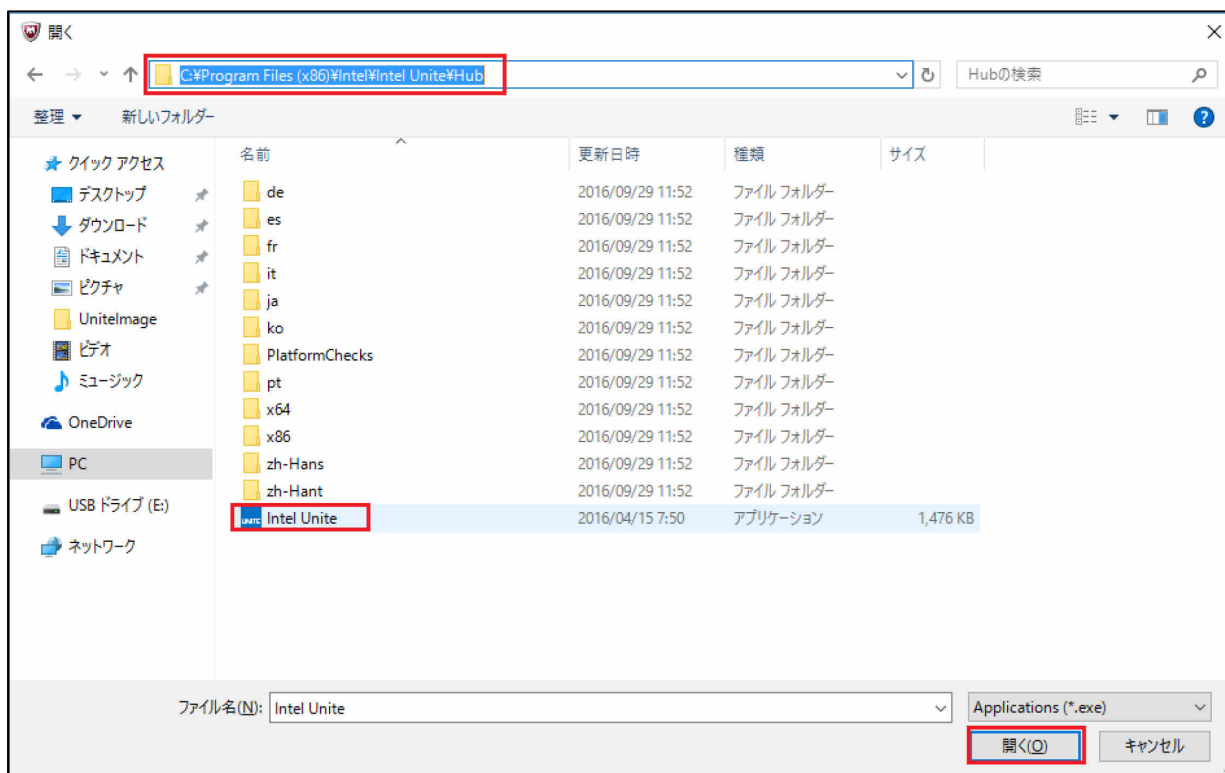
### 3 「プログラムのインターネット接続」→「追加」の順にクリックします。



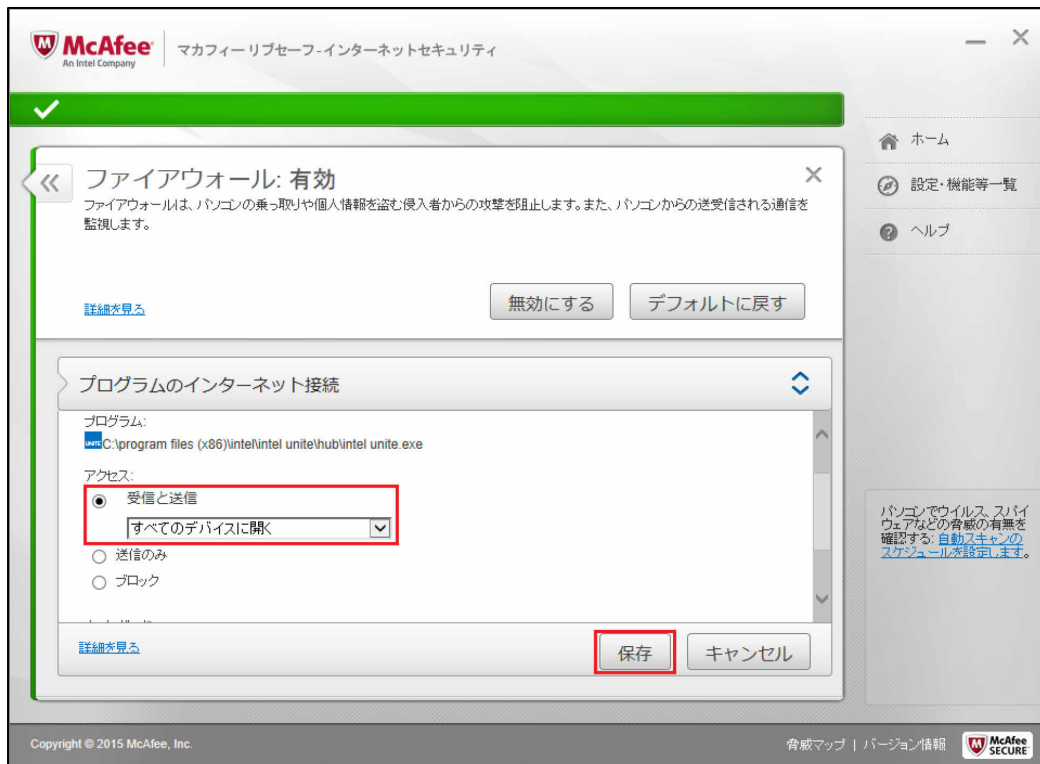
#### 4 「参照」をクリックします。



#### 5 "C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\Hub\Intel Unite" をクリックし、「開く」をクリックします。



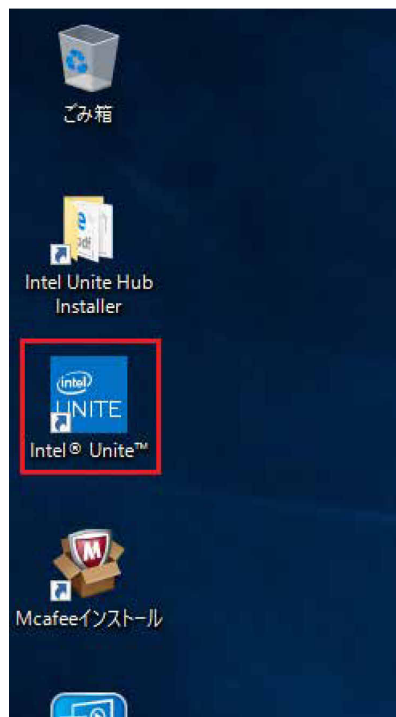
- 6 アクセスの「受信と送信」をクリックし、「すべてのデバイスに開く」をクリックして選択し、「保存」をクリックします。



- 7 Window をサインアウトし、元のアカウントでサインインし直します。

- Intel Unite アプリケーション（ハブ）の起動。

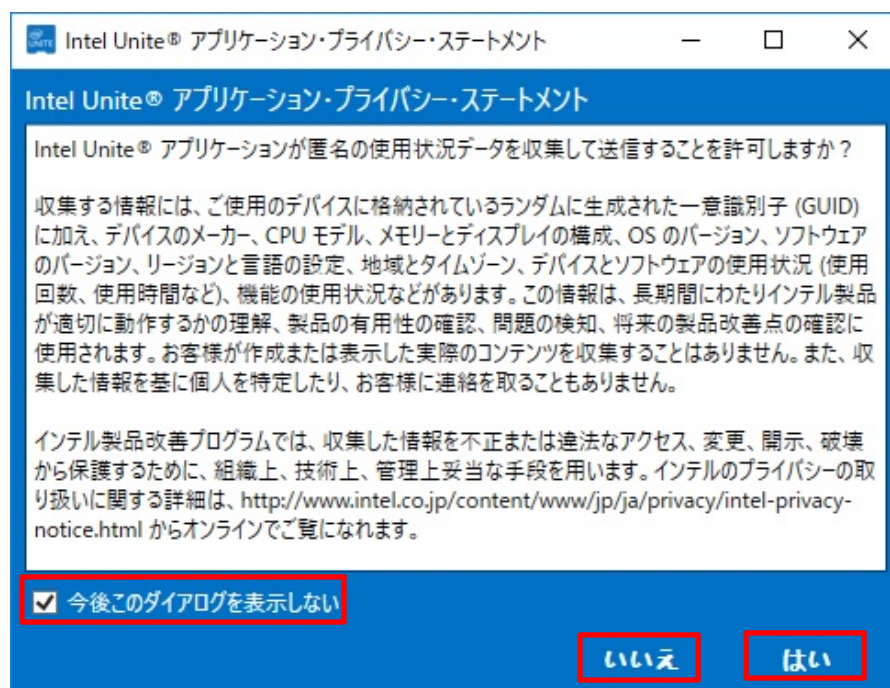
- 1 デスクトップの Intel Unite のアイコンをダブルクリックし、実行します。



Intel Unite アプリケーション（ハブ）が起動し、「Intel Unite アプリケーション・プライバシー・ステートメント」画面が表示されます。

## 2 内容を確認し、「はい」または「いいえ」をクリックします。

再度、この画面を表示したくない場合はチェックボックスをチェックしてください。



Intel Unite アプリケーション（ハブ）が起動し、エンタープライズ・サーバーと接続が確立されると、画面上に PIN（x x x - x x x の形式の6ケタの数字）が表示されます。





## Unite クライアントのインストール

クライアント PC をサーバー／ハブ PC が接続されているネットワークに接続します。クライアントはエンタープライズ・サーバーを探してチェックインできる必要があります。エンタープライズ・サーバーと通信するには、ファイアウォールで Intel Unite アプリケーションを除外する必要があります。除外すべき Unite アプリケーションはデフォルトでは下記になります。

- 32 ビット OS : C:\Program Files\Intel\Intel Unite\Client\Intel Unite.exe
- 64 ビット OS : C:\Program Files (x64)\Intel\Intel Unite\Client\Intel Unite.exe

除外手順に関しては、各クライアント PC で設定されているファイアウォール・ソフトウェアの説明書を参照ください。

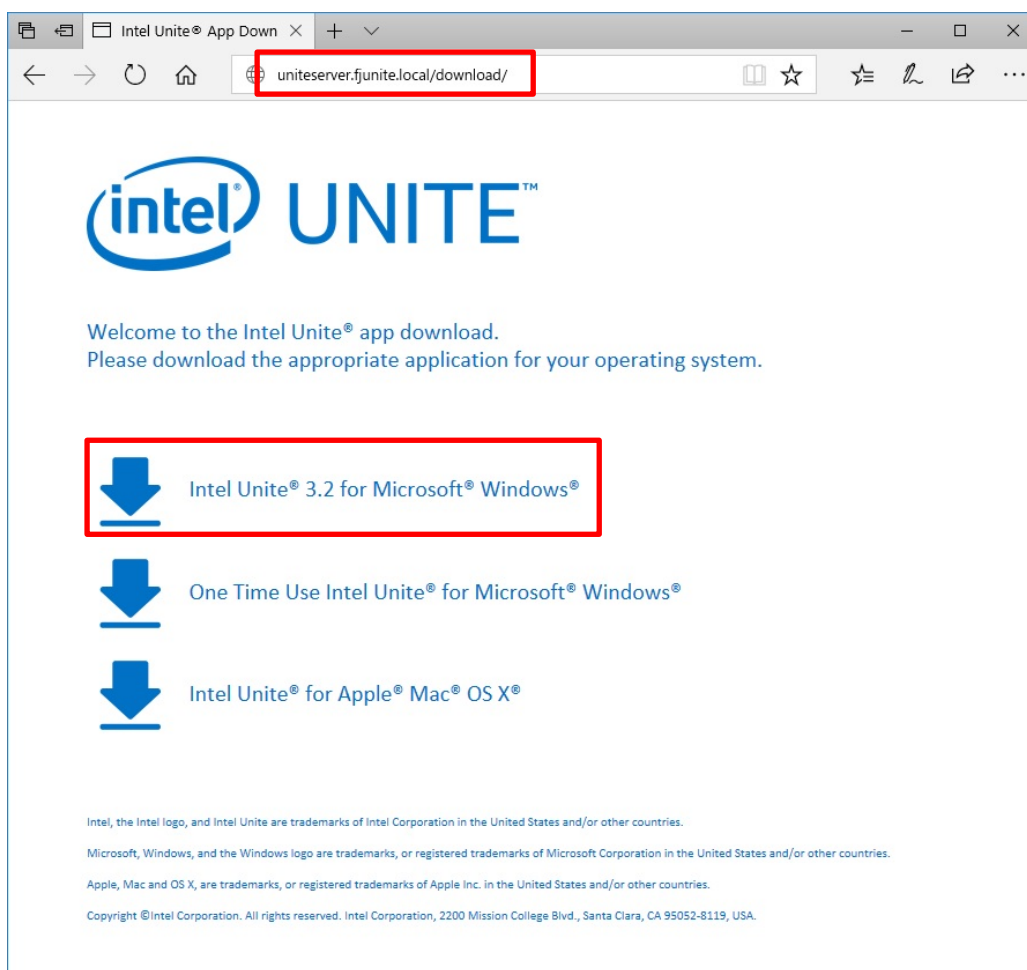
V3.2 より古いバージョンからアップグレードインストールする場合は、動作中のクライアント アプリケーションを終了させてください。

### 1 Web サイトまたはエンタープライズ・サーバーのダウンロード・ページから、クライアント・アプリケーションのインストーラー「Intel Unite Client.mui.msi」をダウンロードし、実行します。

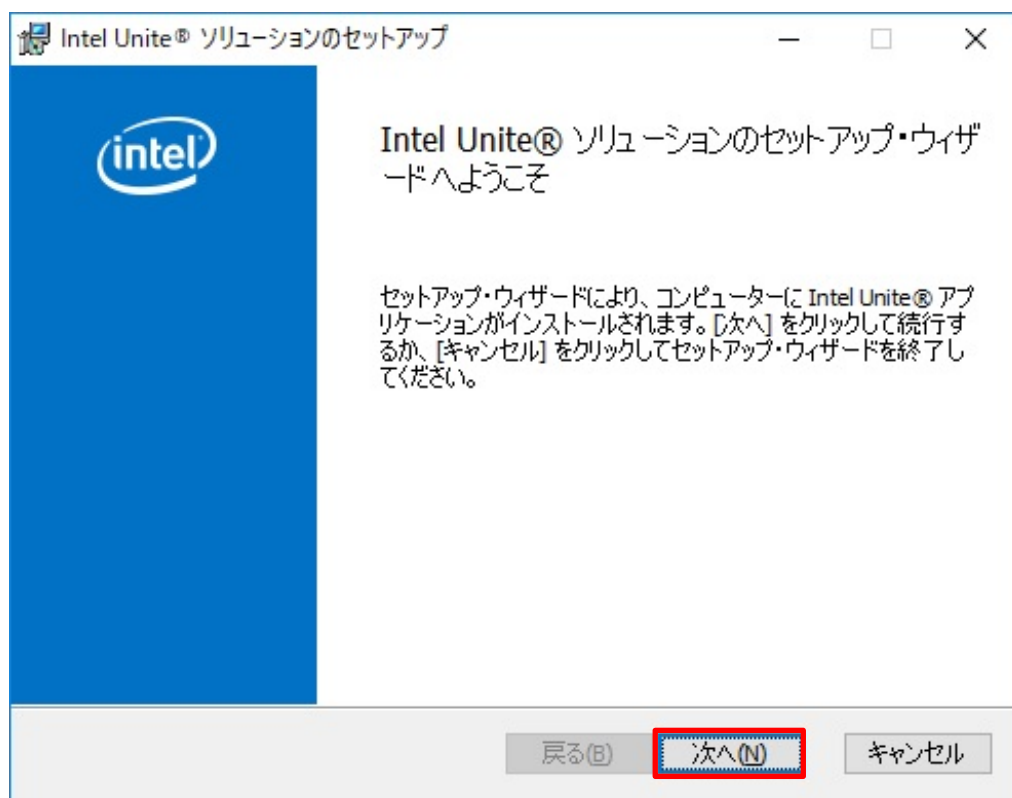
- Web サイトからダウンロードしたインストーラーでは、クライアントが接続するエンタープライズ・サーバーの指定が可能です。ただし、推奨設定は「サーバーの自動検索」となります。
- エンタープライズ・サーバーのダウンロード・ページは次のとおりです。

<http://<サーバー名>/download>

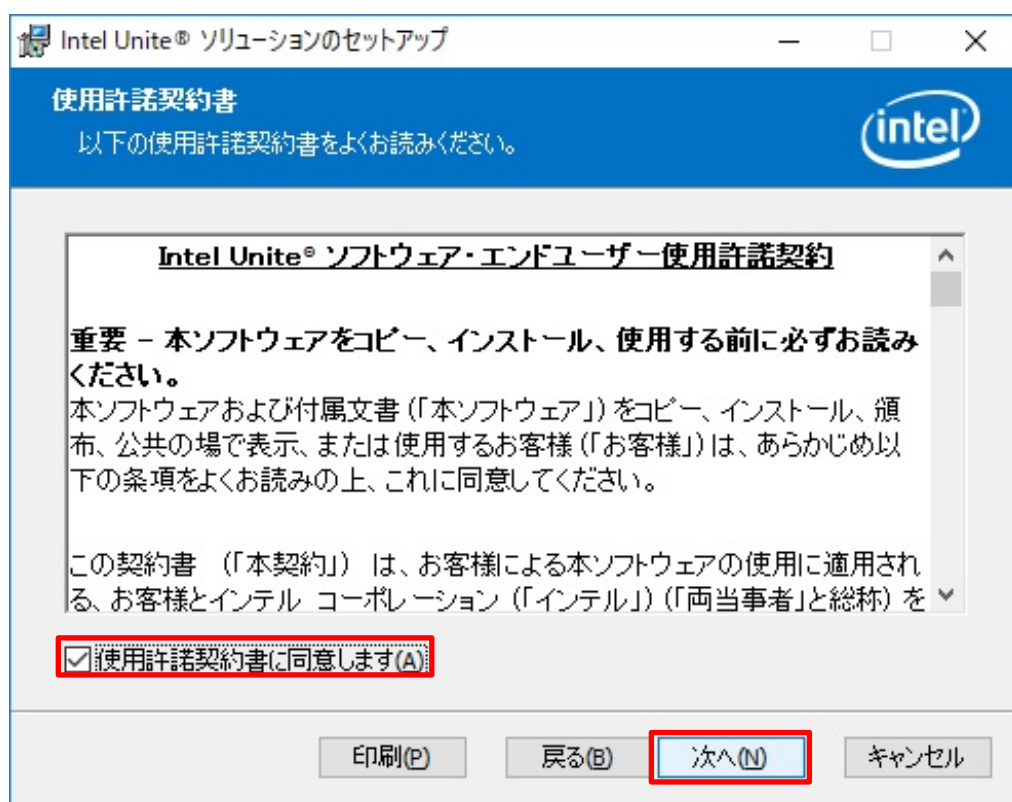
(この例では <http://UniteServer.fjunity.local/download>)



## 2 「次へ」をクリックします。

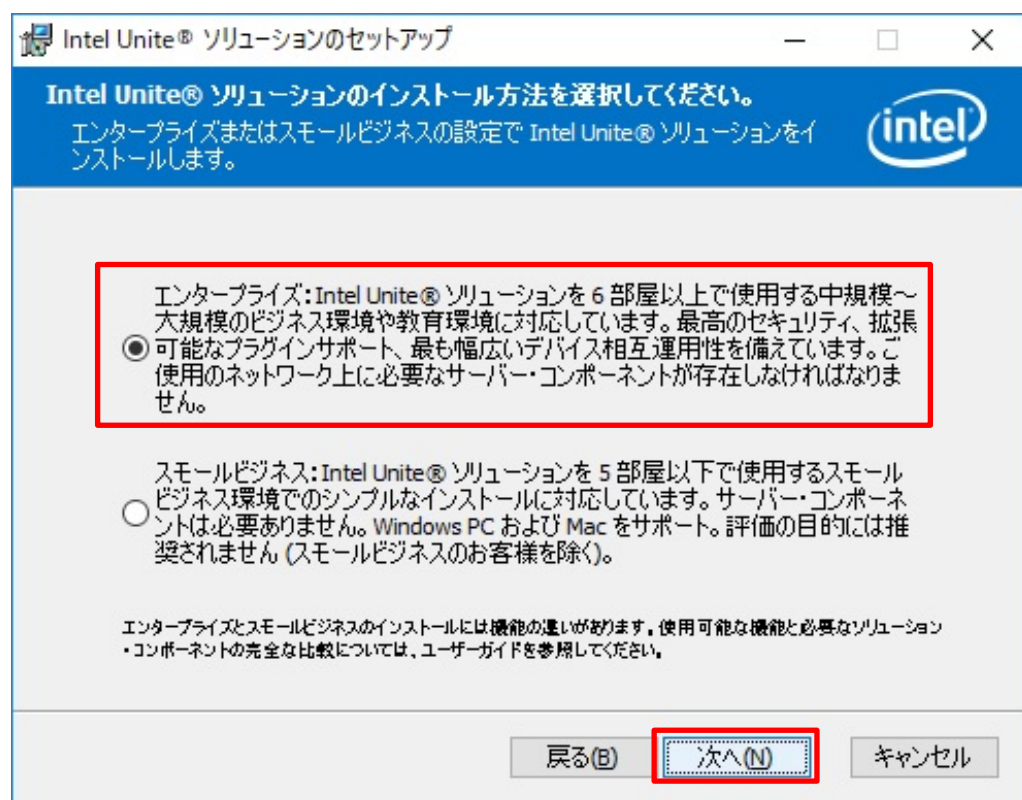


## 3 使用許諾契約書を確認し、「使用許諾契約書に同意します」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。

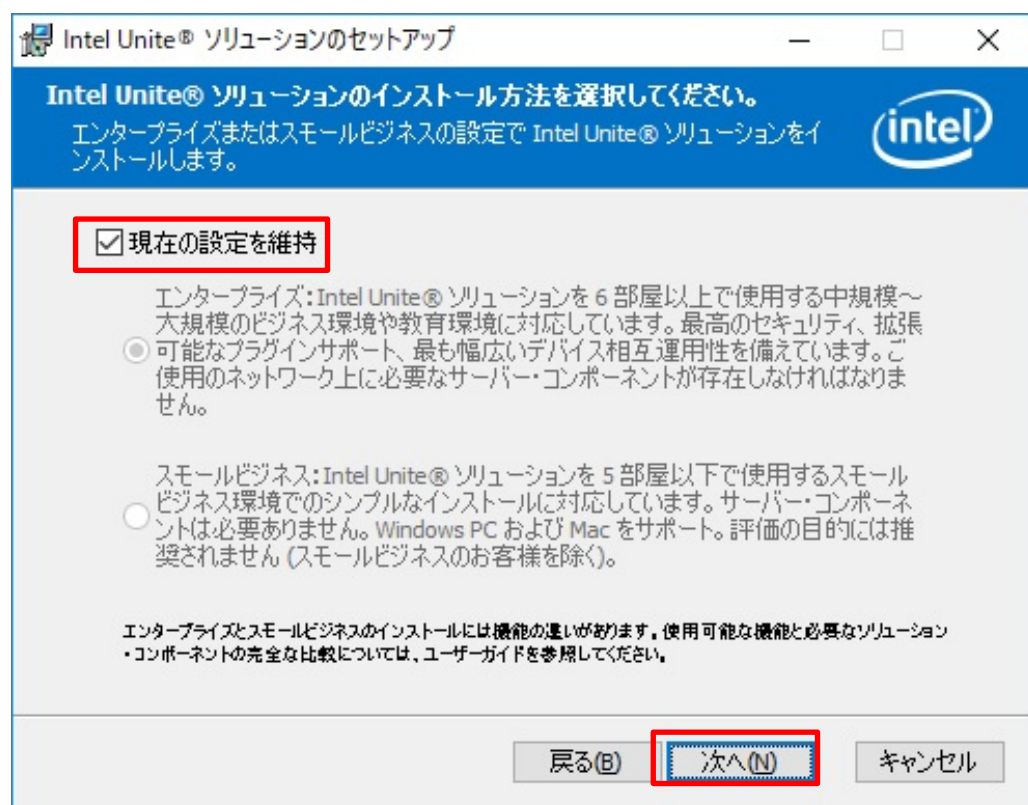


#### 4 「エンタープライズ」をクリックし、「次へ」をクリックします。

- ・ 手順 1 でエンタープライズ・サーバーのダウンロード・ページからインストーラーをダウンロードした場合、この画面は表示されません。手順 6 に進んでください。



Web サイトからダウンロードしたインストーラーを使用して、V3.2 より古いバージョンからアップグレードインストールを行った場合、以下の画面が表示されます。現在の設定を維持する場合は、「次へ」をクリックして手順 6 へ進んでください。維持しない場合はチェックを外してから「次へ」をクリックして手順 5 へ進んでください。



- 5 「サーバーの自動検索」をクリックし、「証明書の公開キーを入手している」のチェックが外れていることを確認し、「次へ」をクリックします。

Intel Unite® ソリューションのセットアップ

**PIN サーバーに接続**  
PIN サーバー接続設定を指定します。

☒ サーバーの自動検索  
☐ サーバーの指定

PIN サーバーのホスト名を入力:  
例: somedomain.com

証明書の公開キーを入力:

☐ 証明書の公開キーを入手している

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

- 6 「次へ」をクリックします。

Intel Unite® ソリューションのセットアップ

**インストール先フォルダー**  
既定のフォルダーにインストールするには [次へ] をクリックし、別のフォルダーを選択するには [変更] をクリックします。

Intel Unite® アプリケーションを次の場所にインストール:

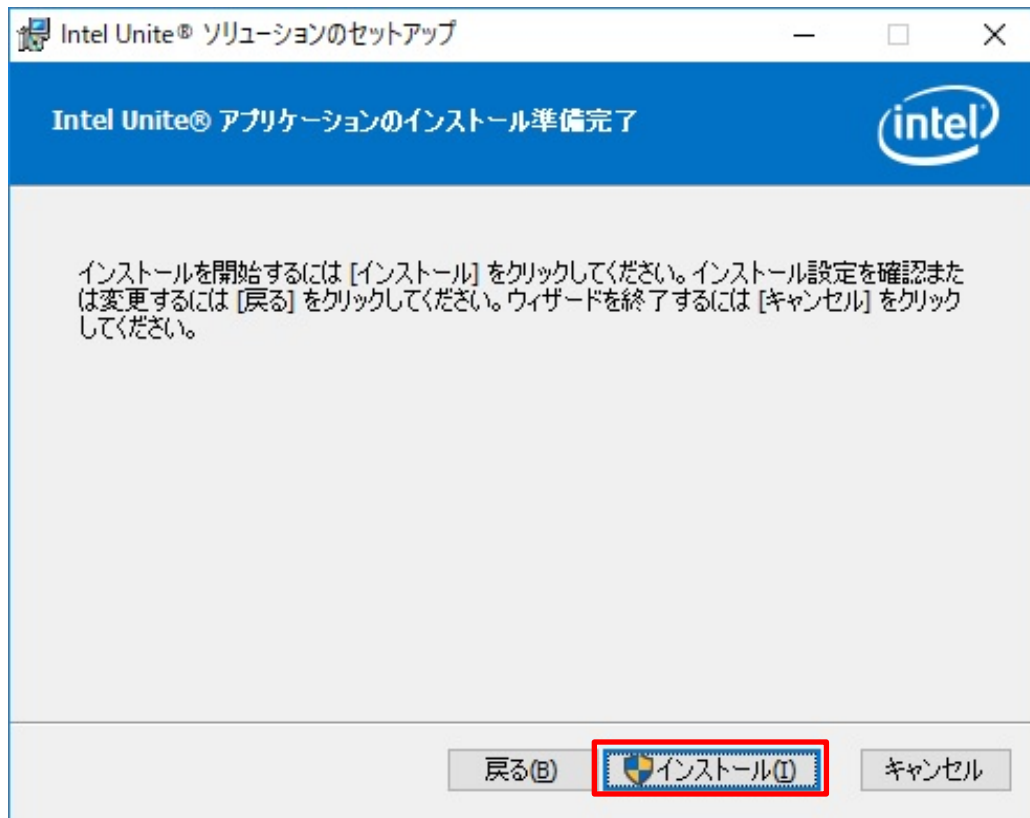
C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\Client\

変更(C)...

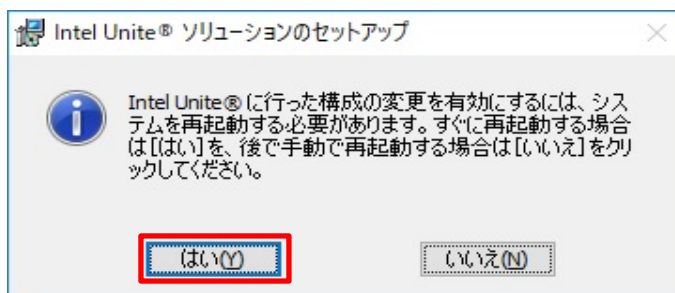
☒ デスクトップ・アイコンの作成

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

## 7 「インストール」をクリックします



## 8 再起動を要求された場合は、「はい」をクリックします。



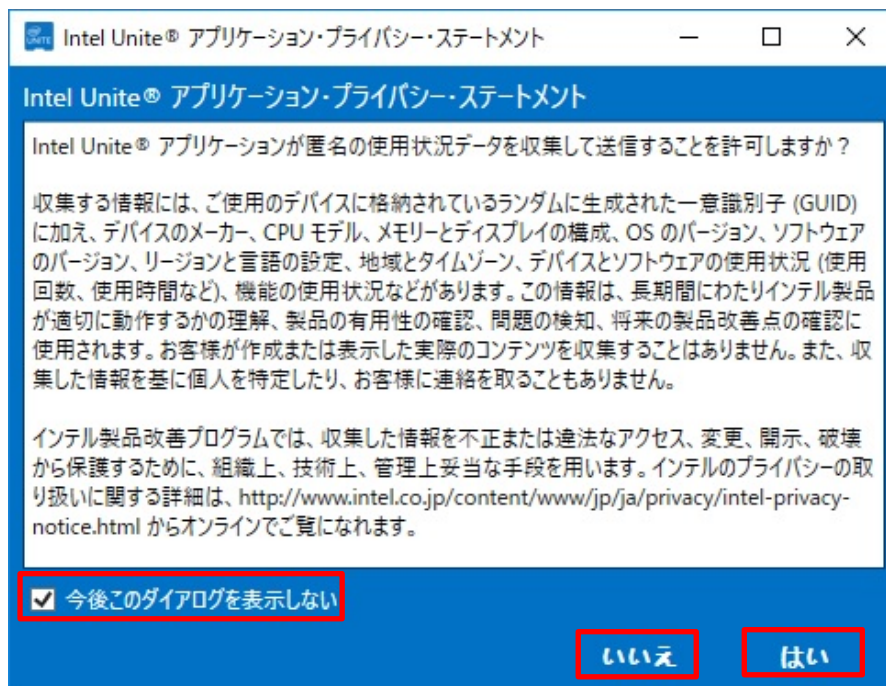
## 9 デスクトップの Intel Unite のアイコンをダブルクリックし、実行します。

Intel Unite アプリケーション（クライアント）が起動し、「Intel Unite アプリケーション・プライバシー・ステートメント」が表示されます。

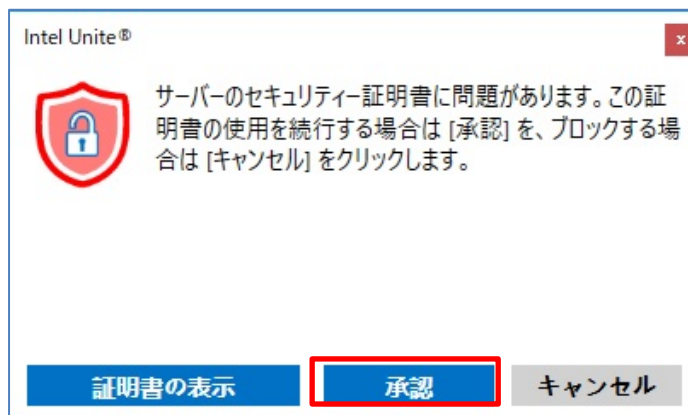


## 10 内容を確認し、「はい」または「いいえ」をクリックします。

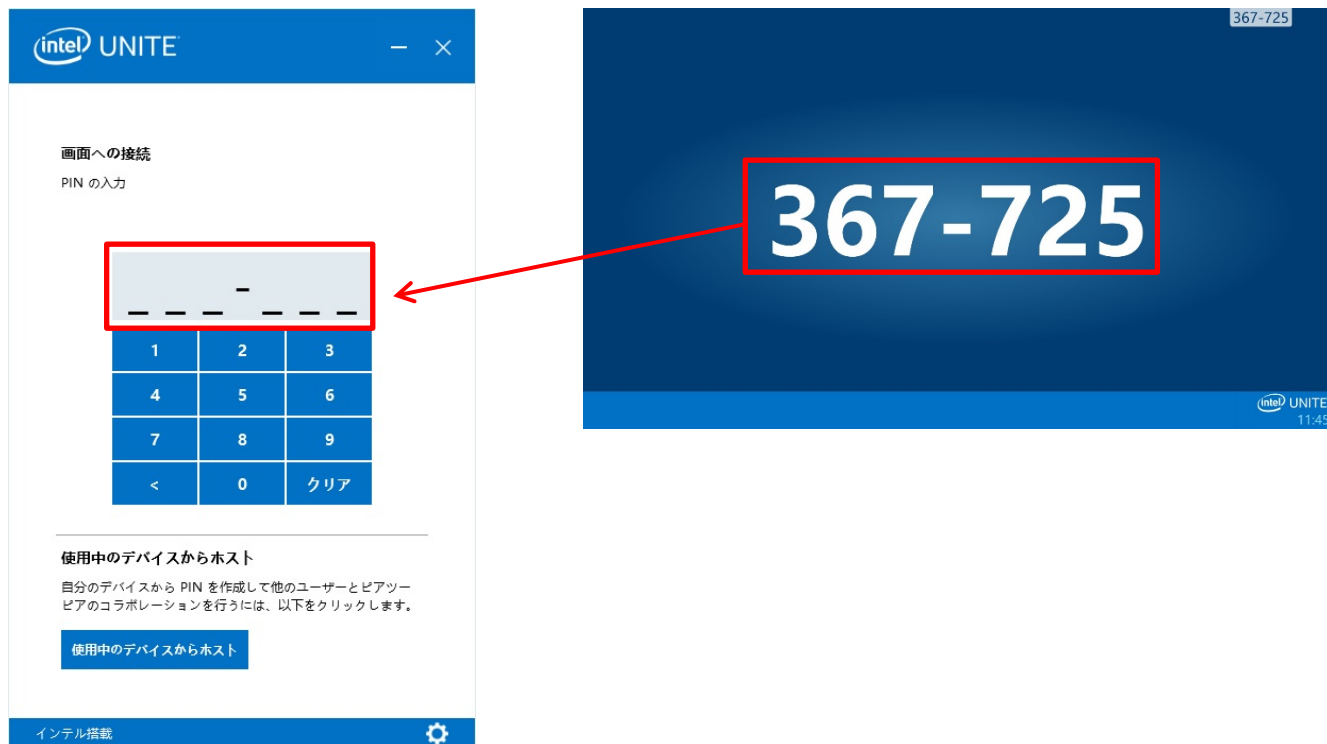
再度、この画面を表示したくない場合は「今後このダイアログを表示しない」のチェックを付けます。



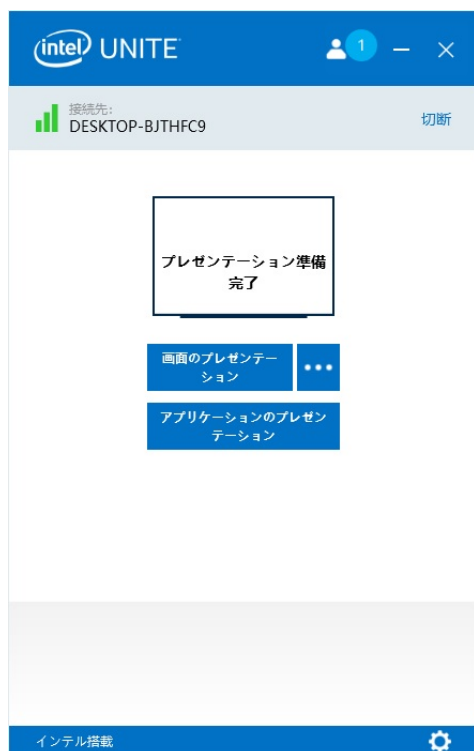
## 11 「サーバーのセキュリティ証明書に問題があります。・・・」という画面が表示された場合は、「承認」をクリックします。



- 12 ハブ PC の画面上に表示された PIN（6ケタの数字）を入力します。PIN は一定時間ごとに更新されますので注意が必要です。



ハブ PC との通信が確立されると、プレゼンテーション準備完了の画面が表示され、使用準備が完了します。



Unite アプリケーションの使用方法については、「Intel Unite ソリューション V3.2 ユーザーガイド.pdf」をご覧ください。



---

Intel Unite® V3.2 ソリューション構築ガイド

B6FK-0721-01 Z0-01

発行日 2018年3月

発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。